

中P90

1970/1000

理學士山上萬次郎

濱田俊三郎

合著

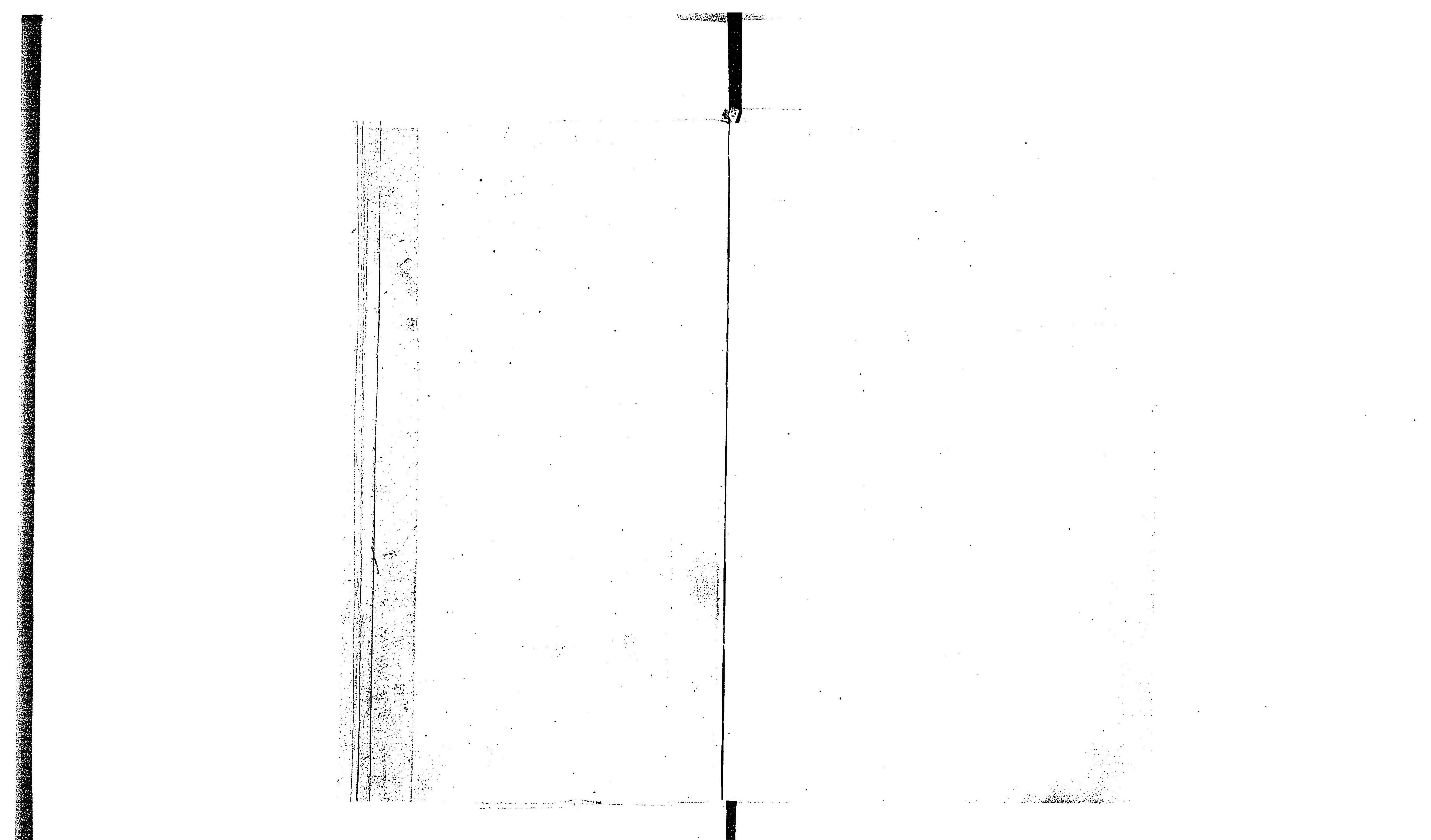


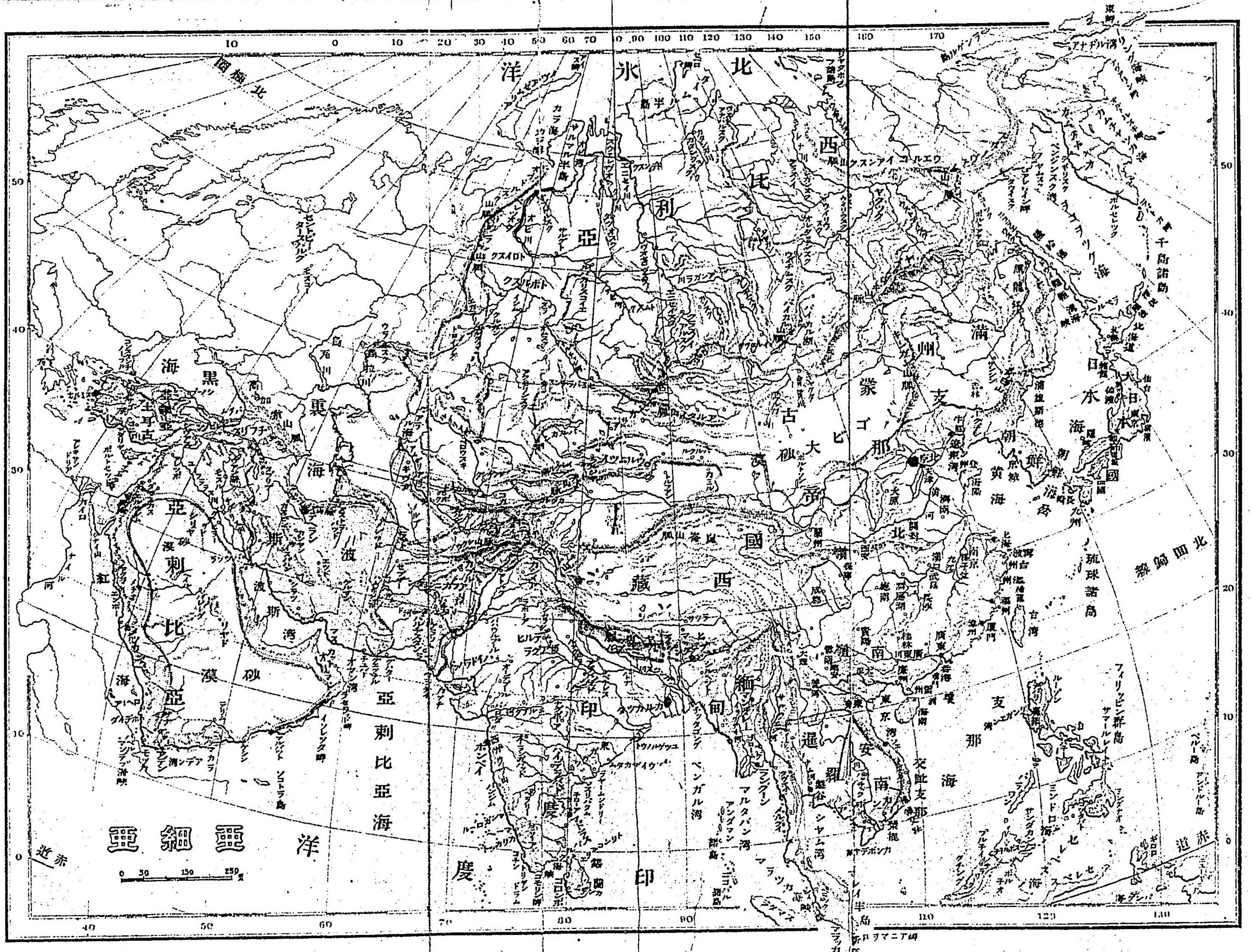
新撰萬國地理全

東京

富山房發兌



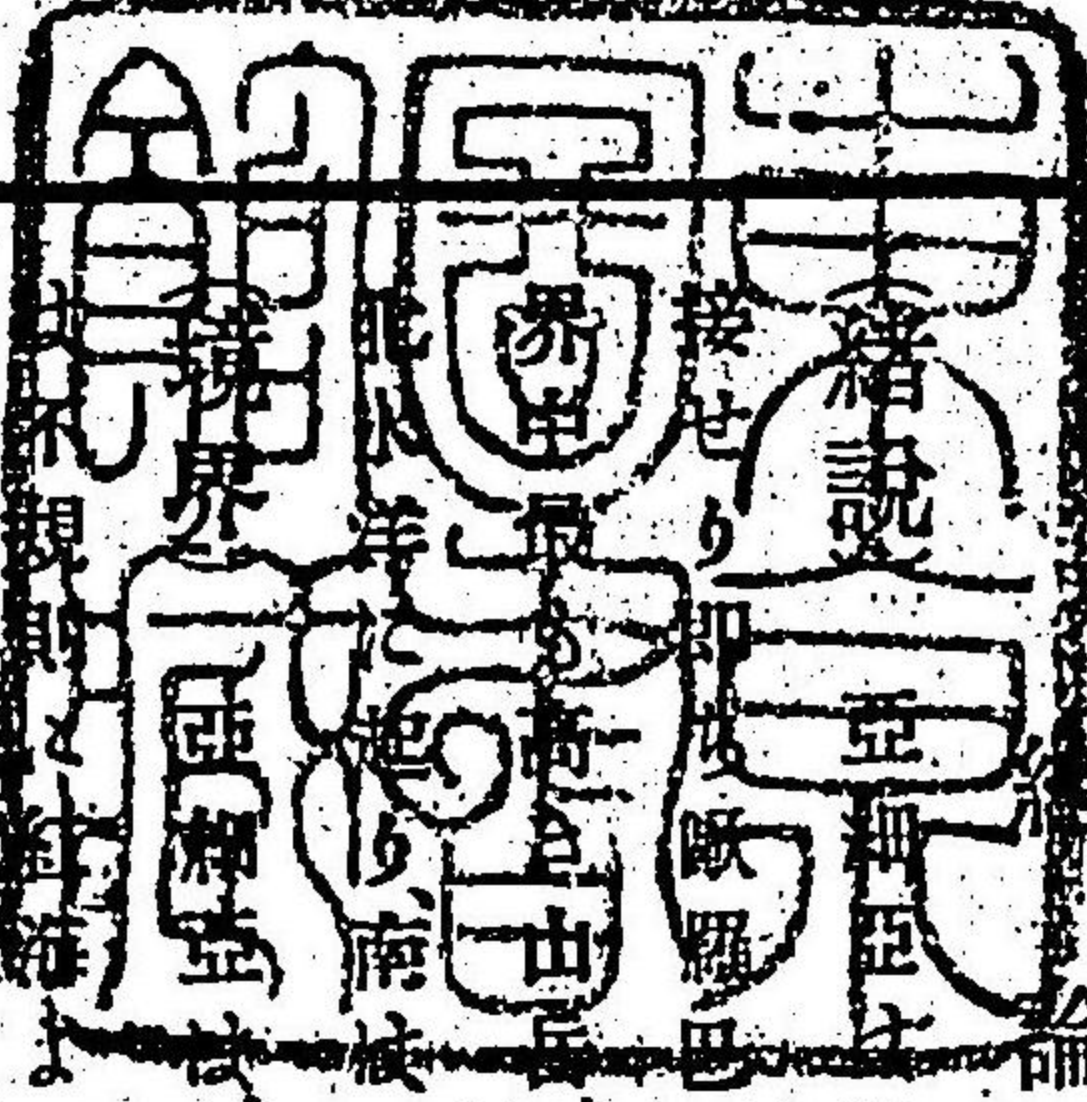




新撰萬國地理上卷

理學士 山上萬次郎 合著

第一篇 亞細亞



諸大陸中面積最も大にして地勢最も高し又各大州と最も相近
 接し及歐羅巴及亞弗利加と相連り北亞米利加と相距ると數哩に過ぎず且世
 界中最も高山山嶺最も深き窪地を有し氣候の差異物産の種類最も多く其地北は
 北極洋に連り南は赤道に達し極寒極熱の帶を有し國語の種類亦多しとす。

(形状及廣袤) 亞細亞は四角形の大陸にして東西五千九百九拾哩南北五千三
 百五十哩あり全面積千七百五拾萬方哩にして地球上陸地の三分一を占む。

二
(海岸線) 亞細亞は、其兩邊に大半嶋を有す、其灣は又商業上頗る價值あるものとす。蓋し大河皆之に注ぎ、灣より内地に至るとを得せしむるを以てなり。亞細亞の海岸線は、長さ五萬一千哩あり、平均三百三十七方哩に付、海岸線一哩とす。亞細亞は其半嶋頗る大なるにも關せず、其海岸線は亞弗利加を除き、他の諸大陸に比して短しとす。

(南海岸) 亞細亞に於ける半島の性質は、南方に於て特に其著しきを見る。其三大半嶋は、熱帶圏中に跨り、三大灣は深く陸地に侵入せり。三大半嶋を亞拉比亞、印度、及び東印度と爲し、三大灣をベンガル灣、アラ比亞灣、及び波斯灣と爲す。

(東海岸) 東方に在りて、亞細亞の半嶋的性質ハ大に減すと雖も、其太平洋海岸には、三大半嶋、凸圓形の三陸地、及内海を包有する所の三嶋あり。其半嶋は、チムクテ(Tchukotka)カムチヤツカ(Kamchatka)及朝鮮にして、凸圓形陸地は東部、西北利亞、支那及交趾支那これなり。其嶋嶼は、オロツク(Ochotsk)海を包有する千嶋群嶋、日本海、及び黄海を包有する日本諸嶋、及び支那海を包有するフィリッピン群嶋(Philippines)なりとす。而して此等の諸嶋は、對面の海岸と著しき平行を爲せるを見る。

(西海岸) 其西海岸は、即ち地中海、黒海、及裏海に面する所にして、其大半嶋を小亞細亞と爲す。大灣一もなく、又嶋嶼は唯サイプラス(Cyprus)あるのみ。

(北海岸) 北氷洋に面する海岸は、凸凹極めて少し、其斜面北方に向ひ、太陽の光線に背き、氷海に面するを以て商業なく、旅人の來る賊に希なりとす。タイミル(Taimyr)は、北海岸に於る唯一の半嶋にして、オビ(Oby)灣は、唯一の重要な灣とす。

(海峡及地峽) 亞細亞の海峡は、二三を除くの外、皆世界の航路上最も必要なるものにして、ベーリング(Bering)海峡の如き、ヘルマンテン(Bab-el-Mandeb)海峡の如き、ダーダネルス(Dardanelles)海峡、ボスホルス(Bosphorus)海峡の如き、マラッカ海峡、サンダ海峡の如き、オームズ(Omuz)海峡の如き、皆然りとす。クラ(Kra)地峽は、マレー半嶋と本土とを連結するものにして、長さ八十三哩なり。

(島嶼) 亞細亞の嶋嶼は、大にして其數亦頗る多し、特に東南に於ては、世界の最大群嶋を見る。亞細亞の諸嶋嶼は、合して面積百萬方哩以上にして、全大陸の十分六を占む。其地位性質より、之を分ちて四種と爲す。(一)北氷洋の諸嶋、(二)太平洋の諸嶋、(三)印度洋の諸嶋、(四)地中海の諸嶋是なり。

- 一 北氷洋に於ては、唯ニールサイベリヤ (New Siberia) 及 ヴーア (Bear) の無人群島あるのみ。
- 二 太平洋に於ける諸島 (一) 樺太 (二) 日本諸島 (三) 臺灣 (四) 琉球島 (五) フィリピン 及 サトウ諸島
- 三 印度洋に於ける諸島 (一) 錫蘭 (二) アンダマン 及 ニコバル 諸島 (Andaman and Nicobar) (三) ラッコナブ 及 ビスマヤナ 諸島 (Laccadives and Maldives)
- 四 地中海の島嶼 (一) サイプラス (二) ロード (Rhodes) (三) コス (Kos) (四) サモス (Samos) 及 シチリア (Sicily)

(地勢) 亞細亞の地勢は著しく反對の現象あり、即ち此處に世界最高の山岳あれば、彼處に世界最低の土地あり、又東西南北四面に向ふ所の四斜面あり、大陸の中心點はヒマラヤ山とカラコラム山と相合する所の山脈是なり、三大平原及三大高原、此山脈より車輻の如く發出す。

一 亞細亞に於て、又世界に於て、最高の山をゴウサンカー (Gaurisankar) 即チヤクト、エベレスト (Mount Everest) と爲す、高さ二萬九千〇〇二呎あり。

二 世界最低の土地は死海の湖邊にして、死海の水面は地中海の水面より低きと千三百拾二呎なりとす。又印度の西部に在る一地は、頗る低く、西南の時風吹く明節には、海水

之に漲ると云ふ。

(高原) 亞細亞は高原の大陸と謂ふべし、蓋し地球上最も大にして最も高さ土地此大陸に存在し、殆ど全面積の五分二を占む、この高原は、小亞細亞及亞拉比亞と、一大帯を作り、東岬に至る、分ちて東部亞細亞の高原と、西部亞細亞の高原の二と爲すべし。

(東部高原) 此高原はヒマラヤ山より北東四千五百哩に擴がる、最も高さ處を西藏の高原と爲す、世界最高のものなり、東部高原は、平均壹萬八千呎の高さ、即ち三哩餘の高さを有す、西藏高原の崑崙山脈とヒマラヤ山脈との間に横はり、其西北をパミール (Pamir) 高原と爲す、又其北に、蒙古高原あり、此高原中にゴビ (Gobi) 砂漠あり、四千呎の高さを有す、其最も低き所は、海面より高きと二千二百呎なりとす。

(西部高原) 此高原は、ヒンズーナーシュ及スリヤン山脈 (Hindoo Koosh and Suliman mountains) に起り、西方小亞細亞の高原に終る、イラン (Iran) 高原クルヂヌタン (Kurdistan) 高原アーメニア (Armenia) 高原、小亞細亞高原、ハ其主要なるものとす。

(山岳) 亞細亞に於ける山岳ハ、概して西南より東北に走り、特に平行山脈多しと

す此山系の本源ハ即ちヒマラヤ及カラコラム (Karakorum) にて作れる中心點にして之より東ニ崑崙山及天山を出し、西方にヒンドークーシユ山脈、南方にスリヤン山脈を出す。其他重要なる山脈を擧ぐれば、アルタイ山脈 (Altai) キンガン山脈 (Khangai) アーメニヤの諸山、トラス山 (Taurus) レバノン諸山 (Lebanon) 及印度のガッツ連山 (Ghats) と爲す。レバノン、ガッツ、及スリヤン山脈ハ南北に走れるものなり。

(平原) 亞細亞の平原ハ凡て大陸の周邊に在りて、中央ハ悉く高地ありとす。平原の總面積殆ど全大陸の三分一にして、概して皆大河の下流に沿へる土地なり。豊饒あるもの、東部南部に於て三あり、瘠鹵なるもの、西方及北方に於て三あり。最大なる平原をサイベリヤの平原と爲す、殆ど全亞細亞の七分一を占ひ、左に平原の表を掲ぐ

- 一、支那低地 太平洋に臨み、世界に於て最も人口多く、又最も肥沃なる地方なり。
- 二、印度支那の低地 東京灣より暹羅灣に横び、南方群島に面し、狭小なれども、頗る豊饒なり。
- 三、英領印度低地 ガンガス (Ganges) ブライマポトラ (Brahmaputra) 及インダス (Indus) の三大河之を貫流し、四方高地を以て圍繞せり。

四、シリア比臣の低地 トリス (Taurus) 及ユーフンター (Euphrates) の河邊及波斯灣の海岸地方より成る、概ね砂漠なり。

五、土耳其斯坦の平原 深き低窪にして、裏海、アラハ (Aral) 海及バルカシク (Balkhash) 湖は即ち此に在り、概ね一帯とも塵せざる砂漠地方なり。

六、西比利亞平原 殆んど西比利亞の一半を占め、オウ (Oul) イニシム (Inish) 河邊及エニサイ (Yenisei) ナナ (Lena) 河邊是なり。北方ハタundra (Tundra) にして、都府村落なく、唯海馬及野獸之に棲息し、遊獵沓寒の空野なりとす。

七、ペグ (Pegn) 平原 マーサナ (Maraban) 湖に臨む。

(砂漠) 亞細亞大陸ハ砂漠の一帯、其西南より東北に貫けり。此大半は多く無雨にして、サハラ (Sahara) の砂漠の連續したるものと如し。左に此帯の重要なる區別を掲ぐ。

- 一、シリア砂漠 (Syrian Desert) 二、メソポタミアの砂漠 (Desert of Mesopotamia) 三、亞比臣大砂漠 (Great Arabian Desert) 四、大鹽原 (Great Salt Steppes) 五、タラン及サヘン (Deserts of Maktan and Saisan) 六、チア (Thar) 七、ゴビ砂漠 (Desert of Gobi)

(河流) (一) 亞細亞の河川ハ東半球に於て最大なるものなり。その長流ハ皆源を中

中央大高原に發し、北東南に流れ、大洋に注ぐ、然れども又大陸的流域ありて、其水の決して海に注がざるあり、抑も亞細亞の河流に、二の特色あり、大陸の中心より四方八方に流出すると、其一なり、對河を有すると、其二なり、其第一、下の三理由より來る、即ち(一)亞細亞の高原の、中央に在ると、(二)其高原を圍む山脈の、皆非常な高く、暖地に於ても、其高さ恆雪界の上にあるを以て、水の無盡藏を有すると、(三)中央高原の周圍に、廣漠なる平原を有すると、是なり。

(河流) (一)亞細亞の北に大河四あり、オビ(Ob)ニニサイ(Yenisei)レナ(Lena)及黒龍江是なり、黒龍江を除くの外、皆一年の中七ヶ月乃至九ヶ月間の氷結す、東南に於て、大なるもの二あり、黄河及揚子江是あり、南方に於て大なるもの八あり、皆南方の海に注ぐ、メコン(Mekong)サルヘン(Salween)イラワヂイ(Irrawaddy)三者印度支那に在り、グラマブートラ、ガンデス、インダス(印度にあつ)タイグリス、ユーフレーツ(亞細亞土耳其に在り)是なり。

(大陸的流域) 歐羅巴を除き、其他の大陸、皆内地流域(Inland Basin)を有し、其河水の決して海に注がず、殊に亞細亞に於るもの、頗る大にして、今單にオビ砂漠の西

方タリム河(Tarim)之に流るゝ土耳其斯坦低地のみを以て、其面積を考ふるも、尙佛蘭西、西班牙、日耳曼、英吉利を合したる廣さあり、况や歐羅巴に跨がれる亞細亞の大陸的流域の、其最も低き處の、裏海なり、全面積を數ふれば、四百萬方哩を蔽ひ、歐羅巴より大なると三拾萬方哩なりとす。

(湖沼) 亞細亞の湖沼多く、中央高地の北に在り、而して其湖沼の、東方に至るに隨ひ、次第に其高度を増し、恰も階段と爲すが如き、特に注意すべき點ありとす。

方タリム河 湖七百八十哩
カスピ海 湖七百八十哩
バルカス 湖七百八十哩
アラル海 湖七百八十哩
カスピ海 湖七百八十哩
バルカス 湖七百八十哩
アラル海 湖七百八十哩

西藏高原に於て、大湖多く、其最も著名なるものを、ラングリノル(Langrinor)と爲す、其他の小湖の、他の高原即ち、デカン、アルメニヤ、小亞細亞の如き地方に散布せり、土耳其斯坦低地に於て、最大なるものを、ロブノル(Lobnor)と爲す、又東方大河に沿て、湖沼頗る多し、雖ども此等の單に河流の一部として見るを得べし。

(氣候) 亞細亞の多くの氣候を有す、蓋し此大陸の、其面積頗る廣く、赤道より北極十

二度の内に擴がるのみならず、又其高低頗る甚だしく、最も低き處の海面より低きと八十五呎、最も高き處は海面より高きと二萬九千〇〇二呎、及ぶを以て、緯度高度共に氣候に變化を與ふると多く、或る處は酷熱乾燥の氣候を有し、他の處は酷熱濕潤の氣候を有し、又最も寒冷なる處に至りては、冬時零度の下八十五度華氏に達す。要するに全大陸の温度は、三點より觀察するを要す、(一)南より北に至るに隨ひ、寒冷となる、(二)西方より東方に至るに隨ひ、極端となると、即ち夏時酷熱にして冬時極寒とある、(三)非常に低き處あり、又非常に高き處あると、即ち熱帶植物の生長する處より、荒漠不毛の雪際に至ると、此三點より觀察すれば、亞細亞は寒暑頗る甚だしき、即ち極端の氣候を有する大陸なることを知るべし。

(降雨) 亞細亞は降雨の點に於ても、亦著しく反對を現し、地球上最も乾燥せる地方も、最も濕潤なる地方も、此大陸に在り、即ちアラビヤ海、北カラカム砂漠に於ては、年中雨を見ず、又アナムの高地に於ては、一ヶ月の降雨五十時に達す。又印度及印度支那の南方斜面に至りては、其降雨頗る多く、此大陸の全降雨量の一半に及ぶ。

(植物) 亞細亞の植物は、氣候と全しく其種類頗る多く、其反對も亦著しきなり、即ち

タンポラ地方に於ける長さ二三呎の矮柳より、最も高き榕樹に至る、各種の植物生長せり。榕樹の如きは、其枝下に數千の人民家を爲すを得べし。

亞細亞は實に必要植物の本國と稱すべく、小麥、大麥、燕麥、粟、葱、豌豆、蠶豆、赤根菜、大根、林檎、梨、梅、櫻、巴旦杏、桑、覆盆子、松柏、落葉松、樟樹、白楊柳等、皆此大陸に生長すると夥しとす。

(動物) 亞細亞は各種の動物に富み、哺乳獸の如きは、他大陸より多く、殊に肉食動物に富み、柔毛獸、牛類、頗る巨大にして、猛惡なる野獸、各種の鳥類、有毒なる毒蛇等、亞細亞各部に見るを得べし。虎の如きは、亞細亞の肉食動物中最も恐るべきものなり。又亞細亞の家畜動物多く、運搬の用に供する駱駝、象、印度牛、馬、馴鹿等あり。

(人口) 亞細亞の人口八億四千萬あり、最も人口稠密なる處は、東方支那、日本にして、最も稀薄なる處は、北方なりとす。實に亞細亞に於ける降雨表は、以て人口表に宛つるを得べし。蓋し降雨多き處は、人口亦多きを以てなり、而して亞細亞の人口は平均一方哩に付、四十九人に當る。

(住民) 亞細亞の住民大別して二種とす、高加索人種、蒙古人種、是なり。蒙古人種、最

も多く、殆ど全人口の十分七を占む。高加索人種は僅に十分一に過ぎず、其他の人種又數種あり、重なるものを馬來人種と爲す。

(宗教) 亞細亞に四大教あり、猶太教、基督教、佛教、回教、是なり。亞細亞人民にて殆んど五億六千萬、世界人民の三分一許、の皆佛教徒にして、殆んど壹億九千萬、の婆羅門教を奉ず、回教を奉ずるもの、九千萬あり、基督教を奉ずるもの、二千萬あり、西比利亞及中央亞細亞に在て、水草を追て轉移するが如き人民の、シヤマニスム(Shamanism)と奉ず。

(産業) 遼遠なる北方に於て、獵師漁夫あり、中央部に於て、水草を追て轉居する牧畜的生活あり、定住坐業の東南及西方の高原より之を見る。然れども亞細亞全般の上より、其主要なる職業を尋ねるとき、農業とす。牧畜の中部の高原に於ける産業にして、之より皮、羊毛、脂を歐洲に供給す。遙か北方に至れば、其産業の獵獸にして、毎年多量の獸皮を輸出す。蒸氣機關を以て、木綿の紡績に従事するとい、今印度に於て尤も行われ、又彫刻、鑲嵌、縮箔の如き裝飾的技術の印度支那、日本、波斯及小亞細亞に於て最も完美の城に達し、此等の諸國の、絹、寶石細工、彫刻、絨氈、金銀細工、各種の及

物、及室内裝飾品等を歐洲に送る。此等の製造品の、其美麗及其意匠の點に於て、歐洲のものに優れり。

- 一、米粟小麥其他の穀類は、支那、印度、日本に産し、南方及西部西比利亞に在ては、最良の小麥、大麥及裸麥を産す。
- 二、印度及小亞細亞に於ては、木綿を産すると最も多し。
- 三、茶培養は南方支那及アッサムに於る主要の職業にして、日本又印度錫蘭にも盛なり。
- 四、咖啡は亞刺比亞、印度、錫蘭、シヤバ、其他南方各部に産す。
- 五、甘蔗は、南部及東南部に産する頗る多し。
- 六、養蠶事業は、廣く日本、支那、印度、土耳其、斯坦、波斯及小亞細亞に行る。
- 七、香料は、大群島にて多く産す。
- 八、藍、黃麻、染料、鴉片、幾那は、東南及南部の各地に之を産す。

(商業) 亞細亞内地間の商業は、世界に於て最も古きものにして、其起原は遠く數千年の昔に在り。此時に當り、其商業の主として駱駝或は馬に由て行われたり。然るに印度起り、支那、日本興り、汽船航海の術輸入せらるると、及んで、歐米諸國との貿易盛に行へるに至れり。魯西亞との陸上貿易亦頗る大なり。亞細亞の南部及東南

部に於る大港の、皆蘇士運河に由り、歐洲及米國と相連絡せり。

(交通) 亞細亞の陸路の主として人道あり。唯印度に於ては、善良なる碎石道路あり、皆英國技師の作れるものあり。西比利亞に於ては、東西に大陸の一端より他端に走れる著名の人道あり。然れども南北に、大森林を有する高原及高山途に横り、或は道なき大砂漠ありて、到底經過するを得ず。印度に於て、方今鐵道の長さ殆んど貳萬哩あり。支那帝國に於ては、今や鐵道敷設の計畫漸く起る。魯西亞の西比利亞及中央亞細亞に鐵道を布くに汲々たり。支那の水路は、主要の交通路にして、深廣なる河流は、運河に由て互に相連結し、以て國の中心にまで貿易の便を與ふ。又電線の、大陸の北部及南部に於て、東西と連結せり。

朝鮮

(緒説) 亞細亞の東北部に在りて、黄海と日本海との間に横はる半島を朝鮮と曰ふ。又高麗の名あり。この國の人民は、頑固守舊の思想を有すると甚しきを以て有名なりしが、近年次第に、文明の風潮に感化せらるゝに至り、百事漸く將に改良の運に向はんとす。

(廣袤) 面積八萬二千方哩にして、其大さ日本の十分六に當るものとす。

(島嶼) 附屬嶋嶼の最大なるものを濟州嶋とす。朝鮮半島の南五十哩許の海上に在り。其他南海、巨濟、巨文、珍嶋、江華、喬桐等の諸嶋、近海に散布せり。

(地勢) 一帯の山脈東岸に近く峙ち、國の北部より南部に貫走せり。此即ち半島の脊骨とも謂ふべきものなり。而して山脈の東邊は、地勢高峻にして狭く、其西邊は則ち處々に平原を見るあり。

(山岳) 國の北境に長白山あり、半島の脊骨實に之より出づ。この脊骨山脈の中には、金剛山、大關嶺、太白山、小白山等あり。

(河流) 長白山の麓より、二河の出づるあり。鴨綠江と曰ひ、圖們江と曰ふ。前者は西

南に流れ、後者は東に注ぐ、共に國中最大の河とす。其他大同江、漢江、臨津江等あり。
〔氣候〕 國內山多きと以て、氣候は頗る寒冷ありとす。然をとも夏時は酷だ暑く、且處に依り大雨あり。

〔物産〕 動物類にては牛馬、虎豹、羚羊等あり。植物類にては、人參、綿、米、麥等あり。鐵物にては金、銀、銅、鐵、硫黃等あり。製造品にては、磁器、團扇、紙、籐等あり。殊に金は分量多しとの評あれども、採掘の法未だ至らず。

〔商業〕 商業貿易港三あり、仁川と曰ひ、釜山と曰ひ、元山と曰ふ。輸出の主要なるもの、牛皮及人參なり。重なる取引國は、日本にして、魯、西亞支那之に次ぐ。上三港に於て、千八百八十九年、輸入の總計三百三十七萬七千八百十五弗、輸出の總計百二十三萬三千八百四十一弗なり。

〔首府〕 首府を漢城と曰ふ。漢江の北岸に在り、人口二十五萬を有す。

〔交通〕 電線、一は漢城より北に走りて、支那の境に至り、天津に通ずる電線に接し、一は南に走りて、釜山に至り、海底電線を以て日本に連る。

〔區劃〕 全國八道に分つ。京畿、忠清、全羅、慶尙、咸鏡、平安、黃海、江原、是なり。

〔政治〕 政体は君主專制あり。國王の下には、三大臣六曹の判書ありて、政務を掌り、八道には、知府知縣ありて、之を分轄す。

〔言語及宗教〕 朝鮮人の自ら特別の言語を用ひ、特別の文字を作れりと雖も、公文書等、一切支那の文字に依る。又國內一般に儒教流行せり。

支那帝國

〔支那帝國〕 此大帝國は、亞細亞洲全面積の四分一を占め、日本に比較するときは三十倍の大きなりとす。即ちその面積は、大約四百萬方哩、人口は、大約四億なり。而して支那帝國の之を五區に分つ。曰く支那本部、曰く滿洲、曰く蒙古、曰く伊犁、曰く西藏、是なり。

第一 支那本部

(支那本部) 支那本部ハ亞細亞の東部に在りて國富み人口頗る多し其境界左の如し。

- 一、北 蒙古
- 二、東 太平洋
- 三、南 支那海安南及暹羅
- 四、西 緬甸及西藏

支那本部の蒙古に境する處に、萬里の長城あり。長城は處により二重或は三重に築造せらる。総長二千哩にして、高さ廿呎より卅呎に至り、幅ハ其頂上に於て廿五呎あり云ふ。實に二千餘年前の遺物なりとす。

(廣袤) 面積凡そ卅卅萬方哩あり、南北千七百五十哩、東西千三百五十哩なり。

(海岸線) 支那の海岸線頗る長く、五千哩あり、平均二百六拾方哩に付、海岸一哩の割合なり。

(嶋嶼) 黃海より東京灣に至る間、海岸に沿うて無數の嶋嶼羅列せり。其重要なるものを擧ぐれば、臺灣、瓊州及香港なり。

一、臺灣、長さ殆ど二百四十哩あり、大山脉南北に國を貫く竹を産するを以て名あり、竹の長さ或は一百呎に至る。

二、臺灣、臺灣の如く大ならず、山岳は頗る多く、山中には金銀銅鐵を含有し、低地は甚だ膏腴なり。

膏腴なり。

三、香港、廣東河の東口に在る嶋嶼なり、澳門(葡萄牙に屬す)は西口に在り。香港は千八百四十一年英領となりし當時に於ては、人口僅に二千なりしが現今殆ど二十萬あり。支那に輸入する貿易の一半は、此嶋嶼にて爲すものなり。

(山脉) 支那本部の地勢たる東方海岸より西邊に至り、次第にその高さを加ふ。西方の連山ハ、即ち雪嶺、雲嶺、崑崙山等にして、崑崙山とろの脈を通じ、これより東方に向うて、北嶺及び南嶺を支出す。北嶺の中に、劔山、滇南、終南、太華、方城、桐柏等の諸山あり。南嶺の中に、越城、大庾、九嶷、武夷等の諸山あり。されば支那本部ハ、此等の山脉に因りて、自から三大區劃に分る。北嶺以北を北帶と爲し、北嶺より南嶺に至るまでを中帶と爲し、南嶺より海に至るまでを南帶と爲す。

(河流) 國中二大川あり、黃河と曰ひ、楊子江と曰ふ。黃河ハ源を崑崙山の東に發し、支那本部の西北隅に流れ、北に折きて、蒙古に入り、又南して支那本部に至り、山東省より海に入る。その長さ二千六百哩。下流ハ水患多し。楊子江ハ黃河源頭の西に出で、東流して湖北湖南江西安徽江蘇等の諸省を過ぎて、海に入る。その長さ三千五百哩。

海より宜昌に至るまで、一千哩の間舟航するを得べし。揚子江の近傍に湖沼數多あり、其最大なるものを鄱陽湖となし、洞庭湖となす。以上二川の外著名なる水流に、白河珠江等あり。

(氣候) 支那の氣候は、概して同緯度に於ける歐羅巴諸國に比すれば、寒暑甚だしとす。然れども支那の北方は、夏時温暖にして降雨多く、冬期清明にして氷霜繁し。南方に於ては、氣候酷熱、殊に夏至線以内、或は之より近き所に於て然りとす。

(動植物) 支那の頗る植物に富み、常盤木花草等種類實に夥しとす。又動物にては、虎豹の類は、漸く其跡を絶たんとするも、尙人口稀海ある地方に徘徊し、猿猴の類は北京近傍の藪に棲住し、蛇蜥蜴の如き爬蟲類の頗る多し。其他鳥類夥し。

(礦物) 支那の金屬、塩石炭を産するに甚だ多く、其鐵の品質良好にして、其銅の如きは世界第一とす。其炭田(全國到處石炭を産す)の實に莫大あり。

一、四川省に於てのみ、炭田十萬方哩あり。然れども探掘の方法未だ完からず、出坑の高僅少なり。

二、支那に於ける硫磺及石炭は、其量實に驚く可く、以て世界の商業を動かすに足るべしとす。

しとす。

三、青銅は品質及色澤共に世界第一なりとす。

(産業) 農業は支那に於て最も重要なる産業なり、製造業中最盛あるものと絹、木綿及陶器の製造と爲す。

一、肥沃なる平原、殊に上海近傍に在ては、一エーカー(四反余)の土地以て、八人を支ふるに足るべし。支那の豊饒なる地味は、數千年の間未だ替りて殆ど其産力を減せざるなり。

二、支那の北方に於ては、小麦、粟及木綿を産し、南方に於ては、米、茶、砂糖、絹及鴉片を産す。養蠶の業は各地に盛なり。

三、支那人は陶器製造は勿論、象牙彫刻、青銅器製造、漆器細工、印刷術に熟練なるを以て名あり。支那に於ては、芥菜、各物品皆一人の手に成る、即ち之が意匠を爲し、之を作り、之に彩色する等皆一人にて之を爲すなり。

(商業) 支那の内地貿易は、世界に於て最も古く且最も大なるものなり。其外國貿易に至りては、此の如く大ならずと雖も、今や進歩發達に向へり。茶及絹の二品の重なる輸出物産にして、木綿及鴉片は重なる輸入物たり。支那の外國貿易と云へば、大抵英國及英國殖民地との間に行はる。

一、支那より英國へ輸出する物の三分二は茶とす、然れども年を追て減少の傾きあり、蓋しアッサム茶の生産大に増加したるに由る。

二、米は大なる輸入物にして、暹羅安南及交趾支那等より買入るものなり。

(港口) 支那の外國と貿易する港數、現に二十有三あり、西曆千八百八十九年間此國輸入の總額、一億一千零八十八万四千三百五十五兩にして、輸出の總額九千六百九十四万七千八百三十二兩なり、所謂二十三港といふ、天津、芝罘、重慶、宜昌、漢口、九江、蕪湖、南京、鎮江、上海、寧波、温州、福州、淡水、雞籠、臺灣、打狗、廈門、汕頭、廣東、瓊州、北海にして、右の中貿易最も盛に、輸出輸入共に大なるものを、天津、上海、福州、廈門、廣東等とす。

(交通) 支那本部に於ては、二千有餘の國道縱横に通じ、加ふるに舟航自在なる夥多の水流と頗る大なる運河を以てし、實に世界中交通至便なる國の一なり、その運河、南の杭州より、北は天津に至り、其間黄河及揚子江を貫けり、揚子江以南を江南運河と曰ひ、以北を江北運河と曰ふ、鐵道工事は未だ十分に進まずと雖も、太沽より蘆台に至り、蘆台より開平、炭坑に至る線路は、既に竣工し、天津北京間の線路は、既に

着手の運に至り、臺灣橋は、劉銘傳の計畫にて、鐵路の興築あり、又西曆千八百八十九年、即ち光緒十五年には、北京より揚子江上の漢口港まで線路を布設すべき勅令も發せらるたり、又電線は現時全國に遍く、各省都邑達せざる所なく、滿州電線も出來し、福建臺灣間の海底電線も、既に竣工し、また近年魯西亞と契約と締び、黒龍江邊に於て支那及び西比利亞電線の聯絡も、日ならずして成らんとす。

(區劃) 支那本部の之を十九省に分つ、直隸、山東、山西、河南、江蘇、安徽、江西、福建、浙江、臺灣、湖北、湖南、陝西、甘肅、四川、廣東、廣西、雲南、貴州にして、十九省の中面積最も廣きものを四川と爲す、十六万六千八百方哩あり、人口最も稠密なるものを山東と爲す、一方哩は付五百五十七人の割合なり。

(都府) 支那にハ大都頗る多く、人口百萬以上を有するもの數多あり、其十萬以上を有するものに至りてハ少くとも一百に下らず、首府を北京(順天府)と曰ふ。

北京人口五十萬ハ平原に在リ、白河を去る殆ど十三哩なり。北京ハ二府より成リ、高壁を以て阿者を分ち、北方に在るものを滿州街と稱し、南方に在るものを支那街と稱す、滿州府には王宮あり。

(政体) 支那帝の帝國の主にして又國教及支那諸族の長なりとす、十八省に、總督巡撫等ありて之を管す。

現時陸軍の兵數百四十餘萬あり、海軍は、軍艦九十艘を有す、鎮遠定遠の二艦その最大なるものなり。

(宗教) 支那本部に三教あり、儒教、佛教、道教(老子の教)にして、人民の過半は佛教を奉じ、上流社會の孔子の教を奉せり。

(教育) 或る點に於て、支那の世界に於て最も教育ある國にして、文學の如き最も古きものなり、支那の人民の皆深く學問を貴重せり、官吏の試験を以て採用せらる。

支那に於て學習する所のものは、重に四書五經なり。然れども泰西の學術言語を研究する事、近年漸く行はれ、其機會には、北京の同文館、上海の廣方言館等あり。

(人種及風俗) 支那人の蒙古人種に属す、禮讓及親切の支那人の特に卓越顯著なる所にして、外國人の如きも、其旅行に於て惡しき待遇を受くるとなしと云ふ、老者の擧て之を尊敬するの風あり、人民皆産業に務め、節儉にして、貯蓄心に富む。

第二 滿州蒙古伊犁及西藏

(滿州) 滿州の、黒龍江及朝鮮半島と、興安嶺及西比利亞との間に横る、域内に三省あり、盛京、吉林、黒龍江と曰ふ、其面積三十六萬方哩にして、人口一千二百萬あり。

(産業及都府) 農業の滿州人の主要なる産業とす、首府を奉天府といふ、盛京省に在り、繁華富麗北方の盛都たり。又彼の支那貿易港の一ある牛莊の、實にこの盛京省内に在り。

(蒙古) 蒙古の、西藏及び西比利亞の間に在り、中に大砂漠を有す、土人の之をゴビといひ、支那人の之を瀚海といふ、砂漠以南長城に至るまでを内蒙古と稱し、砂漠以北アルタイ連山に至るまでを外蒙古と稱す、其面積八百三十萬方哩にして、人口の二十萬あり。

(産業及都府) 蒙古人の游牧の種族にして、其富の牛馬羊等にあり、重なる都府をウルガ(Urga) マイマツチン(Maimachin) コンド(Kondo)となす。

(伊犁) 伊犁の又西域と云ふ、天山に跨り、南北二部に分る、北を新疆と稱し、一に天山北路と名づく、南を回疆と稱し、一に天山南路と名づく、前者の面積十四萬方哩、人

口六十萬あり、後者の面積四十三万方哩、人口五十八万あり、新疆の方、西方に傾斜したる山地なり。地味肥沃にして多く米麥等を産す。回疆の方は四方山を繞らし、地勢皿の形を爲せり、其最低なる處には羅布湖あり、境内の水流皆之に會注す。寒氣は甚しくして、年内數月の間塔里木河の結氷を見るも、亦夏は長く且熱せり、山の近傍を除きては、降雨稀にして、大抵の地は塵埃空中に飛揚し、一層夏熱を甚しくす。

(産業及都府) 低地の人民は、農業に従事し、高地の人民は、専ら牧畜を務む。伊犁の主要なる都府に、クールジヤ (Kuldja) ヤルカンド (Yarkand) カシユガル (Kashgar) 等あり、宗教の重に回教行はる。

陝西の伊犁より印度に至るものはカラコラム山路 (Karakorum Pass) に由り、西土耳其斯坦に至るものは、テレンク山路 (Terek Pass) に由る。

(西藏) 西藏の崑崙山及ヒマラヤ山の間在り、地球上地勢最も隆起せる所にし、其空氣稀薄なり、カラコラム山脉西方に發え、サンボ (Sampo) 河及びブブラマブートラの上流、南方を濕し、楊子江の上流東方を走る。テングリノル湖 (Tengri-nor) 壹万五千呎の上に在りて、大陸的流域の諸水を受く、西藏の面積の六十五万方哩にして、人

口の六百萬あり。

(宗教) 此國の宗教は喇嘛教 (Lamism) として、佛教の一種なり、その教長をダライラマ (Dalai-Lama) といふ、喇嘛教は黄教と紅教との二派に分る。

(産業及都府) 牧畜は西藏に於る唯一の産業なり、羊毛の主要の物産にして、渺茫たる草野及樹木鬱蒼たる山地にては、頗る美麗なる羊毛を産すると多しとす。ラッサ (Lhasa) は此國唯一の大都會あり、人口五萬あり。

一、ラッサには僧侶の數二萬あり。

二、西藏人は極めて商業に適したる國人なり、各家皆商店にして、各寺は即ち倉庫なり、駝商牛馬に重荷を負はせて、四方に貿易を行ふ。而して其外國貿易の利益は殆ど全く寺院の所有に歸するを以て、其國一般に貧窮なるに拘はらず、僧侶は頗る富み奢侈に耽る。

印度支那

(緒説) 印度支那のベンガル灣及支那海の間に横たる大半嶋にして、大抵熱帯中に在り。此半嶋に緬甸及安南の二帝國、暹羅及東埔寨の二王國、其外英佛の管轄に屬せる諸州あり。

(廣袤) 面積凡そ八十七萬三千方哩、人口三千六百萬あり、一方哩に付四十五人の割合なり。

印度支那にて人口稀少なる所以は、下の三原因に歸す、(一)山岳多き、(二)森林深く且大なる、(三)人命の不安全なるも、是なり。

(海岸線) 印度支那の海岸頗る變化多く、灣あり、曲江あり、嶋嶼あり、海角あり、出入甚だしく、良港隨て乏しからずと爲す。而して大河口に又大三稜洲ありて、海岸線をして、愈長からしむ。

一、入江の主要なるもの、マラッカ海 (Malacca) 及 暹羅海 (Siam) 及 東京海 爲す。

二、岬の主要なるものを、ネガサ (Negas) 及 ローニヤ (Romania) とす、後者は亞細亞大陸最南端なり。

三、マラッカ海峽 (Malacca) 及 マニラ 半嶋と マニラ 嶋を分つ。

(山嶽) 此半嶋の山脈の探検を経たるもの少く、其名も世に知れざるもの頗る多し、現時著名なるものを、トマ (Toma) パトコイ (Pakoi) 山脈及 暹羅山脈 爲す。

(平原) 此半嶋に頗る豊饒なる三大平原あり、ペグ (Pegu) の平原、暹羅の平原、及東京の平原にして、第一のもの、イラワデー 河の大三稜洲にして、第二の廣きメナム 河の低谷なり、第三の東京全部と ソンカ (Song-ka) の三稜洲とを包有す。

(河川) 五大河あり、其三の亞細亞の最大河に數へらるるものにして、イラワデー (Irawaddy) サルヘン (Saluen) 及 メコン (Meikong) 是なり、殘余の二河を メナム (Mennam) 及 ソンカ (Song-ka) と爲す、イラワデー の長さ千二百哩、サルヘン も亦同じ。

(氣候) 印度支那の二大洋の間に立ち、其大半の熱帯中に在り、又時風地方なるを以て、其氣候酷熱にして、濕氣を合むと最も甚だしく、三稜洲の低地の如きは、頗る健康に害ありとす。

(植物) 半嶋の大部分の森林を以て蔽われ、森林中に麻栗樹 (Cashew) 護謨樹 (Gutta-percha) バルナヤ (Gutta-percha) 竹其他熱帯に産する樹木頗る多し、低地殊に濕潤なる三稜

洲に於て、農産物の主要なるものを米と爲す。然れども木綿、烟草、砂糖、藍、茶、珈琲及各種の香料等亦産出せらる。

(動物) 印度支那に於て普通の動物を虎、象、豹、犀、野猪及鱒魚と爲す。猿、猴、其他無数の蛇等森林に住せり。

(礦物) 印度支那の礦物に富む。雖も未だ十分採掘せらざるなり。暹羅に多量の金あり。緬甸に紅寶石、磁石、山あり。馬來半島に錫の鑛山あり。

(住民) 印度支那の人民の概して蒙古人種に属す。然れども東浦寨及暹羅に於ては、高加索人種あり。馬來人の又自ら別種に属す。佛教至る所に行へる。

(産業) この半島に農業盛に行はる。米の産出最も多くして、輸出物の主要なるものなり。砂糖亦産せられ、桑の養蠶の目的を以て培養せらる。其他木綿、藍、烟草等亦輸出の爲に産出せらる。暹羅及安南の住民の皆金銀細工彫刻、鑲嵌術に巧妙なりとす。此等諸國の商業の概ね敏捷なる支那人の占領する所なり。

(區劃) 印度支那に於ける政治上の區劃左の如し。

區劃

主要の都府

- 一、英領緬甸(印度政府の下に立)
 - 一、緬甸帝國(全)
 - 二、暹羅王國(獨立)
 - 三、安南帝國(佛蘭西保護國)
 - 四、東浦寨王國(佛蘭西保護國)
 - 五、交趾支那(佛領)
 - 六、馬來諸州(獨立)
 - 七、海峽殖民地(英領)
- 二、英領緬甸は、海岸に於ける長條の陸地にして、之を三州に分つ。アラカン (Arakan) ハンガ及テナセリム (Tenasserim) 是なり。首府をラングーン(十四万)と曰ふ。イラワディー河に臨む。

一、アラカンは、ベンガル灣の東岸に於ける一帯の陸地にして、其地低く濕潤なるを以て、米穀を産すると頗る多し。

二、ハンガ又能く米穀を産す。山斜面に於て廣大なる森林あり。麻、栗、樹其他有用の材木を産す。首府をラングーンと曰ふ。ベンガル灣に於て、カレカツタに次ぎ商業繁盛なる海港

なり。

三、マナセリムはマニラ湾の東南に横はる、米木綿藍等を産す。

(緬甸) 緬甸帝國ハ千八百八十六年英國に併吞せられ、今英國の一部にして、印度政府の下に立つ、其地海に濱せず、頗る豊饒なり、人口三百萬、首府をマンダレー(人口八萬)と云ふ、イラワディー河に臨む。

一、イラワディー河谷は、頗る膏腴にして、米木綿烟草藍玉蜀黍等を産す。

二、此國又礦物に富み、鐵鉛銅石炭及金等を産出す。

三、貿易の盛なる、一にイラワディー河あるに由る、此河は、マニラに至るまで舟航するを得べし。

(暹羅) 暹羅王國ハ緬甸及安南の間に横り、人口六百萬あり、土地頗る膏腴なれども、其耕作せらるるもの、僅に廿分の一に過ぎず、此國ハメナムの全流域及びメコン河谷の一部を包有す、首府をバンコックと曰ふ、メナム河畔に在り。

一、主要なる輸物物は米を爲す、國の大半は幽深なる林を以て蔽はる。

二、バンコック(人口五十萬)は、メナム河に臨み、カルカッタ及廣東間亞細亞海岸に於ける最大都府なり。

(安南) 安南帝國ハ印度支那の東岸に沿ひ、今佛蘭西保護國なり、人口凡そ千五百萬あり、國中最も豊富殷富なる部分を東京及交趾支那と爲す、首府をヒューエ(人口六萬)と曰ふ、海岸に近し、佛人之よ砲臺を築く。

東京は豊饒なる土地にして、今全く佛人の占領する所なり、ソンカ河の豊饒なる三稜洲之に在り、東京は拾七の鐵礦山、十四の金礦山を有す、首府をハノイ(Hanoi)と曰ふ、人口十五萬あり、海岸を去る百哩許り、商業頗る繁盛なり。

(東蒲寨) 東蒲寨王國は嘗て強大なる一王國なりしかど、安南暹羅佛蘭西の攻撃によりて、大に其地を狭めたり、現今人口一百萬に過ぎず、其地メコンの下流に沿ひ、トンテ、サン(Tonté-san)湖と三稜洲の間に横り、首府をナンバム(Namvann)と云ふ。

(下交趾支那) 此國ハ主として、メコンの三稜洲より成り、今全く佛國に隸屬す、サイゴン河畔に於ける首府サイゴンより米麻栗樹木綿等を輸出す。

(馬來諸州) 此等の諸州皆小にして、多くの英國保護の下に立ち、英國に抵抗する勢力あるものなし、酋長ハ自からラジャ(Raja)と稱せり、ペラク及ジョホールは最も著名の二州なりとす。

(海峡殖民地) マラッカ海峡に於ける殖民地の、プロペン(Proboeng) 嶼より新嘉坡に至る、英領の諸小州より成る、其重要なる所以のもの、支那海及東印度諸嶼に至る水門の鎖鑰たるに由る、殖民地四あり、ペナン、ウエレスレイ(Walesley) マラッカ及新嘉坡是なり。

一、プロペン、ハ、又プリンスナフワエトマス嶼 (Prince of Wales Island) と稱す、半嶼の西海岸に沿へる、海峡の小嶼にして、海峡の口を擁す。

二、ウエレスレイ州は頗る豊饒なる小國なり、米胡椒、椰子、肉豆蔻、木綿、烟草、茶、珈琲、砂糖及椰子を産する頗る多し。

三、マラッカは海峡殖民地の最も古きものにして、最も大なるものなり。マラッカ府の貿易は、近時大に衰退せり、蓋し新嘉坡貿易上の地位はより優れるが爲なり。

四、新嘉坡は、長さ廿七哩、幅十四哩の嶋嶼にして、世界の大商業中心地の一なり、東方及南方の大水路は、皆之に集まる、故に新嘉坡(人口十六萬)は印度及印度支那の貿易の全樞を握り、其造船所及埠頭には、世界各地よりの船舶輻輳し、錫、香料、穀類、茶、珈琲、鹽、油、樹膠、其他の産物を積去るなり。

印度

(緒説) 印度又ヒンドゥスタンと稱す、世界に於て最も有名なる國の一なり、蓋し此國の最も古き文明を有し、最も古き文學を有し、數千年以前の風習階級を繼續し、最も美麗なる建築裝飾細工等を有し、土地豊饒にして、人口亦夥しく、一時各國争ふて之を奪ひんとせしが、終に今英國女皇、ビクトリアの管轄に歸せり、印度帝國の直接に英國政府の下に立つ所の十二州と其管轄權を承認せる所の百五十有余の封建諸國より成る。

(境界) 印度の境界、左の如し

- 一、北 ヒマラヤ山脈
- 二、東 緬甸、及ベンガル灣
- 三、南 印度洋
- 四、西 阿富汗、皮路其斯坦、及亞拉比亞海

(廣袤) 面積百五十七萬四千四百五十方哩あり、内百萬方哩余は直接に英國政府の支配を受け、其他の土族の下に立つ、其土族は英國女皇に貢賦を納れ、或は之が支配を受くるものとす、印度の地三角形を爲し、ヒマラヤ山脈之が底となり、コモリン

岬之が頂點なり、北緯三度に起り、三十五度に終る。

(海岸線) 印度は面積の割合に海岸線頗る短く、凡そ三千六百哩なり、平均四百十六方哩に付海岸一哩の割合に當る、概して規則正しく、出入甚だしからず、良港頗る小なく、驚瀾怒濤常に岸を打ち、國の大半皆舟泊に不便なりとす。殊にオリッサ(Ohiss)コルコンダ(Goconda)コロマンデル(Coromandel)コンカン(Konkan)及マラバール(Malabar)の海岸と然りとす。

(島嶼) 印度に屬する嶋嶼は、左の如し、英領印度の西海岸に於て、錫蘭ラツカデブ群嶋及マルヂブ群嶋、印度支那の東岸に於て、アンダマン及ニコバー群嶋是なり。

(組織) 四山地、一大平原、及一大高原相集りて、印度を成す。四山地はヒマラヤ連山、ビンヂア連山(Vindhya)西及東のガツ、連山(Ghats)にして、平原をインドス及ガンジス河邊の平原と爲し、高原をデツカン(Decan)の高原と爲す。

(平原) インドス河及ガンヂス河の間に在る大平原は、カシヤ連峰(Khasia)よりスリマン連山(Suliman)に亘り、ヒマラヤ山よりデツカン高原の間に横れる、其形三角にして、總長千五百哩あり、印度に於て最も人口稠密なる所ありとす。

(高原) デツカンの大高原は、三角形の高原にして、北にビンヂア山脈を負ひ、東西に東西ガツツを有し、高さ平均二千呎乃至三千呎あり、此他マルワの高原あり、アラバリ連峯(Aravalli)及ビンヂア山脈の間に横れる。

(河流) 印度の河流と分ちて二系とす、北方大平原の河系、及南方高原の河系是なり、インドス、ガンジス及ブラマプートラ皆前者に屬す、後者に屬するもの西方斜面に在て、ネルブンダ(Nerbudda)タプチー(Tapti)東方斜面に在りて、マハナツデー(Mahanuddy)ゴダヴリー(Godavery)クリシナ(Krishna)カウベリー(Cauvery)と爲す。

(湖沼) 印度に於て、大湖なく、又重要のものなし、其大なるものと雖も、沼地に非ずんば、河水の澎湃したるものに過ぎず。

(氣候) 元來印度は、錫蘭嶋よりヒマラヤの高原に至る迄、緯度殆ど卅度に跨ぶれる國なるを以て、從て其氣候種々ありとす、各部の氣候を知らんと欲せば、次の四點に着眼するを要す、即ち緯度、高度、砂漠に近さと、西方に於て、ター砂漠あり、及び海に近さと、是なり。

概して印度に、暑熱降雨及び寒冷の三季節あり、暑熱季節は太陽の赤道を經過す

るより夏至線より垂直なる時までの間即ち三月より六月に至り、降雨季節は六月より十月に至り、寒冷季節は十月より三月に至る。

(植物) 印度の大半は熱帯中に位すれども、其國たる種々の氣候を有するを以て、其植物の種類亦多し。アッサム^{Assam}の連岡及テライ^{Terrai}の沼地に熱帯植物頗る多し、シンデ^{Sinde}の乾燥せる土地には、亞拉比亞に於けるが如き植物を産し、高地には温帯の植物穀類あり。今ヒマラヤの山麓より雪線に至るまでを觀察しなば、地球各帯に於る各種の植物あるを見るべし。山岳斜面に於ける森林には、麻栗樹其他最も價値ある材木あり。又土人の食用となり、飲料となり、衣服器具及び建築用材となるべき椰子樹は、多く海岸に沿ふたる低地に生長し、竹の如きは森林鬱蒼たる中に至る所生長せり。

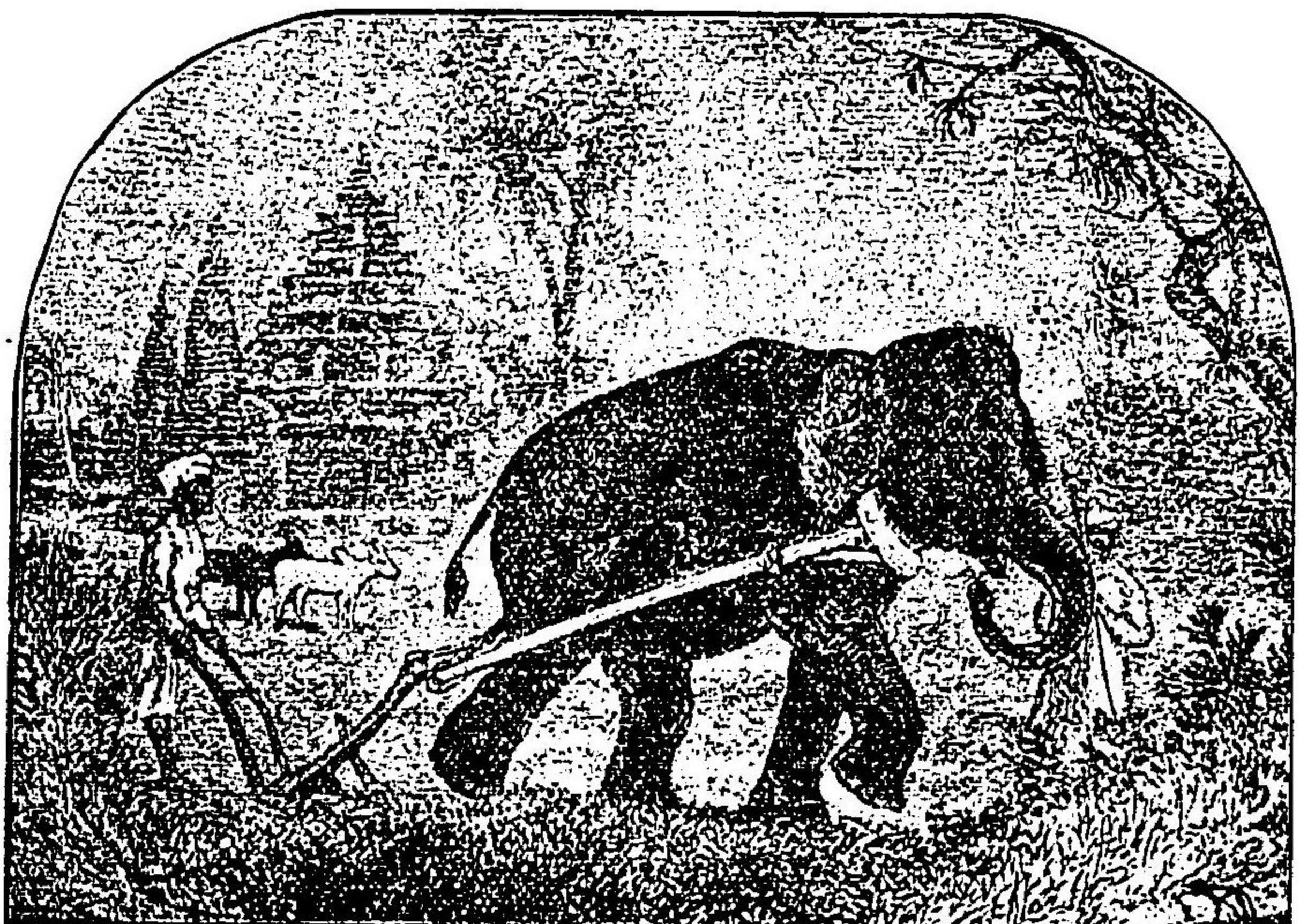
(動物) 虎豹象犀無鬚獅子鬘狗^{Cyn}、狼各種の毛色を有する熊、各種の鹿、水牛、野驢及猿猴類は、印度各所に徘徊せり、其他毒蛇の種類極めて多し。家畜動物中最も重要なるものを駱駝、印度牛及カシミア^{Cashmere}山羊等とす。

(礦物) 石炭頗る多く産すれども、其品質良からず、鐵銅錫又少量を産す。最も盛に

採礦せらるるものを鹽となす、官業なり。其他金剛石あり、金のマイソール^{Mysore}に産す。概するに印度の礦物の動植物に比して頗る少しとす。

(産業) 主要なる産業を農業とす、印度の壯丁三分二以上の専ら之に従事す。印度人の又織物に於て、頗る熟練なるものなりしが、此業も他の印度固有の産業と共に、次第に衰滅の有様あり。生産物の中、穀類の主として粟米小麥にして、紡績糸の主要なるものは、木綿麻なり、鴉片藍煙草茶珈琲甘蔗香料其他の植物を産すると多し。

(製造) 木綿紡績及織物のボンベ



(Bombay) に行われ、ベンガルには麻布製造所あり、然れども印度固有の製造業は、概して規模小なり、但印度の職工は、美麗なる物を作るとに於て有名なり、殊に金銅鐵及象牙の細工は於て然りとす。

(商業) 印度の商業頗る大にして、其英國の配下に立ちたる以來、更に非常の進歩を爲せり、主として英國、支那、佛蘭西、伊太利、合衆國と貿易を行ひ、一年の輸出殆ど九千萬磅に上り、輸入五千五百萬磅余なりとす。輸物中第一位を占むるものを穀類、生綿鴉片及種苗とし、第二に位するものを獸皮、麻布、茶、藍及珈琲と爲す。輸入物中第一に位するものを木綿製造品(一年殆ど三千萬磅なり)とし、遂に下て金屬鐵器、絹砂、糖飲料器械及石炭と爲す、印度の商業を爲す所の船舶五千余艘あり。

一、ボンベイ及カルカッタは、物品集散の二大中心なりとす。
二、二大輸入物と木綿製造品及貴金屬(金銀)と爲す、銀は之を裝飾に用ひ、金は之を貯藏す。

(都府) 印度に人口五萬以上の都府六十あり、此中十萬以上のもの廿三あり、最大なるもの六、カルカッタ (Calcutta) ボンベイ、マドラス (Madras) ハイデラバッド

(Hyderabad) ラックノー (Lucknow) 及 ベナーレス (Benares) 是なり。

カルカッタ(人口九十萬)は、印度帝國の首府にして、英政府の在る所なり、印度總督此に居る。プーグレイ河に臨み、亞細亞大港の一とす。碧水の紆回せる、綠樹の參差たる、邸莊の輪奐たる、軌橋の林立せる、都て此府の景色をして、齒の如くならしむ。

(交通) 印度に於ては、現世紀の半ばに至るまで、唯だ二三の道路ありしのみ、曾て鐵道なかりしなり、其道路と雖も狭小にして、僅に牛馬の貨車を通ずるを得るに過ぎず、故に河流に由る能はざる處に在りては、凡ての貨物は人之を負載するか、然らずんば牛の背にて之を運搬せざるを得ざりき、今や則ち然らず、鐵道の其延長殆んど二萬哩に及び、舟航すべき運河(天然人工)千三百哩あり、郵便路五十六萬哩に達し、電信線三萬五千哩を超ゆ、鐵道の大幹線と稱すべきもの、東西に半嶋を横斷して、四あり、皆互に支線に由り、各大都府と通じ、カルカッタ、ボンベイ及マドラス等、かくして鐵道を以て相連絡せり、道路は結構頗る廣大、築造頗る鞏固にして、殊に其坂路或は開鑿、或は橋梁、或は堤防等に於ては、尤も熟練なるを見る、交通の方法盡せりと謂ふべし。

(人口) 人口二億六千萬あり、此中二億ハ英領印度に在リ、其他ハ各獨立國に在リ、此等の獨立國と雖も、種々の方法に由リ、多少英國政府の干渉を受くるものとす、人口一方哩平均百八十四人に當る。

(人種) 印度人の大別して二種族と爲す、ヒンヅー(Hinde)及びドラビヂヤン(Dravidian)是なり、ヒンヅー人の言語ハ、ヒンダスタニー(Hindustani)或ハベンガリー(Bengali)語にして、ドラビヂヤン人の言語ハ、テルグ(Telugu)又ハタミル(Tamil)語なりとす。

(政治上の區劃) 印度總督ハカルカッタに住シ、英國政府並ニ印度女帝としての英國女王を代表して、印度全体を管轄シ、又直接に或る小地方を治ム、總督の下に在るもの次の如し。

- 一、ベンガルの副總督 (Lieutenant-Governor of Bengal)
- 二、アッサムの知事 (Chief Commissioner of Assam)
- 三、西北州及ハーイドの副總督 (Lieutenant-Governor of the North-west Provinces and Oude)
- 四、パンジブの副總督 (Lieutenant-Governor of the Punjab)

- 五、中央州の知事 (Chief Commissioner of the Central Provinces)
- 六、緬甸の知事 (Chief Commissioner of Burma)
- 七、ボンベイ領の總督 (Governor of the Presidency of Bombay)
- 八、マドラス領の總督 (Governor of the Presidency of Madras)

右の中印度諸侯の國にて、英政府の權力に従ふもの數多あり、その中重なるものをラジプータナ(Rajputana)地方、インドール地方、ハイデラバッド(Hyderabad)及びマイソールとす、ヒマラヤ山間に於て獨立國三あり、即ちブータン(Bhutan)、ネパール(Nepal)及びカシムミールにして、此等も亦少許の貢賦を英政府に納る。

印度の地圖頗る錯雜にして、明瞭なり難し。されば地圖を見る際に於て注意すべきとは、先づ眼をデツカン高原に於けるマイソール及びハイデラバッド二州に注ぎ、次いでマドラスの東に横はれるラジプータナ地方を知リ、然る後其他の印度諸州を求むるを好しむ。

(宗教) 印度に於て、主要なる宗教を婆羅門教と爲す、人民四分の三は皆之を奉せり、北方に於てハ、回教を奉ずるもの頗る多く、其數五千萬人余あり、佛敎ハ半嶋にてハ殆ど全く其跡を絶てり、雖も、ヒマラヤ近傍及び錫蘭嶋南部に於て、尙信徒を有

せり、耶蘇教徒の未だ二百萬人に至らず。

(錫蘭島) 錫蘭の其形梨實に類する嶋嶼にして、アダムスブリッジ (Adam's Bridge) を以て、本土と相連る。此の低き珊瑚礁の群列したるものなり。嶋の面積、二万四千七百万方哩あり。内地に到る處、高原とす。島中最高の峯を、ペドロータラガラ (Pedro Talagalla) と爲す。八千二百六十呎なり。中央山地の、全嶋の分水界を爲し、河水之より四方に流る。その最大なるものを、マハビラガンガ (Mahavilla Ganga) と爲す。地味は、一般に非常に豊饒にして、山地に於ても尙然りとす。氣候は、概して温熱なれども、印度の同緯度地方に於けるが如くならず。人口は、凡そ二百六十萬あり。主要の産物を、珈琲肉桂茶煙草椰子實等とす。其高大なる森林は、樟及び黒檀等を産す。首府をコロンボ (Colombo) と曰ふ。ポイントデガール (Point de Galie) の、東洋を往復する汽船の碇泊する所なり。

一、錫蘭島は、印度政府の治下に属せず、龍動の殖民省直接に之を管轄せり。

二、パンロンキと舊都カンター (Kandy) の間に、一の鐵道あり。

(英國以外歐洲諸國の領地) 佛蘭西及び葡萄牙の二國の、印度に於て少許の領地

を有せり。

一、佛領

ポンドゥチエリー (Pondichery) マドラスの南方に在る海港なり。

マヘ (Mahe) マラバール海岸に於る一小港なり。

チャンダナコーン (Chandernagore) フォンブリー (Hooghly) 河畔の一小都なり。

二、葡領

ゴア (Goa) マラバール海岸の豊饒なる一小地方なり。

ダマン (Daman) ディウ (Diu) の北方に在る一小港なり。

カンバイ (Cambay) 海中の一小嶋なり。

亞細亞魯西亞

(緒説) 魯西亞の、年毎に其領地を擴め、殊に亞細亞に於ては大に其勢力を擴むる余地を有せるが故に、次第に種々の民族及國土を従へ、尙進んで東南に其驥足を展

べんとす。

彼得大帝より以來魯西亞の版圖實に二百五十万方哩の増加を見る

(區劃) 亞細亞魯西亞に分ちて三となす、高加索、中央亞細亞、及西比利亞是なり。

高加索

(高加索) 高加索の魯西亞人之を一州となすと雖も、地理學者は分ちて二となし、一を内部高加索と曰ひ、歐羅巴の部に置き、他を外部高加索と曰ひ、亞細亞の部に置く、面積合して十八万四千方哩あり。

(山岳) 高加索山の大きな山岳的地峽にして、黒海及裏海の間に横はり、クルル(Kur)河谷を隔て、アルメニヤ(Armenia)の高原と接す此山岳の歐亞自然の境界なり、魯西亞、土耳其及波斯三帝國の相接する所、アラ、ット山(Ararat)高く聳ゆ、高さ殆んど一万七千呎あり。

(河流) 内部高加索にクルル(Kur)テレク(Terek)の二河あり、外部高加索にクルル河あり、クバン(Kuban)の黒海に注ぎ、テレク、クルルの両河の裏海に入る。

Kuban

(氣候) 氣候の勿論、高度の多少に従て、種々變化ありとす、内部高加索の南方斜面に比すをば、乾燥にして寒冷なり、今全地方を取りて概言すれば、夏冬に於ける温度廿五度の差あり。

(植物) 高加索にては大麥八千二百呎の高地に産し、小麥は六千二百呎の高地に葡萄の三千六百三十呎の高地に産す、高加索は林檎及梨の本國と稱すべく、又外部高加索の南部に桂樹、橙、佛手柑、葡萄及桑等夥しとす。

(住民) 此地方の、世界に於て最も多き人種言語を有し、人種の種類百五十に至り、言語の種類七十に及べりと云ふ、著名なる人種をジョルジャン(Georgian)、シルカシヤン(Circassian)、ミンクレリヤン(Mingrelian)、アイメリヤン(Amerian)と爲す。

(人口) 人口六百五十万あり、其人口最も稠密なる部分の、南方斜面ありとす。

(産業) 農業の唯一の重要な産業なり。

(道路) ウラチカブカズ(Vladikavkaz)の國內道路の中心にして、殊に一の軍備的商業的大路之より發し、ダリオン(Darion)山路を經過して、チフリス(Tiflis)に出づ、鐵道二あり、一はアゾフ(Azov)海頭よりウラチカブカズに至り、一は南方にありて、黒海の

ボチ (Pots) より、チフリスに至り、更に裏海のバク (Baku) に至る。

(區劃及都府) 内部高加索は八州に分る。チフリス (Tiflis) 及エリバン (Erivan) 最も有名なり。都府の大なるものをチフリス (人口十一万) スタプロポール (人口四万) ボチ (Pots) バク (人口七万) カース (Kas) 及エリバン 等を爲す。

魯領中央亞細亞

(魯領中央亞細亞) 此地方は、北西北利亞に接し、南波斯及阿富汗に境し、西ウラル河及裏海に臨み、魯人が二百余年の長日月を以て漸次に占領したる所なり。其面積百有餘万方哩なり、然れども人口僅に五百万を越ゆるのみ。

中央亞細亞鐵道は、千八百八十八年五月二十七日に開通せり。此は裏海より、直にサマルカンドに至るものなり。

(表面) 全國殆ど砂漠及平原を以て充満し、又天山の側及びバミル高原の西斜面に於て風光美なる山地あり、此等の山岳地方を除き、此國に (一) キルギス (Kirghis) 高原

(二) セミレチンスク (Semirechinsk) 高原 (三) カラカム (Karakum) 及キジルカム (Kizil-

Kum) 砂漠 (四) ウストウルト (Ust-urt) の荒漠ある高原あり、此國はアラル及裏海流域の東部地方と稱すべし。

(河湖) 之を西方より始めんに、主要の河川に、アラル海に注ぐアム (Amu) 及シール (Syr) の對河あり、バルカシユ (Balkash) 湖に注ぐ七河あり、其最も大なるものをイリ (Ili) 河とす、又イルチシユ (Irish) 河あり、イルチシユ (Ish) の大濼河なり、湖の重要あるものには、アラル海及バルカシユ湖あり。

(氣候及産物) 其氣候は全く大陸的にして、冬時極寒、夏時酷熱なりとす。河水流るゝ處或は灌漑の便ある處に於ては、頗る美なる菓實植物穀物等生長し、唯降雨により僅に其土地を濕す所に在りては、牧畜に供する雜草繁茂するのみ。

(區劃及都府) 魯西亞は此地方を九區に分ち、概して皆其河名を以て稱す。但し歴史に顯るゝ名を知らんことを要す、即ち西土耳其斯坦 コーカンド (Kokand) キバ (Khiva) 及ボカラ (Bokhara) なり、タシケント (Tashkent) は西土耳其斯坦に於て最大なる都府にして、又其首府なり、サマルカンド (Samarkand) は中央亞細亞大鐵道の終

極點なり。

西比利亞

(西比利亞) 西比利亞の大地方ハ、魯西亞帝國の亞細亞に於ける主要の領地にして其過半ハ未だ文明に至らず、唯其南方のみハ、將來商業の發達すべき望十分なり、其境界左の如し。

一北 北氷洋

二東 太平洋

三南 支那帝國及魯西亞領中央亞細亞 四西 歐洲魯西亞

(廣袤及人口) 面積四百八十二万六千方哩、人口僅に五百万にして、平均一方哩に付、殆ど一人の割合なり。

(組織) 西比利亞の過半ハ、一大平原にして、一樣に西北に向て斜面を爲せり。全國低地高地の二者より成る。低地ハ即ち大平原なり、最も廣き所ハ西方にして、東方に至るに従ひ、次第に狭少となる。高地ハ高原及山岳より成り、東に至るに従ひ、次第に廣大となる。

一、北方海岸は低平にして、一年の大半は氷結せり。岬の主要なるものには、ノースイースト岬 (North-east) あり、舊大陸の最北點なり、イースト岬 (East) は最東點にして、ロサッカ岬 (Lopaka) はカムチアツカの南端なり。

二、入江の主要なるものには、オビ湾 (Gulf of Ob) エニサイ海 (Yenesai) ヌイミン海 (Taimyr) カタメンガ灣 (Khatanga) マナヤル灣 (Andry) 及本土と樺太間の韃靼灣等あり。

三、島嶼の主要なるものは、化石象牙を産するを以て有名なるリアフオン (Likhov) 諸島、新西比利亞、マリア諸島として、皆北氷洋にあり。其他ベーリヤング海に於て、セントローレンス (St. Lawrence) ベーリヤング諸島、及アウエウチアマン (Auluitian) 諸島等あり。

(山嶽) 高地の南端ハ、即ち山脈にて限らるたり、著名ある山脈ハアルタイ山 (Altai) ヤプロノボイ山 (Yakhonovoi) 及スタノボイ山 (Stanovoi) と爲す。

(河川及湖沼) 西比利亞に於て、河流の大なるものをオビ、エニサイ、レナ (Lena) 及黒龍江の下流と爲す。オビ、エニサイ、レナの三河ハ、殆ど互に相並行して、北氷洋に注ぐ。然れども其深河ハ、皆西北及東北を流るゝを以て、烏拉山より太平洋に至る間、水路の便を欠かず。全國實に河川縦横に貫流し、其舟航すべき流程、合して殆ど三万哩に至る。湖沼の最大なるものをバイカル湖 (Baikal) と爲す。又亞細亞に於て最大なる

淡水湖なり。

(氣候) 西比利亞の概して大陸的氣候を有す、是に蓋し二理由あり(一)大平原の斜面の太陽に反し、氷洋に面し、最も寒冷ある空氣に曝さるゝと、(二)中央亞細亞の大高原の温暖なる南洋の勢力を防避すると、是なりとす。西比利亞の極寒帯を有す、ベ
ルコヤンユク (Verkhoyansk) 是にして、此處に在りては、寒暖計の氷點、以下百十七度
に下り、夏時百二度に上るとあり、反之遙か南方に至れば、大に温和なる氣候を有す
る所なきに非ずとす。

(植物) 西比利亞の植物に、著名なる三帶あり、雜草繁茂せる高原、森林帶及タン
ドラ是なり。

一、高原は南方に在り、豈饒なる穀田甚だ廣し。

二、森林帶には各種の樹木を産す、最も普通なるものをコニファー (Conifer) と爲す、落葉松北
方の限界を成す。

三、タンドラに於ける植物は、唯若昔牧草に通さず。

(産業) 獵獸漁業及鑛業の主要の産業にして、南方に在ては農業及牧畜業なり、魯

西亞支那間の商業、活潑に此國に行はる。

一、毛皮を取らんが爲す、捕獲せらるゝ動物の種類、殆ど五十種に上り、毎年百万頭の獵あ
り。

二、河湖頗る魚類に富み、アナヤル (Anadyr) 河の如きに於ては、群夥しく群集して、流に遡り
波濤を起す程なり、得たる魚類は、之を乾燥してセントピートルスホルグに送る。

三、産出金屬の主要なるものを金と爲し、銀銅之に次ぐ。

(人民) 西比利亞の人民多し、魯人にして、五分四以上を占む、此國の實に魯西亞
の流竄國ありとす、其土人の蒙古「フシニク」及韃靼人種に屬し、概ねシャマニズム
(Shamanism) を奉ず。

(區劃及都府) 魯西亞人此國を八區に分つ、概ね其主要なる都府の名を以て稱
す、而して其都府の皆其所在の河に由て名を得るものなり、此國にハ人口二万以上
を有する都府、僅に四あり、トムスク (Tomsk) イルクツク (Irkutsk) オムスク (Omsk) トボ
ルスク (Tobolsk) 是なり、浦塩斯德の南海岸に在りて、太平洋に於ける主要の軍港た
り。

亞細亞土耳其

(緒説) 土耳其帝(サルタン)の歐洲に領地を有し、亞拉比亞に於て海岸地方を有する外、西方亞細亞に大地方を領せり。此地方の波斯灣より地中海に至る、之を三部に分つべし、小亞細亞、シリヤ、及ユーフレイッタイグリス河谷是なり。其面積凡そ七十二萬方哩あり、其境界左の如し。

- 一、北 黒海
- 二、東 波斯及外部高加索
- 三、南 亞刺比亞砂漠及地中海
- 四、西 多嶋海

小亞細亞

(位置) 小亞細亞の黒海多嶋海及レバント(Levant)の間に横はり、數千年間學問商業の交換所なりき。此地方の西方に突出したる一大半嶋にして、アーメニヤ及クル

チスタン高原の西部なり、三面海に臨み、良港甚だ多く、此國として、愈知識財貨の交換中心ならしめたり。

(海岸) 小亞細亞の海岸の、凸凹甚だ多し、大陸既に港灣多きのみならず、又其嶋嶼も沿岸の出入多しとす。

- 一、主要なる港灣は、西海岸に於ては、アドラマイナ(Adranayid)、スミルナ(Smyrna)、スカラノス(Scalanova)及ロス(Ros)の諸灣あり、南海岸に於ては、マカンマローン(Sanderoon)及アタヨラ(Aadlin)の諸灣あり。
- 二、島の主要なるものは、黒海にインサエー(Judieh)、南方にアナモーマ(Anamour)西方にマバ(Baba)あり。
- 三、多嶋海中、土耳其領の最大なる島を、ミチレン(Mitylene)、チオ(Chio)、サモス(Samos)、コス(Kos)及ローン(Rhodes)とす。其住民は概ね希臘人なり。レバント海岸に近くサイプラス嶋あり、方今英領なり。

(地勢) 小亞細亞の海面を抜くと二千呎乃至三千呎の高原にして、其端山脈長く連り、黒海及地中海に向て、其土地徐々に下る。國境ある山脈とトローラス(Taurus)アンチ・トローラス(Anti-Taurus)及ポンチク(Pontic)海岸山脈と爲す。内地の概ね砂漠なり、最

大なる河流のキジルイムツク (Kizil-Irmak) あり、黒海に注ぐ。最大なる湖水のバン湖 (Van) あり、吐口なし、水頗る鹹なり。

(氣候) 小亞細亞の氣候は、全降度に於ける歐洲諸半島の氣候より寒く、且大陸的なり。これ主として寒風の魯西亞高原及黒海より吹き來るに由る。又頗る乾燥の氣候なり。

(産業) 農業の主要なる産業にして、木綿、鴉片、美麗なる菓實、葡萄酒及絹を産す。商業の海岸都府に於て、次第に盛大に向へり、鐵道の布設増加するに隨ひ、益進歩を見るべきなり。現今亞細亞土耳其全体に於て、鐵道の延長僅に四百哩に過ぎず。

(人民) 人口殆ど七百萬あり、其人民の數人種より成り、各都府に必ず四五種の國民を有す。國の權力を握るもの、オスマンリ土耳其種を最も、國の商業其他の職業に至りては、希臘人及アーメニヤ人の手に在り。

(區劃及都府) 小亞細亞の九區に分つ、アーチペラゴ (Archipelago) 及トレビゾン (Trebizond) 最も名あり。大都府をスミルナ (Smyrna) と爲す。遙く下りてトレビゾン (Trebizond) 及アダマ (Adama) あり。

スミルナ (人口二十萬) は、レバント商業の中心なり。希臘人、アーメニヤ人、其貿易の大半を掌握す。

(歴史上の遺物) 小亞細亞の名、人をして轉々盛なる往古の歴史を想起せしむ。實に此國の如き狭小なる地方に、此の如く歴史上の事實を出したるは、地球上なき所にして、國中至る所に頗る廣大なる往古文明の遺物あり。其都府の今荒廢せりと雖も、古昔頗る壯麗なりし證據歴々として見ると得べし。トロイ (Trois) スミルナ (Smyrna) エフィサス (Ephesus) ミレタス (Miletus) の如き、往古の大都府は、西海岸にあり。其他内部の平原及高地に、サードニス (Sardis) ノンデルヒヤ (Phildelphia) ラオヂシア (Laodicea) 等有名の場所甚だ多し。

シリヤ

(緒説) シリヤのシナイ (Sinai) の半島よりスカンデルン海に至る間、殆ど直線に横たれる長條の山岳地方にして、其海岸をレバントと稱す。其南の小地方はパレスチナ (Palestine) なり。

(廣袤及人口) シリヤの面積五萬方哩にして日本の三分一に當る、人口三百萬なり。

(地勢) 此國の地勢を知らんと欲せば先づアンチオク (Antioch) 及死海の間立たるバルベック (Balbeck) の荒府を基とせよ。此府より四大河を出す、ヨルダン (Jordan) オロンツ (Orontes) レオンツ (Leontes) 及アバナ (Abana) にして、各異なる方向に流る、バルベックの北方にレバノン及アンチレバノンの並行山脈あり、二山の間エルベカー (El-Bekaa) の高谷あり、又其南方にシユデア及サマリヤの山脈あり、エルゴール (El-Ghor) の名あるヨルダン河の深谷其間に在り、今簡單に述べれば、北方に於ける二山脈、高谷を擁し、南方に於ける二山脈、低谷を包み、斜面地中海に短く砂漠に長し、これシリヤの地勢なり。

(河湖) シリヤに於て、重要なる四河をオロンツ、ヨルダン、レオンツ及アバナと爲し、湖沼の大なるものをタイベリアス (Tiberias) 及死海と爲す。

(區劃及都府) 方今のシリヤハ之を三地方に分つ、アレポ (Aleppo) レバノン及ヒシリヤ是なり、此等地方の首府をアレツポ、ドールカマー (Dair-el-Kamar) 及ダマ

スカス (Damasus) と曰ふ、其他重要なる都府をスカンデルーン、ベールート (Beirut) 及ジェルサレム (Jerusalem) と曰ふ。

ダマスカス(人口廿二萬)はシリヤの最大都府にして、陸商貿易の大中心なり。其港をベールートと曰ふ、シリヤ海岸に於て最大なる商業市府なり。

ユーフレーツ及タイグリス沿水地方

(ユーフレーツ及タイグリスの流域) 此大流域ハアーメニヤの高原と廣大なる低原を含有す、其北方山岳多き部分にハ、アーメニヤ及クルヂスタン (Kurdistan) あり、其南方にハ、メソポタミヤ (Mesopotamia) 及イラクアラビ (Iraq-Arabi) の平原あり。

タイグリス河(千百哩)及ユーフレーツ河(千七百哩)はアルメニヤの高原に發源し、メソポタミヤの大地方を包み、合してシャテルアラブ (Shatel-Arab) (百哩)となり、波斯灣に注ぐ。

(區劃及都府) 土耳其人は此地方を五區に分つ、エルゼルーム (Erzeroum) ハン (Van) ディアルベカー (Diarbekir) バグダド (Bagdad) 及バッサラ (Bassorah) 是なり、其首府の名亦之と全じ。

亞拉比亞

(緒説) 亞拉比亞の世界第一の大半嶋なり、又亞細亞三大半嶋の最大なるものにして、最西に在り、且最も團塊と爲せるものにして、海岸の出入極めて少し。

(位置) 亞拉比亞の舊世界の正中央に在り、故に喜望峰の海路未だ發見せられざる以前に在りて、頗る大なる貿易を有せり、其境界左の如し。

- 一、北 亞細亞土耳其
- 二、東 波斯灣及オーマン灣
- 三、南 亞丁灣及亞拉比亞海
- 四、西 紅海及蘇士運河

(形狀及廣袤) 亞拉比亞の殆ど四角形を爲し、其海岸線の短く、其形狀の簡單あり、其面積百廿六萬方哩あり。

(組織) 此國の表面甚だ整然として、中央高原、砂漠帶、半嶋の西端南端及東南端に於ける海岸山脈等、此國を組成す。中央高原の北方に於て二千五百呎より、西南に於

て七千呎に至る、二三の山脈の高原を東西に横斷せり。

一、中央高原をチツド (Tibet) と稱す。

二、砂漠帶を分て三部と爲す、北方に在るものをチフド (Kend) 砂漠、中央に在るものをダーナ (Dana) 砂漠、南方に在るものを亞拉比亞大砂漠と爲す。

三、亞拉比亞に於ては、河川もなく、又湖水もなく、唯降雨期節に於ては、幾多の小流を作る所の河あれども、一年の中、九ヶ月乃至十ヶ月は常に乾涸せり。

(氣候) 亞拉比亞の氣候の酷熱にして、頗る乾燥なり、實に亞弗利加と全しき氣候にして、其國の過半の無雨帶に在り。

(亞拉比亞及デッカンの反對) 亞細亞に於ける此二大半嶋間に著しき反對の點を見る、今之を左に示すべし。

亞拉比亞

- 一、亞拉比亞の南方に於て、其幅廣し。
- 二、亞拉比亞の三分一は砂漠なり。

デツカン

- 一、デツカンは、南方に至るに隨ひ、次第に狹少となり、終に海角に終る。
- 二、デツカンには、砂漠なく、豊饒なる土地甚だ多し。

(都府) 全半嶋中、人口五十万以上を有する都府僅に一なり、マスカット(Muscot)是なり、サナ(Sana)の之に次で、大なるものなり、最も有名なるものをメツカ(Mecca)メチナ(Medina)の二府とす、メツカはマホメットの生地にして、メチナは其墳墓を有する所なり、其他亞丁(Aden)モカ(Mocha)リアド(Riado)及ハール(Hail)等の小府あり。

(交通) 亞拉比亞に道路なく、河流通河なく、又湖水なし、然れども至る處隊商道路あり、其方向に其途に池泉の存する多少に由て、定まるものなり、メツカ及メチナの商業道路の中心あり。

波斯

(波斯) 波斯のイラン大高原の西部にしてあり、其大高原の、タイグリス河よりインダス河に至り、アーメニヤの山岳よりヒンヅークーシユ連山に至る、波斯の高原の海面を抜くと平均五千呎あり。

(境界) 北に裏海あり、南に波斯灣あり、西にアーメニヤあり、東に亞富汗皮路直坦あり、アラハト山、土耳其魯西亞及波斯帝國の相會する所なり。

(廣袤及人口) 面積六十二万八千方哩、人口殆ど八百万あり、平均一方哩に付十二人に當る、其人民主として、アーヤン種に属すれども、北方及東方に於ては、數多の蒙古人あり、皆遊牧者なり。

(地勢) 波斯の河谷を顛倒したる如き形状の高原にして、北方裏海に下り、南方波斯灣に下る、高山脈西北より東南に亘り、東北にコラツサン(Khorassan)の大鹽砂漠あり、東南にロット(Lot)の砂漠あり、國の殆んど三分二は内地流域にして、其水海に注がず、國の四面皆高山脈を以て圍繞せり。

- 一、兩方に於て最も高き山脈をクアサナル(Khu Dinar)と曰ひ、北方に於て最も高きものをエルブルズ(Elburz)と爲す、其高峯をデマヤンド(Demavend)と曰ふ、火山にして、高さ一萬八千五百七十呎あり。
- 二、波斯に於て舟航すべき河流唯一あり、カルン(Karun)と曰ふ、運河に由りてシヤツアルアラア河と相連る。
- 三、最も大なる湖水をウレミヤ(Urmiyah)と爲す、海面を抜くと四千五百七十呎の高處に

(都府) 全半嶋中、人口五十万以上を有する都府僅に一なり、マスカット(Muscath)是なり、サナ(Sana)の之に次で、大なるものなり、最も有名なるものをメツカ(Mecca)メヂナ(Medina)の二府とす、メツカはマホメットの生地にして、メヂナは其墳墓を有する所なり、其他亞丁(Aden)モカ(Mocha)リアド(Riadh)及ハーハ(Hail)等の小府あり。

(交通) 亞拉比亞に道路なく、河流通河なく、又湖水なし、然れども至る處、隊商道路あり、其方向に其途に池泉の存する多少に由て、定まるものなり、メッカ及メヂナの商業道路の中心あり。

波斯

(波斯) 波斯のイラン大高原の西部にしてあり、其大高原の、タイグリス河よりイリダス河に至り、アーメニヤの山岳よりヒンヅークーシユ連山に至る、波斯の高原の海面を抜くと平均五千呎あり。

(境界) 北に裏海あり、南に波斯灣あり、西にアーメニヤあり、東に亞富汗皮路直坦あり、アラハト山、土耳其魯西亞及波斯帝國の相會する所なり。

(廣袤及人口) 面積六十二万八千方哩、人口殆ど八百万あり、平均一方哩に付十二人に當る、其人民主として、アーヤン種に属すれども、北方及東方に於ては、數多の蒙古人あり、皆遊牧者なり。

(地勢) 波斯の河谷を顛倒したる如き形状の高原にして、北方裏海に下り、南方波斯灣に下る、高山脈西北より東南に亘り、東、北にコラッサン(Khorassan)の大塩砂漠あり、東南にロット(Lot)の砂漠あり、國の殆んど三分二の内地流域にして、其水海に注がず、國の四面、皆高山脈を以て圍繞せり。

- 一、南方に於て最も高き山脈をクレーサナ(Khu Dinar)と曰ひ、北方に於て最も高きものをエルブルズ(Elburz)と爲す、其高峯をデマベンデ(Demavend)と曰ふ、火山にして、高さ一萬八千五百七十呎あり。
- 二、波斯に於て舟航すべき河流唯一あり、カラム(Karun)と曰ふ、運河に由りてシヤツセルアラフ河と相連る。
- 三、最も大なる湖水をウラムシヤ(Urumiyah)と爲す、海面を抜くと四千五百七十呎の高處に

在り鹹味頗る強く、水甚だ淺し。

(氣候及植物) 波斯の氣候の大陸的にして、頗る乾燥酷熱あり、高地に在りては寒甚だしとす。植物の點に於ては、波斯の反對の性質を有する國にして、即ち海に面する斜面よ於ては繁茂せる森林を以て蔽われ、寂寞たる塩質の高原に在りては、哀れある矮樹あるのみ。

エルズルツの北方、斜面に於ては、廣大なる森林ありて、松柏檜樅胡桃山毛櫸黃楊等を出す、小麥及大麥は數千呎の高處に産し、低地には木綿砂糖葡萄及歐洲の菜實を産す。

(人民) 波斯人の實に東方の巴里人と稱すべきものなり、都府村落に居るもの皆禮儀あり、風俗頗る善良なり、重に人民の間に行はるゝ宗教を回教と爲す。

(産業) 主要の産業を農業と爲す、人民の殆ど三分二は、土地を耕作するものなり、然れども陶器毛氈肩巾其他奢侈品の製造の如き、頗る價值あるものとす。

(商業) 波斯の輸出貿易頗る小なり、外國貿易合して一年一人に付一磅の高に過ぎずと爲す。

一、輸出は大抵綿羊毛、玻璃、砂糖、茶、咖啡等なり、輸入は鴉片、絹、珠寶、石等とす。

二、國中車道唯二條あるのみ、而して國の貿易は皆陸路に由て行はる。

三、鐵道なく、電線は殆ど四千哩に達せり。

(都府) 波斯にハ人口二萬五千以上の都府十三あり、中五萬以上を有するもの五、更に此中十萬以上のもの二あり、五大都府はテヘラン(Tehran)人口廿壹萬、首府タブリズ(Tabriz)人口十八萬、イスマハン(Isfahan)人口六萬、メシエント(Meshed)人口六萬、及ハルフルムニエ(Harfulumnie) Barfushh人口六萬なりとす。

(政体) 波斯の純粹の專制帝國にして、王をシャールエンシャ「王中の王」と稱し、參政官及大臣之を輔助す。

一、常備兵殆ど五方あり。

二、海軍は二小軍艦より成る。

三、此國は國債を有せず。

四、王は遊牧種族、全人民の三分一を占むの上に權力頗る弱し。

亞富汗及皮路直坦

(緒説) 此二國のイラン大高原の東部より成り、共に高原にして、亞富汗の一層山岳多しとす。

(亞富汗) 此國の四邊形の大高原にして、又大山塊なり。國の表面四分三以上の峻嶮なる山嶽を以て蔽ひ、約言すれば、此國の山脈、狹長の山路及高谷を有する國なりとす。其面積廿七萬八千方哩あり、其境界左の如し。

- 一、北 土耳其斯坦及アム河
- 二、東 支那帝國及英領印度
- 三、南 皮路直坦
- 四、西 波斯

(組織) 今國を四大流域に分ちて之を観察すれば、容易に其組織を知るを得べし。

- (一)アム (Amu) 流域に属する北部地方
- (二)カブル (Kabul) 流域より成る東部地方
- (三)ヘルムンド (Heri-Rud) 流域より成る中部地方
- (四)ヘルムンド (Helmand) 流域の過半より成る南部地方是なり。

(山嶽) 主要なる山脈をヒンヅークーシユ山脈及スリマン連山と爲す。スリマン山のイラン高原の東端を爲し、インダス河谷と此國とを分つ。

(山路) 英國より取りて、亞富汗の必要なる所以、蓋し中央亞細亞より印度に至る通路、實に亞富汗連山の中に存すればなり。その通路數多あり、就中有名なるものをカイヘル山路 (Khyber Pass) クラム山路 (Korum Pass) ホーラン山路 (Bolan Pass) とす。

(氣候) 氣候の極端の氣候と有す、又頗る反對の性質を有す、夏時頗る熱く、冬期頗る寒く、河邊釜中に在るの思あるよ、高地に在りては、裂膚の感を爲す、如きことを其一斑なり。

(動植物) 赭山、荒原、豊饒なる沿水地方、此の如きの普通亞富汗の形勢にして、其沿水地方に各種の穀物の勿論、廣大なる菓實及植物の夥多と産す。就中小麥、玉蜀黍、米、其他林檎、葡萄及石榴多しとす。

獅子豹の小なるものはヒンヅークーシユ山中に徘徊し、狼、熊も棲めり

(人民) 人口殆ど五百萬あり、人民多くなり、アーヤン種に属すれども、又蒙古種或は混合種無きに非ずとす。

(商業及政体) 亞富汗人の概ね、牧畜を務む、絹布及毛氈の、主要の製造品あり。凡ての物品の駱駝或は馬背にて運搬せらるゝあり、抑も此國たる、印度、波斯、土耳其斯

坦の間に在るが故に、運搬商業頗る大なるべき次第なりと雖も、戦乱及虐政の爲めに阻害せられたり。カブルの「アミール」君長の「亞富汗」の國王たると、英政府に於て之を承認せり。

(都府) 重要なる都府僅に三に過ぎず、即ちカブル(五萬)ヘラット(Herat)人口五萬及カンダハー(Kandahar)にして、皆此國に於て軍備上頗る必要なる處とす。權勢及人口の之に集りて、主要の地位と成せる、蓋し之に由る。其他有名なるものをグズニ(Ghuzni)及ジェラハンツ(Jellalabad)と曰ふ。

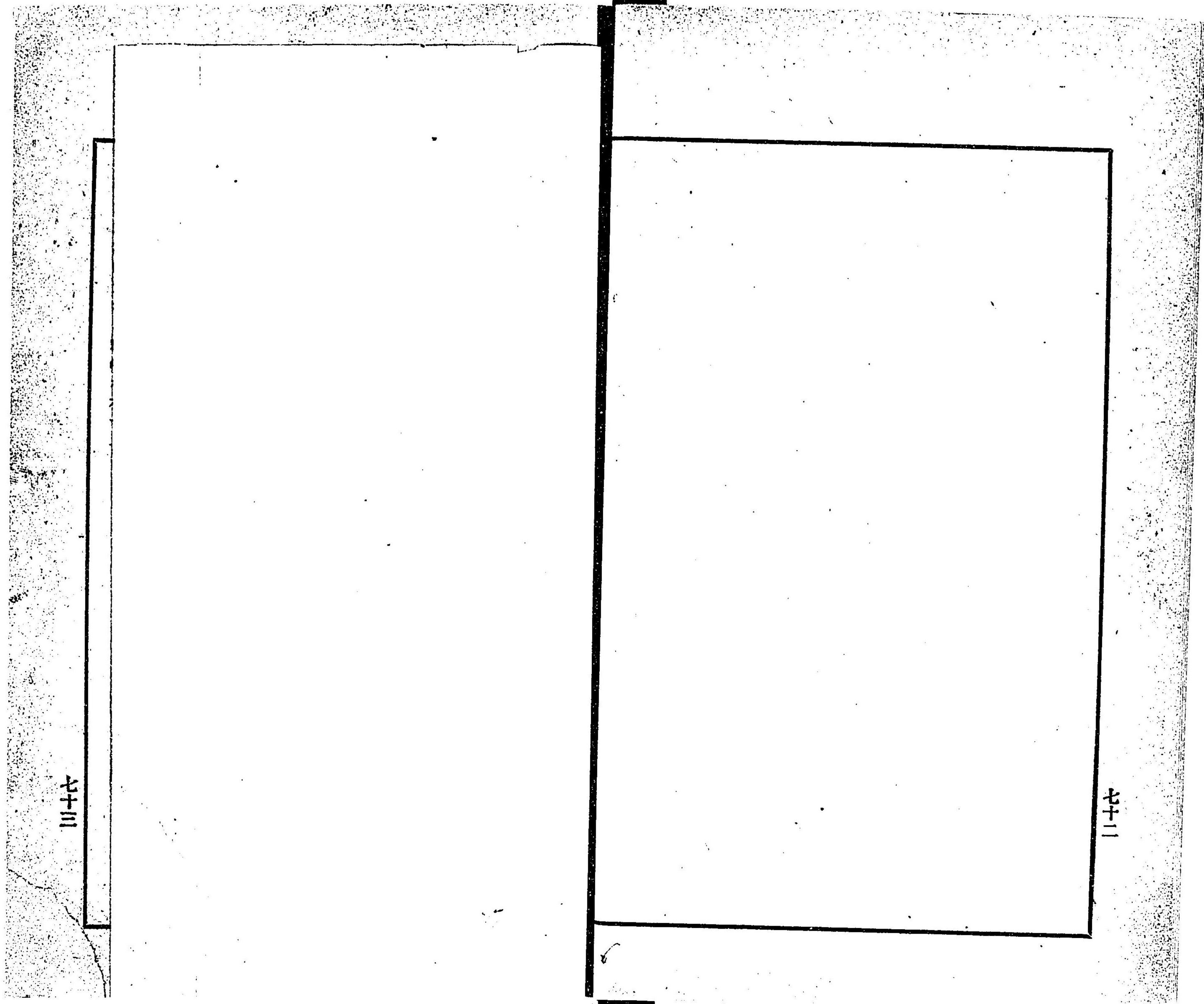
(亞富汗土耳其斯坦) ヒンズークーシコ山及アムダリア(Amu-Daria)河の間に在る國を亞富汗土耳其斯坦と稱す。亞富汗人之を征服せしに非ざるも、魯西亞及英國の合意にて「アミール」之を支配するに由り、此く名けしなり。トルコマン人之に住し、國の數多の小州に分劃せらる。其最も著名なるものをバルタ(Balkh)と曰ふ。往古のバクトリヤ(Bactria)なり。

(皮路直坦) 此國の人口稀薄なる砂漠高原にして、イラン高地の東南部を占む。其高原の極まる所、即ちシンド(Sinde)の低地なり。國主なるケラット(Kelat)の「カン」の

印度女帝の臣下なりとす。

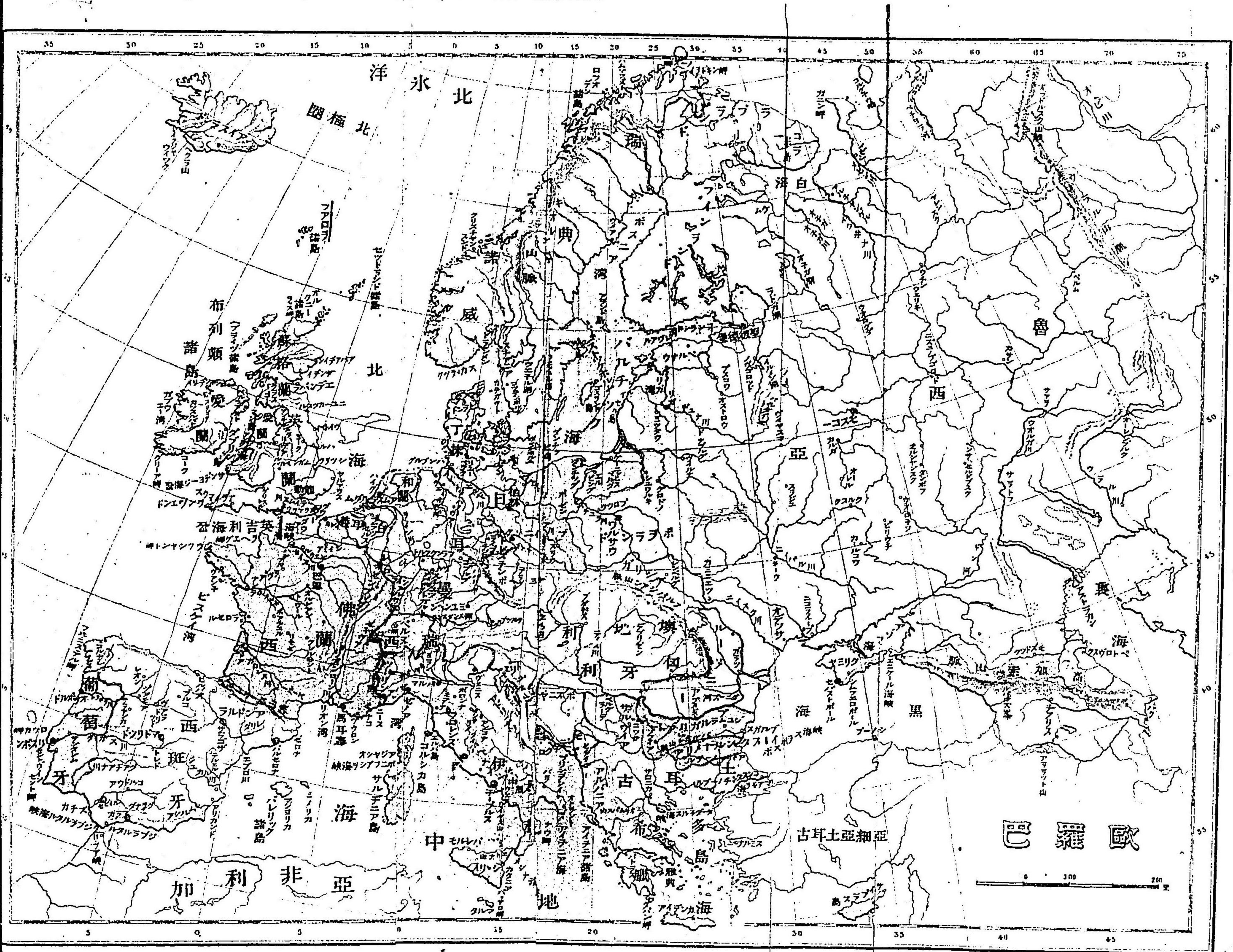
(人民) 人口貳百萬あり、其人民の二種に属す、一は「ベルチヌ」(Beluchis)にして、西部及東部に住し、其先「アーヤン」派に出づ、一は「ブラフニス」(Brahuis)と曰ひ、中部に住し、蒙古人の子孫なり。兩人種共に回教を奉ず。

(都府) 此國に於て重要なる都府のケラット(首府)及ケッタ(Qetta)の二あるのみ、ケッタは軍備上最も必要なる所とす。



三十一

三十二



第二篇 歐羅巴

總論

(緒説) 歐羅巴の舊世界三大陸の中最小なるものなり此大陸の實に亞細亞に附着する一大半島にして亞細亞より離るゝに隨ひて益半島の性質を帯ぶ。さて此大陸の五大洲中最小なるものなりと雖も文明の中心なり又貿易交通の樞點あり其然る所以のもの、一、其世界諸大陸の中央に位するに由り、一、其海岸線の非常に長く且陸地の形勢變化甚しきによるなり。

(歐羅巴及亞細亞の比較 異同の諸點) 先づ兩大陸の間相類似せる諸點を示せば左の如し。

- 一、大なる半島多し。
- 二、最も肝要なる半島は皆南方に向ふ、即ち歐羅巴に於ては、西班牙、伊太利、バルカン半島、スカンヂナビヤ、亞細亞に於ては、亞拉比亞、印度、支那、カムチャツカの如し。
- 三、東南に大なる群島を有す。

四、山地高原は重に南部に在り。

次に相反對せる諸點を示せば左の如し。

亞細亞

- 一、亞細亞は、五大洲中最大なるものにして、歐羅巴の五倍なり。
- 二、亞細亞は、一様廣大なる高原の大陸なり。
- 三、亞細亞の半島は、僅に全面積の五分一を占むるのみ。
- 四、亞細亞の海岸線は比較上短しとす。
- 五、亞細亞の山岳は、世界最高のものなり。
- 六、亞細亞には對河敵多あり。
- 七、亞細亞は概して大陸的氣候を有す。
- 八、亞細亞にては、東西の交通容易なるも、

歐羅巴

- 一、歐羅巴は、五大洲中最小なるものなり。
- 二、歐羅巴は、表面頗る變化錯綜せる大陸なり。
- 三、歐羅巴の半島は、全面積の三分一を占む。
- 四、歐羅巴の海岸線は、頗る長く、面積に比較して亞細亞に三倍す。
- 五、歐羅巴の山岳は、高度より於て第二位に在り。
- 六、歐羅巴には、對河一もなし。
- 七、歐羅巴は大抵、海洋的氣候を有す。
- 八、歐羅巴にては北より南に至るに、通路

南北の往來に至りては高原之を妨ぐ。

困難を感ずると少しとす。

(境界)

歐羅巴の三面海に臨み唯ウラル山を以て亞細亞と限る。歐洲の最北端をノードキン (Norkin) 岬と爲し、最西端をロカ (Roca) 岬とし、最南端をタリフワ (Tarfua) 岬となす、其境界左の如し。

- 一、北 北氷洋
 - 二、東 ウラル山 ユラル河 裏海
 - 三、南 地中海黒海及び高加索山 四、西 大西洋
- ノードキンは、大陸の極端なり。ノース岬 (North Cape) は尙北方にてマゴロー岬 (Magaroo) に在り。

(形状)

歐洲に於て最も著しき其海岸の非常に出入せる事にして、他洲に見ざる所なり。平均百九十方哩に付海岸一哩の割合にして、半島の長く海中に突出し、海水に深く陸に浸入せり。歐洲の西又行くに従ひ半島の性質愈著し。

(廣袤)

歐洲の面積三百七十万方哩あり、其最も長さ處のセントビンセント (St. Vincent) 岬よりウラル山に至る間にして、三千三百七十里あり、其最も廣き處のマタパン岬 (Cape Matapan) よりノードキンに至る間にして、二千四百哩ありとす。

一、歐羅巴は地球上陸地の十四分の一を占む。
二、亞細亞は殆ど歐羅巴の五倍にして亞弗利加は三倍なりとす。

(海洋) 歐羅巴は實に内地海を有する大陸なり。南方に於て、三大海を有し、北方に於て、又三海あり。南に於けるものを裏海、黒海、及び地中海と爲し、北に於けるものを白海、バルチック海、及び北海と爲す。

(バルチック海及び地中海の對照) バルチック海は、北方に於ける地中海なり、既に位置に於て相反對するが如く、其他反對の點數多あり、今之を左に掲ぐ。

バルチック海

- 一、海甚だ深く岸低し。
- 二、年中降雨の地方に在り。
- 三、之に注ぐ大河甚だ多し。
- 四、温度甚だ低く、蒸發少し、十二月より四月に至る間氷結す。
- 五、之に注流する河川の爲め、其水面高し。

地中海

- 一、海甚だ深く岸高し。
- 二、秋冬降雨の地方に在り。
- 三、面積の大なるに比して、河川の注流甚だ少し。
- 四、温度高く蒸發ハ大にして、且速なり、氷結する事更になし。
- 五、蒸發の爲め、水面低し。

六、水甚だ淡く、鹽は僅に大洋に於けるもの四分一を含むのみ。

七、バルチック海は水常に溢れ、潮流獨逸洋に向ふ。

六、其水大洋より鹹味甚し。
七、地中海は水不足にして、常に大西洋より潮流來る。

(水路) 歐洲は又大なる自然の水路を有す。重要な海峡を北海とバルチック海との間、及び於けるもの、大西洋と地中海との間に於けるもの、及び地中海と黒海との間に於けるものと爲す。

(島嶼) 半嶼多き歐洲は、島嶼亦甚だ多し。若し其大きさに比する時に於ては、世界中歐洲の如く、島嶼の多き大陸を見ざるなり。島嶼中最も豊饒なるものは、皆南方氣候好き處に横たる。歐洲に於ける島嶼は、北氷洋、大西洋、バルチック海、地中海に在りて、概ね皆文明及び商業の踏石と見るを得べし。

一、北氷洋に於て、重要な島嶼をジヤン・メーヘン(Jan Mayen)、ヴァーガタ(Vaygatz)、ノボゼンブラ(Nova Zembla)と爲す。

二、大西洋に於ては、那威海岸に於て、ロフネン(Lofodens)群島あり、アイスランド(Iceland)及びフアロー群島(Faroes)あり、ブイナシエ諸島あり、佛蘭西北海岸の近傍に海峡諸島(Chanel

Islands)あり、葡萄牙を去る西方九百哩に於てアゾール諸島(Azores)あり。

三、ノルウェー海の入口に當りて、丁抹の群島即ちゼーランド(Zealand)ノールキ(Norway)等横はり、又ノールキ(Norway)及びホルンホルム(Bornholm)あり、チーランド(Oeland)及びゴットランド(Gotland)あり、ダゴ(Dago)及びチャーオ(Oesel)あり、ノランダ群島(Aland Isles)あり。

四、地中海に於ては、マジョリッカ(Balearic Islands)諸島横はれり、其最大なるものをマジョリカ(Majorca)と爲す、其他コルシカ(Corsica)及びサルデーニヤ(Sardinia)、エリバ島(Elba)あり、シチリア(Sicily)あり、イオニア(Malta)あり、希臘の西に於て、サイチニヤ群島(Ionian Islands)あり、多姆海に在ては、サイタベーン(Cyclades)及びスホーレン(Sporades)あり、其他カニヤブのアンディ(Andin)あり、サイプロス(Cyprus)あり、シチリア島は地中海に於て最大なるものにして、サレマニヤ之に次ぐ、サイプロスは普通之を亞細亞の部に入る。

(組織) 歐羅巴の海岸線及び島嶼等に富むのみならず、其組織に至りても尙一層錯雜せるものあり、彼のアルプス山系の如きあり、又低き山脈あり、斷續せる丘陵あり、其他高原あり、平原あり、谿谷あり、凡て此等の皆多少相接近するものにして、歐羅巴の西部に於て、殊に然りとなす、然れども歐洲の概して低地多く、全面積の三分二の低地なり、故に歐洲の低野の大陸なりと謂ふべし。

一、高く且廣き原野は、大に交通を妨害するものなるが、此種のものには、歐洲には絶えてある事なく、又砂漠の如きものも無し。

二、歐洲に於ける山嶽の性質は、又交通に便利なるものなり。

(東西歐羅巴) 東經廿七度を以て、歐洲を東西に二分するを得べし、東部歐羅巴の平坦一様にして、西部歐羅巴の參差錯綜す。

(山系) 歐洲に於ける山岳地方は、概ね其南部及び西北部に在り、其高さものをシエラネバダ山(Sierra Nevada)、ピニニス連山(Pyrenees)、アルプス連山(Alps)、カーパシアン連山(Carpathians)、バルカン山脈(Balkans)及びスカンディナヴィヤ羣山(Scandinavian Mountains)等と爲す、高加索山の亞細亞及び歐羅巴を限る山なり。

- 一、シエラネバダ山脈は、西班牙に在り、其山脈中最高のものにムンセー(Municee)にして、海面より高さ一萬一千六百六十呎なり。
- 二、ピニニスは、佛蘭西、西班牙間に在り、高く且廣き山脈なり、脈中最も高さものをネン(Nenhon)と爲す、高さ一萬一千六百六十八呎あり、ピニニス山脈の一部は、雪線の上にて在り、此山脈は、隧道を穿つを得ず、鐵道は之を繞りて布設せらる。
- 三、アルプスは、歐洲に於る最大山系なり、其高嶺多くは四時常に雪を以て蔽はる。此山脈

に在て最高嶺をモンブラン (Mont Blanc) と爲す、高さ一萬五千七百八十四呎にして、サ
ボイに在り、アルプス山脈は、伊太利と佛蘭西、瑞西及び獨逸諸國との限界をなす、アル
パニ山脈 (Apennines) は、之より出で伊太利を貫きて走る。

四、カーメシマン山脈は、ダニエール河畔のプレツスアルグより、チルソバに至るまで、大
なる馬蹄の形狀を以て據がり、以て匈牙利の大平原を包み、東風を遮る。

五、バルカン山脈は、ブドイフナツク海より黒海に亘る山脈の總稱なり、されど主として、
バルセリヤとバルカン半島を分割する山脈をば、かく呼ぶなり、最高峰は平均六千五百
呎なりとす。

六、スカンヂナヴィヤ山脈とは、スカンヂナヴィヤに於ける山脈を總稱せるものにして、其地
方々々に由て山脈の名異なるなり、南部は高くして、最高のもので八千四百呎に達し、殆
どモンブランの高さの二分の一なり、北部に於ては、スウェーデン (Svein) 最も高さ
五千三百廿呎に過ぎず。

(高原) 歐羅巴の亞細亞の如く甚だ高く且廣き原野なし、然れども西部に於て著
名なるもの四あり、西班牙の高原、瑞西及び巴威里高原、トランシルバニアの高原、及
びバルカン高原是なり。

(火山) 歐洲の火山は、ヘクラ山 (Mount Hecla) を除くの外、凡て地中海に於る嶋嶼或
は半嶋に限れり、活火山の重要なものをヘクラ (Hecla) エトナ (Etna) ヴェスビウス
(Vesuvius) 及びストロンボリ (Stromboli) と爲す。

一、ヘクラ山 (五千〇九十五呎にして、殆どモンブランの高さの三分一) は、アイスランドに
於て二座の火山中、最も高さのものなり。

二、エトナ山 (一萬〇八百四十呎にして、殆どモンブランの高さの三分二) は、シチリア島中
の最高山なり。

三、ヴェスビウス山 (四千六百六十呎) は、チーブルス海に於ける山にして、圓錐狀の上部を平た
くしたるものなり。

四、ストロンボリは、リマリ (Lipari) 諸島の一にして、毎五分時に蒸氣を噴出す。

五、中央佛蘭西、獨逸の西北部、東方、ヴェニス等に於て、噴火山數多あり。

(平原) 歐洲の大平原は、ヴェニス山脈よりワラル山の間、に擴がり、歐洲大陸の
三分二を占む、或は之を低地歐羅巴と稱す、此平原露西亞に於て最も廣し、然れども
高地歐羅巴に於ても、山脈及び高原中に雜る所の平原あり、即ちハンガリー (Hun-
gary) ヲラキヤ及びブルガリア (Wallachia and Bulgaria) ロンバーデー (Lombardy) ランゲ

ドック (Langnedoc) 上ライン (Upper Rhine) ボヘミア (Bohemia) 及びアンダルーシア (Andalusia) の平原の如き是あり。

(分水界) 歐羅巴に於て、大分水界東北より西南に走る。先づツラル山に起り、バルダイ高原 (Valdai Plateau) を過ぎ南方に連亘し、終にピレニース山脉に至りて止む。其西北の斜面、廣く東南のものに比して劣れり、是を以て歐洲の長河の皆南方の海に注ぐ。

(河川) 歐羅巴の河川甚だ多く、又能く大陸に分配せられ、四方に流る。而して又此河川の多くの、皆航行に適し、河口に於て良好の港を有す。其他歐洲河川の特質を表すれば、左の如し。

歐洲河川の特質

- 一、河口能く海岸に分配せらる。
- 二、山脈を貫流せずして、各方向を異にして、異なりたる海に入る。
- 三、大河は、多くは其深流航行に適す。ダニュープ河の如き深流六十を有す。
- 四、深河は概ね本河と直角に流れ、以て一國中遠隔の地方をして、交通に便ならしむ。
- 五、又深河は概ね溝渠を以て容易に相連絡せらる。

(三河系) 歐洲の河川の其注流する所に從て、之を三系に分つべし、即ち北氷洋系、大西洋系、及び裏海系是なり。

一、北氷洋に注ぐ所の最大河をヘンチヨラ (Petchora) と爲す。

二、直ちに大西洋に注ぐ最大河をロアル河 (Loire) バルチック海に注ぐものをビスチユラ河 (Vistula) 北海に注ぐものをライン河 (Rhine) 地中海に注ぐものをローン河 (Rhône) となし、黒海に注ぐものをダニュープ河 (Danube) 及びニルバー (Dnieper) となし、アソフ海に注ぐものをドン河 (Don) と爲す。

三、裏海に注ぐ最大河をボルガ (Volga) 河と爲す。

(歐羅巴の二大水路) 歐羅巴の二大河をダニュープ (長さ二千哩) 及びライン河 (長さ八百哩) と爲す。ダニュープ河の、其水の容積より見ると、歐洲中最も大なるものにして、又東方に流るる唯一の大河なり。故に獨逸南部、墺地利、匈牙利及び其河邊に於ける小國民に取りて、東方に至る大道なり。ダニュープ河の他の歐洲諸河川より、一層多くの土地人種及び國語を經過して流るるものなり。又ライン河の西部歐羅巴の大水路にして、數多國民の貿易及び旅行に便を與ふ、實に此二河の全大陸に大關係を有するものなり。ダニュープ河の、アルプス大山脉と併行して奔り、ライ

ン河ハアルプス山脈とネザールランドの間に在る高原を經過す。

(湖水) 歐洲河川の源ハ、重に西南の高原及び東北の低原に在り、湖水も亦然りとす。東北に於ける湖水ハ概ね淺く岸低し、然るに西南に在るものハ甚だ深く、アルプス山系の中に横り、其周圍風光明媚なり、低原に於ける二大湖をラドガ(Ladoga)及びオネガ湖(Onega)と爲す、山岳に於ける四大湖ハ、アルプス山の北に在るものをベネン(Genève)及びコンスタンヌ(Constance)と爲し、南に在るものをガルダ(Garda)及びマイジョール(Nuggiario)と爲す。

(氣候) 歐洲の氣候ヲ研究するニ當りて、注意すべき要點六あり、(一)其地多クハ北温帶中に在り、(二)其最南點ハ北回歸線を去る九度にあり、(三)西及び南ハ海を以て環らす、其海或ハ深く陸地に侵入するものあり、而して大西洋ハ濕氣及び温氣の最大倉庫と謂ふべきものあり、(四)大陸の西半部に於て流行する風ハ、大西洋より來る所の西南風にして、毎三日に二日間吹ク、(五)此西南風を遮る横嶺一もなし。

以上の事實より下の斷定を爲すを得べし、(一)歐洲ハ温度の甚だしき差異なく、海上の空氣ハ諸處に其寒熱を和らぐ、(二)歐洲ハ全緯度に在る他の大陸より温暖なり、

(三)温度ハ南より北ニ行くに従て減じ、西より東に至るに従て尙一層甚だしとす、(四)歐洲過半ハ降雨多ク、且規則正し、(五)此大陸ハ砂漠なし。

(植物) 歐羅巴ハ其植物に關して、四帶ニ分つを得べし、(一)北帶即ち荒漠帶、北緯六十四度以北の地、(二)穀類及森林帶、北緯六十四度より四十八度に至る、プリチシユ諸嶋、中部歐羅巴の北半部、スカンヂネビヤの南部、及び東部歐羅巴平原の大部を含有す、(三)葡萄帶、北緯四十八度の南より地中海近傍に至る、(四)常綠樹帶、ピレニース、アルプス及びバルカン山脈の南斜面より大陸の各端に達す、

一、北帶は唯樺木及び矮松の類、蘚苔或は少量の蕪麥及び大麥を産するのみにして、菓實なし。

二、穀類及森林帶の樹木には松樅の類あり、その北方にては大麥及び蕪麥、中部にては、粟、粟を産す、松樅の類と共に樅山毛榉等あり、湖濱樹は、南方に行くに従ひ、愈々多く、之と共に小麥及び菓實も亦多しとす。

三、葡萄は、ライン河の南方、温暖なる高地には北緯五十二度の邊まで之を見るを得べし、さて此帶は中部歐羅巴山嶽の巒間及び東部歐羅巴の南部に在りて、胡桃樹繁茂し、玉蜀黍及び小麥を産す、菓樹十分に生長す。

四、常綠樹帯は、米小麥及び玉蜀黍を産し、檜類及び橄欖樹甚だ多く、無花菜葡萄巴且杏及び其他種々の菓實の如き、此帯に産す、遙々南に至れば、甘蔗綿樹椰子及び甘蔗の如き、熱帯植物漸く此に顯る。

(動物)

歐洲に於て、農業殆んど全洲に擴張し、爲めに著く動物の數を減少せり、然れども尙野猪熊の如き、獨逸森林、アルプス山或ハピレニース山に之を見る、野牛ハ魯西亞の大森林に多し、羚羊及び山羊ハアルプス及びカーバシアン山の高處に逍遙せり、但し山羊ハ今や將に盡きんとす、海狸も亦跡を絶たんとす、歐洲ハ又家畜動物に富めり、羊及び馬の如きハ、其最も重要なものとす、鳴鳥亦甚だ多し、其他食用魚類ハ、山湖及び内地海に多し、羽蟲或ハ爬蟲に至てハ、甚だ少しとなす。

(鑛物) 歐洲ハ鑛物に富み、就中鐵石炭鉛銅及び鹽最も多しとす、英國獨逸及び奧地利匈牙利の三國ハ、歐洲中最も多量の鑛物を有する所なり、貴金屬ハ概ね皆他大陸より來る。

- 一、鐵及び石炭は、主として英國歐洲西北部に於ける諸國、及び魯西亞に在り。
- 二、最も多量の銅を出すものは西班牙獨逸及び英國と爲す。
- 三、魯西亞は最も多量の金を出だす。

- 四、水銀は殆ど全く西班牙に出づ。
- 五、英國は最も多量の錫を産す。
- 六、獨逸は最も多量の鉛を産し、次を西班牙、次を英國と爲す。
- 七、獨逸は最も多量の亞鉛を産し、遂に下りて伊太利之に次ぎ、白耳義又之に次ぐ。
- 八、最も多量に鹽を産する鑛山は、カーメシアン山及び英國のチュシヤイア郡ミカリス、タリシヤイア郡に在り。

(人口) 歐洲の人口ハ三億六千万なり、其最も稀薄なる處ハ、東北部にして、最も稠密なる處ハ西部なり、英國及白耳義の人口多きハ、猶印度及支那の如し。

(人種) 歐洲人民ハ、殆ど全く高加索及び蒙古の二人種に属するものにして、高加索人種ハ全人口の廿分の十九あり、而して高加索人種に、四個の區別あり、獨逸種、羅馬種、スラブニツク種、及びセルチツク種、是なり。

- 一、獨逸種即チ「チュートニツク」種ハ、其數一億一千万あり、歐洲の中心、西部諸島、及び西北諸半島に居住す、之を大別して三と爲す、(甲)獨逸人(和蘭人)、(乙)フリースラント人、(丙)フレミング人等此中に入る、(乙)「スカンヂナヴィヤ」人、(丁)林人、瑞典人、及び那威人、(丙)英人、(蘇格蘭人、愛爾蘭人等此中に入る)是なり。

二、羅馬即希臘羅匈種は、其數一億あり、南方の三半島、其北方の平原（即ちアラキヤ、ロンバ
ルデー）及び佛蘭西の平原（及び其間の山嶽地方に居住するもの）是なり。伊太利人、西班
牙人、葡萄牙人、佛國人、ブリタニー州に於けるものを除く（及び「アラキヤ」人は此種に
属す。

三、「スラボニツク」種は其數一億あり、主として歐洲の東部即ち南の方、アドリアチツク海
及び黒海と、北方バルチツク海及び白海との間に居住する所のものなり。之を分ちて
三族と爲す、(甲)西北部のもの、即ち「ボヘミヤ」人(Bohemians)、「モラビヤ」人(Moravians)及び波蘭
人を含有す、(乙)西南部のもの、即ち「クローシヤ」人(Croats)、「セルビヤ」人(Serians)及び「アルガ
リヤ」人を含有す、(丙)東部のもの、即ち主として魯西亞人より成る。

四、「セルチツク」種は、其數四千七百萬あり、漸次歐洲の西端、即ち蘇格蘭の西北部、愛爾蘭英
蘭佛蘭西の西部に居住するに至れり、然れども一時は歌羅巴の全西半部に住居
したりしなり。

五、歐洲には又殆んど六百萬の猶太人あり、「セミチツク」種に属するものにして、波蘭境地
利獨逸及び「ルーマニヤ」に最も多し。

六、歐洲に於て蒙古種の三大族あり、芬蘭人(Finns) 匈牙利の「マツチャー」人(七百萬)及び土耳
其人(五百萬)是なり。この外東北に於ける「サモイド」人(Samojedes)及び東南平原に於け

る「カレマツク」人(Kalmouks)亦蒙古種なりとす。

(言語) 歐洲の言語は、印度歌羅巴派即ちアーヤン派に属す、但し土耳其及び之と
等しき言語は、之に属せず。言語は人種と全しく、又之を分ちて四種と爲す。チユート
ニツク語、羅馬語、スラボニツク語、及びセルチツク語是なり。

(宗教) 歌羅巴の概ね耶蘇教國なり、されど少數の回教徒猶太教徒、及番教信者(Heathens)
なきにしも非ず、基督教の舊教新教及び希臘教の三大派に分る。

- 一、舊教は其信者一億五千五百萬人ありて、更に歐洲の南部拉丁人種中に行はれ、猶逸人
の半分波蘭人、ボヘミヤ人、及び「マツチャー」人之を奉ず。
- 二、新教は八千五百萬の信徒を有し、歐洲の兩逸人種中に行はる。
- 三、希臘教は八千萬の信徒を有し、主として魯西亞、希臘及び「アラキヤ」に行はる。
- 四、歐洲に於て、回教は殆ど七百萬の信者を有し、其過半ハ土耳其に在り、猶太教は殆ど六
百萬の信徒を有し、番教は殆ど二十萬の信徒を有す。

(文明) 文明の最下級なる獵業及び漁業の、唯「ラフランド」人(Lapps)の之を爲すの
み、又遊牧の生活に至りても五十萬許の「カレマツク」人及び「キルヤス」韃靼人に限れ
り、抑も此大陸の地味形状組織共に變化多く、從て其職業も亦種々あり、故に至る處

農業もあれば牧畜もあり、商工業あり、或は航海業あり、而して又學術技藝の進歩世界に其比を見ず。

一、文明の如何に進歩したるやを見るには、移住の多寡最も好き証據なり。此點に於ては英國第一にして、獨逸之に次ぐ歐羅巴人の他大洲に移住したるもの、凡三億五千萬人あり。されば歐羅巴は、世界に於て全陸地の一半を所有し、又全住民の一半を有するものと謂ふべし。

二、他の証據となるべきものは、少年の教育なり、獨逸は此點に於ては、優に他國民の上になり。何となれば、獨逸は教育に關しては、最も苦心し最も働き、又最も多くの金圓を費したればなり、英國之に次ぐ。

(政体) 往古行、れたる族長政治及び專制政治の二政体、全く其跡を絶ち、今日最も行へるものは立憲世襲王國にして、其次を共和政体とす。

一、土耳其の政体は亞細亞亞弗利加共に專制にして、歐洲に於けるものは甚だ寛大なり。

二、英國の憲法は最も發達したるものにして、獨逸、奧地利、及び其他の諸國之に則る。

三、佛蘭西は共和國なり、獨逸は各郡より成れる聯合共和國にして、恰も合衆國の組織と同じ。

四、歐洲の六大強國は、英吉利、獨逸、亞西亞、佛蘭西、奧地利、及び伊太利と爲す。

(政治上の區劃) 歐洲に拾八の國あり、左の如し。

- 一、大貌利頓及愛爾蘭
- 二、佛蘭西
- 三、白耳義
- 四、和蘭
- 五、瑞西
- 六、日耳曼
- 七、奧地利匈牙利
- 八、丁抹
- 九、那威及瑞典
- 十、魯西亞
- 十一、土耳其
- 十二、モンテネグロ
- 十三、セルビヤ
- 十四、ルーマニヤ
- 十五、希臘
- 十六、伊太利
- 十七、西班牙
- 十八、葡萄牙

ブリタニシユ諸島

(ブリタニシユ諸島) ブリタニシユ諸島は、歐州大陸の西北に在りて、五百餘の島嶼より成る、其二大島を大貌利頓及び愛爾蘭と爲す。

一、大貌利頓は、歐州最大の島なり、長さ六百哩にして、其面積殆ど九万方哩あり。三國を有す。英國(England) 威爾士(Wales)及び蘇格蘭(Scotland)是なり。

二、愛爾蘭の面積は、三万二千五百方哩にして、大貌利頓の三分一より多し。此二島を分つ處のものは、アイリッシュシユ海(Irish Sea)にして、其水獨逸洋より深し。

(地理上の地位) ブリタニシユ諸島は、地理上歐州中最上の地位を占む、蓋し直接に諸大洋と相連接するを以てなり。大西洋は、勿論印度洋とは、蘇士運河により、太平洋とは、パナマ運河によりて相連接す。(此事近日の)大貌利頓は、又歐州に於て最も工業盛に、最も富み、又最も人口稠密なる平原と相對す。

(商業上の地位) 商業上より觀察するも、此諸島は、又幸福なる地位に在るものとす。即ち歐州大陸の中央に位するを以て、容易に西班牙とも、又スカンヂナビヤとも、商業取引を爲すを得べく、東西南北皆貿易の便を有せり。此國は、海岸長く、且つ深く陸地に浸入するを以て、良港多く、東に在ては、倫敦(London) ヘル(田)の如きありて、

歐洲及び其以東と貿易し、西方に在てはリバプール(Liverpool)及びグラスゴー(Glasgow)ありて西方新世界と貿易す。加之英蘭に於て最も廣くして且富饒なる地方は大陸及び其最大市場に最も接近せり。又此國は島嶼なるより自然に人民の多數をして航海者たらしめ、以て殖民地を發見し、過多の人口を之に分與し、此の如くにして世界の他部に新市場を創立せしむるに至れり。

英蘭及威勒士

〔英蘭及威勒士〕 此二者相合して、大貌利頗島の最大部分を組成す、大さ殆ど全島の三分二なり。

〔境界〕 英蘭の境界左の如し

- 一、北 蘇格蘭
- 二、南 日耳曼洋
- 三、東 英吉利海峡
- 四、西 アイリッシュ海、威勒士及び大西洋

〔廣袤〕 英蘭の面積五万八千二百三十三方哩にして、威勒士は七千三百六十三方哩あり、合して五万八千八百九十六方哩なりとす。其最も長き所四百三十哩、最も廣き所三百七十哩あり。

〔形状〕 英蘭は其形殆ど三角形にして、其頂角に於てマルウック(Burwick)あり、ランズヘッド(Land's End)及びドーバー(Dover)を以て、其底と爲す。海岸線は非常に長く、凸凹甚だしく、良港頗る多し、其凸凹甚だしき内地の何れよりするも、海岸に至るに五十哩以上を超えず、海岸線の長さ千八百哩あり。

〔西海岸〕 英蘭の西海岸は高くして、且岩石より成り、險阻の峭壁、海に屹立す、深濶の灣あり。

〔東海岸〕 東海岸は凸凹なく、正整なり。海岸は重に砂石粘土より成り、一様低平なり。此海岸には、四河口あり、南方に至るに隨ひ、其大を加ふ。

〔南海岸〕 南海岸は東西兩海岸の性質を併有するものにして、其ウワイト島(Isle of Wight)の東に在る半部は、低平なる粘土質の海岸にして、處々に白堊質の峭壁あり。其西半部は高峻にして、堅固の岩石より成る。ウワイト島の後に當りて二港あり、英蘭

の良港中に數へらるゝものなり。

(島嶼及び海峽) 英蘭の大島嶼は、皆西及び南海岸の近傍に在り、西に在るものをマン島 (Isle of Man) アンツレシヤ島 (Anglesea) 及びシリ諸島 (Silly Isles) となし、南に在るものをウァイト島となす。ノーザンバーランドの海岸を離るゝ處ホーリー島 (Holy Island) 及びファルン (Farne Island) 等横はる。又最も重要な海峽を東にてはドーバー海峽と爲し、南にてはスピットヘッド (Spithead) 及びソールヘント (Salent) 海峽となし、ウァイト島の東及び西に在り、西にてはメナイ海峽 (Menai) と爲す。アンゼンシヤ島及び本土の間に在り。

(組織) 高地は概ね西方に在り、低原は東方に在り。英蘭の脊骨とも謂ふべきペンナイン山脈 (Pennine Range) ハチエビオット岡 (Cheviot Hills) より出で、南方デルビシヤイヤ (Derbyshire) に走る。此郡より以南、英蘭は概ね平原にして、只低山脈の横断するあるのみ。極西端に於て三の高地なり、カンブリアン山麓 (Cambrian Group of Mountains) 威勒士諸山 (Welsh Mountains) 及びテボン及ビコルンウォール高地 (Devonian-Cornish Highlands) 是なり。ペンナイン山脈の東及び南は、即ち英蘭の大平原にして、其實歐

羅巴大平原の連続したるものなり。ペンナイン山脈の西、威勒士諸山に至る間に、狹隘なる平原ありて、アイリッシュ海及びブリストル海峽 (Bristol Channel) の間に擴がる。今英蘭及び威勒士の組織を總説すれば、(一) 長き山脈、(二) 山麓、(三) 威勒士の山岳地方、(四) 南方に於る高原、(五) 東方に於る長く廣き平原、(六) 西方に於る狹隘の平原是なり。

(山系) 英蘭には四山麓あり、ペンナイン山脈、カンブリアン (Cambrian) 群山、威勒士群山、及びテボンコルンウォール山地是なり。ペンナイン山脈は、長さ殆ど二百哩に亘り、平均千呎乃至二千呎の高さをとす。其中クロスフェル (Crossfell) の如きは、ノーザンバーランド (Northumberland) カンブリアント (Cumberland) ウェストモアランド (Westmoreland) デルハム (Durham) 及びヨークシヤイヤ (Yorkshire) の五郡に跨り、高さ二千八百九十二呎に至り、此山脈中最も高さものとす。カンブリアン群山は、ペンナイン山脈の西に在り、威勒士諸山は、デフ河 (Dee) 河セVERN 河 (Severn) をアイリッシュ海との間に在り、其中最も著名なるものをスノードン (Snowdon Range) 及びプリンリンモン山脈 (Plinlimon Range) と爲す。スノードンは最高嶺にして、高さ三千五百七十呎あり。テボン及ビコルンウォール山地は、英蘭西南の大半島に在り。イェストリア

(Yes For 二千四十呎は、デボレシヤイヤに於る最高嶺なり、ブラウンウヰリ(Brown 三千三百六十八呎は、コルンウオールに於る最高嶺なり。

(高原) 英蘭は、佛國或は南日耳曼或は西班牙亞拉比亞の如き高原を有せずと雖も、ペンナイン山脈の一部とデボシシヤイヤに於るダートムーア(Dartmoor)及びエツキスムーア(Exmoor)の如きは皆實に高原なりとす。

(平原) 英蘭は概して低平の國と稱すべく、其面積の三分二は平原なり、其三大平原を東部中央及び南部平原と爲す、東部平原はヨークシヤイヤよりエセツキス(Essex)に至る大平原にして、細別してヨークの平原(Plain of York)沼澤地方(Fens)及び東部三郡(ノルフオルク、サッフオルク、及びエセツクス)の平原とす、中央平原はレースタイシヤイヤ(Leicestershire)デルビー(Derby)スタッフオルド(Stafford)及びワウヰウヰックシヤイヤ(Warwickshire)に跨る處のものにして、西部平原はウエストモーアランド(Westmoreland)連岡よりセベルン河邊に至る處のものなり。

(河流) 英蘭の高山は、國の西方に在り、而して一國の分水界は、常に必しも高處と相一致せざるも、猶英蘭の分水界は西方に傾けり、されば英蘭の長さ緩徐なる斜面

は、北海に向ふ處のものにして、アイリッシュ海に向ふものは短くして急激の斜面なり、其他南方に向ふ處の短き斜面あり、此三斜面は自然に英蘭の河川を東部西部南部の三種に分つ、大河は皆東方に在り。

(東部河流) 東方斜面に於ける重要な河川をタイン(Tyne)ウァーア(Wear)ハンバー(Humber)及びテムズ(Thames)と爲す、皆緩流にして河口甚だ廣く、潮汐高く、障害物一も無く、真に商業に適したる河川なり。

(西部河流) 西方斜面に於て、重要な河三あり、マーセー(Mersey)プリストルアヴン(Bristol Avon)及びセベルン(Severn)と爲す。

(南部河流) 南方斜面に於ける河川は、概ね短く、且淺くして、商業上有用のものに非ず、其最も重要なものをタマー(Tamar)となし、アヴン(Avon)及びエクス(Exe)河之に次ぐ。

(湖水) 湖水は、殆ど皆湖水地方、即ち國の西北山岳地方に在り、其數七、皆ヘルン山(山)の中央に横はる、ウインダーミーア(Windermere)ウレスウァーア(Ulleswater)サールミーア(Thirlmere)オウルウイントウァーア(Derwentwater)ウァーミーア(Buttermere)ソメ

トウウォーター(Wast water)及びユニストンウォーター(Coniston water)是なり。

(礦物) 英蘭の礦物の重要なるものを石炭及び鉄と爲す。此二者は富の元素なり。其他銅鉛亜鉛錫食鹽大理石建築石及び盤石亦頗る多し。エッキスマウス(Exmouth)よりウオッシュ(Whash)河に至る線は、即ち礦物地方南部の限界なり。

一、英蘭に於る重要なる炭田を擧ぐれば(一)ノーサンバールランド及びダラム炭田(二)ヨークシャー及びデレールシャー炭田(三)ランカシャー炭田(四)北スタットフォードシャー炭田(五)南スタットフォードシャー炭田(六)ブリストル炭田(七)南威勒士炭田とす。其第一のもの最も大にして、又最も多量を出す。千八百八十七年英蘭及び威勒士に於て採掘したる石炭は殆ど壹億四千万噸にして、此價格總計殆ど三千四百萬磅なりとす。實に英蘭は世界中最大の礦業國なり。石炭は、英國に取りては、盤西母或はカリフォルニアを有するよりも、尙大なる富の元素なり。一國炭田の面積壹万二千方哩餘に達す。

二、鐵は概ね炭田の在る處にあり、就中スタットフォードシャー及びヨークシャーの炭田に最も多し。威勒士に於ては、其區域廣からず、最も良好の鐵を産出する處をタリーランツ地方(Cleveland District)と爲す。チキース河(Tees)の南にあり。又リンコルンシャー

イマ(Lincolnshire)及びノーサンプトンシャー(Northamptonshire)には、灰色の鐵礦を産し、ランカシャー(Lancashire)の西北にては、赤色の鐵礦を産出す。年々鐵の出坑高は、石炭の十分一に及ばず。

(氣候) 英蘭は温帯の北部に在り、且海中に位するを以て其氣候概して温和濕潤なり。又西岸は東岸に比して温和濕潤なり。温度は、夏時に於ては、緯度に從て減少すれども、冬時に於ては、北方の諸地方亦龍動と温度を等しうするなり。

抑も曇天は、英蘭氣候の特點にして、常に雨を降らし、時としては毎日降雨することあり。英蘭の太西洋に面する海岸は、西南海風三日の中二日づつ、潮流より吹き來るに由り、比較上夏冷しく冬暖し、之に反して其東海岸は大陸に接近するに由り、幾分か大陸的の氣候を受け、寒暑共に強く、東西相比较するときは、其温度二三度の差あり。

(植物) 英蘭は凋落樹帯に屬し、蘇格蘭は松柏樹帯に屬す。英蘭の各地方最も多きものを、檜山毛榉及び楡と爲す。秦皮樺木栗榛樹白楊柳楓樹等亦あり。山楂子は此温和の氣候に繁茂し、此地の普通なる景色を爲す。概して其植物は、大陸に於て同緯度

のものと同じ、唯英蘭は葡萄帯に跨れり。

(動物) 森林を伐除し、耕作地を擴張したる爲に、野獸は大に其跡を絶つに至れり。舊時英蘭に居りし熊狼野猪及び海狸の如きは、已に復見るを得ず。今日英蘭に在る野獸は、皆大ならず、其能く知られたるものを狸水獺家兔栗鼠箭猪及び鼬鼠となす。海豹は間々北方海岸に之を見る。英蘭の家畜動物は最良にして、又最も強壯なるものなり。

(住民) 英蘭の人民は、アーヤン即ち印度歐羅巴派の「チユートニック」種族に屬す。威士及ビコルンウォール人民は「セルチック」種族に屬す。「ノルマン」征服以來、「ノルマン」佛蘭西人の子孫、國中に入込むに至れり。

(人口) 英蘭及び威士の人口合して、殆ど三千万あり。千八百八十九年、此中殆ど二百万は、威士の人口なり。平均一方哩に付五百人の割合にして、サキソニーと白耳義とを除けば、歐洲中人口最も稠密なる國なり。

一千八百一一年には、人口九百萬以下なりしが、千八百五十一年には、増加して其倍となれり。千九百年に至らば、又増加して其倍となるに至らん。

二、人民の五分三以上は、市府に住す。倫敦は全人口の六分一以上を有す。

三、最も人口稠密なる市府をリヴァプール(Liverpool)及びマンチエスター(Manchester)と爲す。

(産業) 英蘭は、商業國又製造國なり。農業は此數百年間漸次衰頽に及べり。蓋し多數の石炭の發見と、之を使用して廉價に蒸氣力を生ずることを得たるとの二事は、斯く農業の有様を一變して、商業製造に向はしめ、英國をして、世界の市場たらしめ、又其船舶をして、自國及び其他許多の國の大洋運送者たらしめたり。

(製造) 英國の二大製造を織物及び鉄器となす。之に次ぐものは、木綿羊毛及び鉄にして、木綿は英蘭製造者品中最も重要なるものとす。

一、連合王國にて製造する織物の總價格、一年殆ど二億磅にして、鐵器は殆ど一億三千万磅なり、一人に付殆ど十磅に當る。

二、南ランカシャーは木綿製造の重なる處にして、マンチエスターは木綿の首府、リヴァプールは木綿の海港と稱ふべし。

三、英國木綿工場の有する紡錘及び機杼は甚だ多く、殆ど世界各國の有するものを合したると同じ。

(商業) 大觀利頗は、製造業に於て諸國中第一位を占むるのみならず、商業に於て

も亦然り此國の輸出人は他國より甚だ多く、兩者一年の總額殆ど六億磅とす。輸入の重要なるものを穀類、生綿、羊毛、砂糖、金屬及び材木の六種となし、輸出の重要なるものを木綿製造品、毛布、機械、石炭及び麻布の六種となす。

(大都府) 英蘭には大都府多く、人口拾萬以上を有する都府二十五あり、中十一は二十万以上を有し、又其四は四十万以上を有す、最も大なるものを首都龍動となす。嘗に英蘭中最大なるのみならず、又地球上最大のものなり、其人口今五百万以上なり。

龍動は其市府の大なる、其富の多き、又其人口の夥しき、世界第一にして、ミッドルセツキス (Middlesex) サリー (Surrey) ケント (Kent) 及びエセツキスの四郡に跨る。龍動は大都府あり、大製造府なり、大鐵道の中心なり、大海港なり、全商業世界の銀行府なり、之に加へて大なる快樂の市府あり、英蘭の道路及び鐵道皆悉く之に集まり、世界の水路、航海の大線路皆悉く之に向ふ。龍動の商業取引は獨り歐洲大陸のみならず、亞細亞、亞非利加北亞米利加之間に行はる。

龍動は長さ殆ど十五哩、廣さ十哩あり、晝夜一時間毎に一家屋建築せられ、三百人以上の一村、日々其人口に加はる。龍動は實に世界中最も醜陋なる都府にして、又最も美麗なる都府あり、其人民は世界各部より集りたるものなり、此府に於てはエゲンバラ

よりも蘇格蘭人多く、アリンよりも愛爾蘭人多し。其テームス河には二十の橋梁を架し、龍動橋は其最も有名なるものなり。龍動橋は日々少くも五十万人の往來あり。又鐵道にて此府に來るもの、日々百万に超ゆといふ。

(英蘭及び威勒士の諸郡) 英蘭及び威勒士を分ちて、五十二郡と爲す。其中英蘭は四十を含み、威勒士は十二を有す。其最大なるものをヨークシャーと爲し、最小なるものをラットランド (Rutland) と爲す。

蘇格蘭

(緒説) 蘇格蘭は大貌利頓の一部にして、チエビラット連岡及びトウワード河 (Tweed) の北に横はる。英蘭より山岳多くして、其北部は形勢及び海岸線に於て、又島嶼の多きことに於て、スカンデナビヤに彷彿たり。

(境界) 西北は大西洋に臨み、東は北海に濱し、南は英蘭及びアイリッシュ海に接す。

西南愛爾蘭と相對し、東方丁抹及び那威に向ふ。

(廣袤) 本土の面積殆ど英蘭の一半にして、諸島嶼を合して、總面積は英蘭及び威
勤士の一半より大なり、即ち本土の面積二万六千余方哩にして、島嶼と共に二万九千
八百二十方哩なり、島嶼の數七百八十八にして、其六百は人民住居せり、此國の最も
長き處はガロウニー海角(Mull of Galloway)より、ダンケットヘッド(Dunnet Head)に至る
までの間にして、二百八十八哩あり、最も廣き所は、百七十五哩に達し、其最も狭き處
は三十二哩なり。

(形狀) 海岸線は廣袤に比較して甚だ長く、總計二千五百哩に達し、平均十二方哩
に付、海岸線壹哩の割合なり、されば國中何れの處よりするも、海岸に至るまで、四十
哩を越ゆることなし。

(北海岸) 北海岸は岩石より成り、險阻にして、處々に深き裂罅あり、高峻なる地角
甚だ多し。

(東西兩海岸の比較) 二者の間著しき反對の點を擧ぐることを左の如し。

東海岸

西海岸

- 一、稍英國の東海岸に似たり。
- 二、軟き砂石及び粘土より成る。
- 三、正整にして凸凹少し。
- 四、概して低平なり。
- 五、島嶼甚だ少し。
- 六、長河を有し、緩徐なる斜面あり。

- 一、甚だ那威の海岸に似たり。
- 二、硬堅の岩石より成る。
- 三、甚だ亂雜不規則にして、深き入江あり。
- 四、山壁の如し。
- 五、二箇の群島を有す。
- 六、小流を有し、險阻ある斜面あり。

(東海岸) 概して低平一様なりと雖ども、間々海に走る山脈、其末尾高峻なる地角
を表はすなり。

(西海岸) 其入江の深く陸地に入込みたるを、多くは西北に向ふ海岸の岩石より
成ると、半島の長きこと、地角の險阻なる等を以て著はる。

(島嶼) 貌利顛北部の海岸に於る島嶼は、貌利顛南部より頗る多く、而して概ね西
及び北に横はれり、西方の群島は、大西洋の激浪を防ぎ、二重の堅牢なる堤防を組成せ
り、全部を四に分ち、ラルクニー諸島(Orkneys)、シエットランド諸島(Shetlands)、ヘブリス
諸島(Hebrides)及びクライド灣諸島(Firth of Clyde Islands)と爲す。

(海峡) 島嶼半島斯の如く多く、又入江甚だ多きを以て海峡の多きは當然なりとす。最も有名なるものをカントアイヤ(Cantire)と愛爾蘭との間なる北海峽(North Channel)と爲す。

(組織) 蘇格蘭は北に山岳あり、南に高原あり、其間僅少の平原あり、英蘭と同じく最高山脈は國の西方に横はる。唯其方向は西より東に走り、ペンナイン山脈と直角を爲す。

(山嶽) 蘇格蘭高原は、ストーンハベン(Stonehaven)よりカントアイヤ岬の間に引かれたる線を以て、南方の界とす。然れども全山脈は、長さ深き且つ狭きグレンモリア(Glenmore)なる陥落を以て二分せらる。されば、テール河以北の山嶽を分つて、二系とす。べし、北部系及び中央系是なり、南部高地はフォース(Forth)灣の南に横はる。

一、北部系はグレンモリアの北に在る山脈を含有す、最高點をアーラスイン(Mean-Suil)と爲す、三千八百六十二呎。

二、中央系には山脈甚だ多く、概ね皆東西に走れり。最も著名なるものをグランビアン山脈(Granpiana)と爲す、最高峯をベンチビス(Bent Nevis)高さ四千四百〇六呎と爲す、三國第一の高嶺なり。

三、南部高地には、低き山脈多し、最高峯をマウントメリック(Mount Merrick)とす、二千七百六十四呎。

(平原) 蘇格蘭には唯一の平原あり、克蘭ピアン山脈と南方高地との間に横はる、其他海岸に沿うて數多の小平原あり。

(河流) 蘇格蘭の分水界は、西海岸に近きを以て、東方の河流は皆長し、其著名なるものをトワードフォース(Forth)デュー(Dee)テイ(Tay)スペー(Spey)及びネッス(Ness)と爲す。西方に於て、最も長さ何をクライド(Clyde)及びアイル(Ayr)とす。

(湖水) 蘇格蘭の湖水は、其風光の美なるを以て著名なり、概ね隘谷に在り、故に其形状狭長なり、最大なるものをロッククロモンド(Loch Lomond)ロックラー(Loch Awe)ロックネス(Loch Ness)と爲す。

ロッククロモンドは、長さ四十五方哩にして、大貌利湖中最大の湖水とす。

(氣候) 英蘭に比すれば、寒冷にして濕氣を含む、其冬は長く、夏は涼し、西海岸及び山岳地方は、東海岸及び平原より雨量多しとす。

(植物) 蘇格蘭は、松柏灌木地方なり、唯平原に於ては、樺、山毛櫸及び楡等繁茂す、燕

麥及び大麥は、蘇國固有の産なり。

(礦物) 蘇格蘭は甚だ石炭及び鐵に富む、而して東方ダンディー(Dundee)及びセントアブスヘッド(St. Abbs Head)と西方ダンバートン(Dunbarton)及びギルマン(Girvan)の間に横はる大方形中に、此礦物の多量を含じ、最も大なる炭田はフォース河及びクライド河の平原にあり、鉛は南方に出づ。

建築に用ふる砂石の最良種は、蘇國の南部に許多あり。花崗石はアムーサン(Alberic)に多し、又アラン(Aran)其他にも出づ、鉛を産する山はラナルクシヤイヤに在り。

(人口) 蘇格蘭の人口四百萬餘あり、一方哩四十人の割合に當る。人民の大半は、平原地方に在りて、殊に石炭を産する地方に多し。

(産業) 礦業、製造業及び商業は、方今此國の重要なる産業なり。其古に在ては、此國の産業は、他の國の如く唯農業のみなりしなり。

一、高地は概して牧場に用ふ、低地には各種の良き穀類を産す、殊に燕麥大麥なり。

二、製造地方は概ねグラスゴーの近傍に在り。

(製造) 重なる織物製造を木綿羊毛麻絹の織物と爲す、各種の機械鐵器も亦製造

せらる、造船の業及び紙製造の業甚だ大なり。

(區劃) 蘇格蘭は三十三郡に分る。

(商業及び首府) 商業甚だ盛にして、世界各港此國の船舶を知らざるものなし。重要なる港をグラスゴー(Glasgow)アバーチンライス(Leith)メンディー及びグリノック(Greenock)と爲す。首府は即ちエデンバラなり。人口三十萬あり、新舊兩府に分る、國中第一の大學此地に在り。

(交通) 蘇格蘭に長道四千哩あり、鐵路は三千哩以上に達し、運河は二百哩餘に至る。

(宗教及び教育) 最も廣く行はるゝ宗教を、プレスビテリアンと爲す、然れども信仰全く自由に任せり、平原地方には、教育能く行はれ、大に進歩せり、現今國の各部皆長校の備はるあり。

一、蘇國に四の大學あり、エデンバラ、グラスゴー、アバーチン及びセントアンドリュース(St. Andrews)なり、又最良の中學校は、諸大部府に在り。

二千八百七十二年の條例發布以來、初等教育は非常に盛んとなれり。

愛爾蘭

(緒説) 愛爾蘭は、歐洲第三の大島なり。アイスランド島を含む此島は大貌利頗の水堤とも謂ふべきものにして、大西洋より來る波浪を受け、又大西洋より來る雨氣を取るが故に、大貌利頗に至る所の雲は、雨量を減するなり。愛爾蘭と大貌利頗との間の海は、大貌利頗と大陸との間の海より深しとす。

(境界) 南北西の三方は、大西洋に臨み、東は北海峽アイリッシュ海及びセントジョージ海峽に接す。

(廣袤) 愛爾蘭の面積三万二千五百三十五方哩にして、英蘭及び威勒士の半より多し、幅最も廣き所百七十四哩なり。

(形状) 其形殆ど平行方形に類し、海岸線は殆ど二千哩の長さあり、良港佳灣甚だ多く、殊に西南海岸に多しとす。

(北海岸) 北海岸は岩石嶄然として、時ち、二灣深く陸地に侵入す。ラウスウェイリー(Lough Swilly) 及びラウフオイル(Lough Foyle)是なり、又險しき岬二三あり。

(西海岸) 北海岸と同じく、峻險なり。ドネガル(Donegal) コンノート(Connaught) 及びケリー(Kerry)の三大山、桑海に突出し、其間無數の港灣河口あり。シヤンノン(Shannon)河口は最も重要なるものなり。

(南海岸) 南海岸は西海岸より低く、佳良なる入江數多あり。コーク(Cork) キンセール(Kinsale) 及びウォーターフォルト(Waterford)の如き其重要なるものなり。

(東海岸) 海岸低く、凸凹少し、唯ウキクロー諸山(Wicklow) 及びモルン(Mounne) 諸山の海中に突出するあるのみ。

(島嶼) 愛爾蘭の島嶼は、皆小にして、本土に接近せり。元來本土の一部分にして、軟かなる岩石の、波浪等の爲に、截断せられ、かく島嶼となりしなり。島嶼は西海岸に最も多し、殊にドネガル(Donegal) メーヨー(Mayo) 及びガルウー(Galway) 近傍に多しとす。

(組織) 愛爾蘭は廣き石灰石の平原にして、一の低山脈之を横断し、周圍には高

地山岳聳てり中央平原は國の大部を占め、波濤の如く起伏し海面より平均二百呎高く、三百呎に及べる處なく蘇格蘭又は英蘭よりは甚だ低き國なり、又此國には一の脊骨と謂ふべきものなく、隨て一の地理上中心なしとす。

(山系) 愛爾蘭には四山系あり、北、西南及び東山系是なり、北山系中重なる山脈を擧ぐればアントリム(Antrim)諸山及びドネガル諸山にして其間にカルントガイ山(Carntogher Mountains)あり、西山系に於ては、チヒンベグ山脈(Nephin Beg Mountains)ナンキマラ(Connemara)及びケリー諸山(Kerry)其重なるものなり、南山系に於てはノックミールダウ(Knockmeadown)あり、東山系に於ては、ウツクロー及びモルンあり。

(平原) 愛爾蘭の中央大平原は、國の五分四を占め、廣漠たる牧場にして、ダブリン海とガルウエー海との間に横はる、其地沼澤極めて多し、アレン(Liffey)沼は其最大なるものなり、シャンノンの大河北平原に流る。

(河川) 愛爾蘭の河川は、中央平原の周圍に在る高地に起る、其流皆小にして商業上必要なるものなし、唯シャンノンのみ大平原の中央を貫流し、國中第一の大河にして、二百廿四哩の長さあり、中二百十三哩舟航するを得べし、バーロー(Barnw)及び

ビバン(Bann)河は、大さ之に次ぐ。

(湖水) 愛爾蘭には山地及び低地共湖水甚だ多し、最も大なるものをニー(Neagh)湖と爲す、キラニー湖(Killarney)は風光絶佳なり。

(礦物) 愛爾蘭は鉄に富めども、石炭は甚だ少く、唯僅に四箇の炭田あるのみ、普通燃料に用ひらるゝものは泥炭にして、石炭は輸入せらるゝものなり、其他少量の銅鉛亜鉛銀を産出す、又美麗なる大理石各地方に於て切出さる。

(氣候) 全緯度を以て比するときは、此國は英國より温暖濕潤にして、又温度均一なりとす、此國は海洋的氣候にして、雨の多きこと歐洲第一たり、故に夏冬共に新緑繁茂し、碧玉島の名あるに至れり。

(植物) 愛爾蘭の氣候は、穀類の生長を妨ぐ、唯雜草のみ能く繁茂せり、國中最も肥沃の處をマンスター(Munster)州の一部なりとす、これは金谷として人の知る處にして、チッペラリー(Tipperary)のカシユル(Cashel)より、リメリック(Limerick)近傍までの間を謂ふものなり。

(人民) 概ね「セルチック」人種に屬す、ウルスターに於ては「チユートン」種の混合最

も多く、住民多くは蘇格蘭人の子孫なりとす。又東方海岸のレインスター(Linster)も「チュートン」種の混合甚だしく、住民多くは「ノルマン」人及び英蘭人の子孫なりとす。愛爾蘭人の性質は、甚だ賞するに足るものあり、其博愛なる、患難互に相救ふが如き、常に人を款待するが如き、其特色なりとす。

(人口) 人口五百万あり、千八百四十七年以來著しく減少したるものにして、重に移住の爲なりとす。人口最も稠密の州をウルスター(Ulster)とし、最も稀薄の處をコンノート(Connaught)と爲す。

(産業) 重なる産業を家畜飼養と爲す、牛馬豚及び農産物は、其主なる富なりとす。東及び北に在りては、麻布及び毛布の製造行はる。

一、國の七分一は沼澤なり、耕作牧場に適する土地は三分二ふりとす。
二、石炭の産出少なきは、大に製造業の發達を妨げたり、加之此國は水力の利用せらるゝこと至りて少しとす。

(商業) 愛爾蘭の商業は主として各種農産物の輸出及び石炭鐵器衣服其他英蘭製造品の輸入なりとす、此國物産の重なる市場は、大貌利頗なり。

(交通) 此國には河湖運河等の大なる水路あり、鐵道は延長殆ど二千七百哩なり。
ローヤル運河(Royal Canal)及び大運河は、其重要なるものにして、共にダブリンとシャンノン河とを結合す。

(區劃) 愛爾蘭を分ちて四州となす、更に小分して卅二郡となす。四州は、東にあるものをレインスター、北にあるものをウルスター、西に在るものをコンノート、南に在るものをマンスターと爲す。

(大都府) 一國の大都府は、普通頻繁なる商業と盛大なる製造業と互に相密着するより、生ずるものなり、然るに此國には、此結合殆どなしと謂ふも可なり、故に國中五万以上の住民を有する大都府は、僅に三に過ぎず、ダブリン(Dublin) ヘルフォアスト(Belfast) 及びコーク(Cork) 是なり、リメリック(Limerick) ロンドンデリー(Londonderry) 及びウォーターフォード之に次ぐ。

ダブリン(三十六万)は愛國の首府にして、リッフェニー河畔に在り、此府の大きは英蘭の一部シエツフ井ルドに過ぎず、雖も其地位たる中央平原の一隅にあり、英蘭に面するを以て、内國及び外國貿易の中心たり。大學校一、大寺二あり、其港をキングスタウンと爲す。

佛蘭西

(緒説) 佛國は歐洲に於て最も大貌利頗に接近したる國なり、六大強國の一にして、又世界中最も富める國の一なり、此國は赤道と北極との中間に位せり、即ち北緯四十二度より五十一度に亘る。

(境界) 佛國の境界たる海に於ては英吉利海峡、大西洋及び地中海に面し、陸に於ては南にピレニースの大山脈あり、東にアルプスジュラー(Piémont)及びポージュ山あり、北方は自然の境界なく、城壁併ひ峙ちて國の守を爲す。

一、北は日耳曼及び白耳義に界し、南は西班牙に接し、東は日耳曼、瑞西及び伊太利に隣り、西は海に臨む。

二、海岸線は二千哩に及ぶ、其地中海に於るものは三百八十三哩に過ぎず。

(商業上の地位) 佛國は大西洋、地中海及び日耳曼洋に接せり、佛國は此三洋に由りて、商業を爲し富を得るものなり。

(廣袤) 佛國の面積三十万四千餘方哩あり、大貌利頗の二倍より多し。

佛國は此の如く大にして、又大西洋及び地中海に於ける海岸線長きにも拘らず、大貌利頗の如く良港多からず、陸上之勢力も大貌利頗の如く大なる能はざるなり。

(斜面) 佛國に三大斜面あり、西方大西洋に面するもの、南方地中海に面するもの、北方獨逸洋に面するもの、是なり、其西方の斜面は最大なるものにして、殆ど國の全部を組成す、國の三大河は此斜面を流る、南方の斜面は狹長にして、ソーン(Saône)及びローン(Rhône)の谷を含有せり、北方の斜面は唯白耳義、日耳曼の諸川が北海に流る、斜面の一部に過ぎずして、河川と云ふべきものは、白耳義、日耳曼諸川の上流のみなり。

(組織) (一) 佛國の中心は、即ちフーベンヌ(Auvergne)の高原なり、其東端にセベーン(Cevennes)山脈あり、中央高原の平均高度は海面より三千呎なり、(二) この高原はセベーンの北方よりポージュに亘り、又ポージュとアルデン(Ardennes)との間に、一高原あり、(三) 佛國の大部分は、歐洲大平原の一部を組成せり、要之佛國の地勢は、西に廣野あり、中央に高原あり、東方には山岳重疊し、南方にはローン河邊の平原あり。

(海岸) 海岸は概して低平なり。

一、地中海海岸は其東部岩多く、アルプスの山嶺海に走りて斷崖を作れり。西部は低平にして、砂石多しとす。

二、大西洋海岸は、其南方は低く砂石多し。ブリタニー(Brittany)に於ける海岸は、概ね花崗石より成り、峭壁嶄然たり。

三、佛國海岸は其港に乏し、英吉利海峡の南岸に於ける港は、其北方の廣大なる港と著き、反對を爲せり、カレナー(Calais)の如きはドーバー(Dover)に及ばざることを遠しとす。

(灣及び海峡) 地中海岸に於る大灣をリヨン灣(Gulf of Lions)と爲し、大西洋岸に於るものをビスケー灣(Bay of Biscay)と爲す。佛國英國の間に在る海峡をドーバー海峡と名づく。

(岬及び島嶼) 西北海岸にあつて、重要な岬をグリーキー(Gris-Nez)、バーフロア(Barteur)、リキーン(La Hague)及びギアンサンマンチエ(Point St. Mathew)と爲す。西海岸に近く重要な島嶼をウシヤン(Ushant)、ベルイール(Belle Isle)、レジャンロン(Oleron)と爲し、地中海に在つては、エール(Hyeres)及びコルシカと爲す。

常に地中海の權を握りたる諸國の配下に立てり、即ちフェニキヤ(Phœnicia)、カルタゴ(Carthage)、ローマ(Rome)、ササキヤン(Sarcen)、ピサ(Pisa)、ゼンガ(Genoa)等相次ぐ之を領せり。此島は現今佛國八十七州の其一たり、商業の盛なる都府をヌマチア(Nisida)と爲す。アジヤシチ(Ajaccio)は千七百六十九年拿破崙の生れたる處なり。

(山岳及び高原) 國境に五山脈ありて、天然の境を爲せり、アルプス、ポージェ、ユラ、アルプス、及びピレニース、是なり。中央山脈の重要なものを、セペーンと爲す。高原の重なるものを、ラーベレン(Auvergne)の高原と爲す。國の中央に在り。

(平野) 佛國は概ね低地なり、最低部をビスケー灣に濱する處と爲す。ロアン河の西方地中海岸も、亦甚だ低平なり。

(河川) 佛國には河川甚だ多く、其舟航し得べきもの殆んど百に達し、其過半は國內にあるものなり、而して低原は、殆ど平坦なるを以て、其流も急激のものなし。主要の河流四あり、セーネ(Seine)長さ四百八十二哩、ロアル(Loire)六百九哩、ガロン(Garonne)デロンド河を合して六百十六哩、及びローン(Rhône)河を合して六百三十七哩と爲す。

(湖水) 佛國には湖水甚だ乏し、然れども南海岸及び西南海岸の地方には、海と通ずる湖數多あり。

(氣候) (一) 佛國の氣候を分ちて三帯となすを得べし、北方斜面帶、西方斜面帶、南方斜面帶、是なり。北にては、年中の平均温度五十度にして、西にては、五十四度、南にては五十三度なりとす。

(二) 氣候は又東より西に至るに従て變化あり、蓋し灣流より西南の暖風吹來るにより、大西洋岸の温度は、東方同緯度の處より高し、故に東に往くに従ひ、大洋の勢力漸く減し、冬愈寒く夏愈暑し、又雨量は高度と共に増加す、故に西より東、南より北に行くに従ひ、漸次増加するものとす。

(植物) 佛國には、植物の三帯あり、穀物帶、葡萄酒帶、橄欖帶なり、第一と第三とは判然其區域を異にせりと雖ども、何れも第二とは相雜はれり。

一 北部即ち穀物帶に於ては、小麥、甘蔗生長す、林檎梨はノーマンデー(Normandy)及び北方に多し。

二 中部即ち葡萄酒帶に於ては、白色及び赤色の葡萄酒を産出す、佛國は世界第一の醸酒國なり、葡萄酒は佛國全地の廿分の一を占め、葡萄酒は普通の飲料物たり。

三 南部即ち橄欖帶に於ては、玉蜀黍盛に生長し、桑樹は蠶の爲めに培養せられ、其他瓜瓞

無花草巴旦杏等多しとす。

(動物) 野獸は唯森林山嶽に之を見るのみ。

黒熊及び赤熊はピレニースに住し、大野猫はアルプスの高原に居る。羚羊及び山羊は東南の山中に棲り、狼亦大森林中に多し。

(礦物) 佛國の礦物は、同じき廣さの他國に比して、少しとす、佛國には大炭田唯二あるのみにして、一は北にあり、一は中央高原の東端にあり。

一 此國は多量の鐵を産す、然れども其所在地は石炭を去ると甚だ遠く、石炭を工業地に運搬する費用は莫大なりとす。

二 北方炭田の近傍は木綿麻布及び羊毛を製造す、東方炭田の近傍は、鐵器製造を以て重ふる産業とす。

三 石炭は毎年殆ど八百万噸を出し、之を以て殆ど二百五十万噸の鐵及鋼鐵を鑄解す。

四 佛國は甚だ建築用の材料に富り、市府は概ね堅牢の石を以て、建設せらる。

(製造) 佛國は製造極めて盛なり、最も大なる製造を絹となす、葡萄酒之に次ぎ、毛織物又之に次ぐ、而して精巧なる美術品に至つては、佛國實に全世界に冠たりと謂ふべし。

一、織物業のみにて、二百万以上の職工を使用せり、而して毛織、フランネル及び綿帯等其製造高一年一億九千二百万磅に上ると云ふ。

二、絹布毛布葡萄酒乾酪鶏卵及び「ブランドー」は、英國へ輸出する六大品なり。

三、裝飾品及び寶石細工等に至ては、佛國は全世界に冠たり。

四、箱織業の十分の九は里昂にあり、毛織物はリール(Lille)ローヘン(Rouen)サンクエマンチン(St. Quentin)及びセタン(Sedan)に於て製造し、木綿織物は以上の諸都府其他アルサス(Alsace)にて製造し、麻布類は主としてノルマンディ(Normandie)州に於て製造せらるゝものとす。

(商業) 佛國の商業は甚だ大なり、抑も佛國の地位たる、三海洋の間に在て、外國貿易には最も便利なりとす。又内國商業は、河川の修築、運河の開鑿、鐵道の布設に依りて大に奨勵せらる。内國貿易は外國貿易より盛大なり。

一、商業は、農業及び製造業と同じく、此五十年間に長足の進歩を成せり。現今巴里(Paris)マルセイユ(Marseille)及びハーブネ(Havre)に於ける外國貿易は、千八百四十年頃の全國貿易より大なりとす。

二、佛國の最大得意は大統利順にして、之に次ぐものを白耳義日耳曼合衆國及び伊太利と爲す。

三、佛國に輸入するものは、重に粗生品にして、輸出するものは製造品なりとす。

(大港) 四大港をマルサイユ、ボルドー(Bordeaux)ナント(Nantes)及びハブルと爲す。

(鐵道及び電信) 鐵道の延長二万哩以上に達し、電信線は六万哩に達せり。

一、佛國には車道殆ど三十三万哩あり、舟航するを得べき河流五千哩に及び、運河の長さ三千哩以上に達せり。

二、鐵道線路は、多く國有なり。

(人口) 人口三千八百万餘あり、一方哩に付百八十七人の割合なり。人口最も稠密の處をセイン州となし、最も稀薄の地方を下アルプス州と爲す。

(大都會) 佛國には大都會頗る多し、三万以上の人口を有するもの、殆んど五十ありて、此内卅二は、五万以上の人口を有し、又其中十一は、十万以上の人口あり、更に其中二十万以上の人口を有するもの五あり、巴里、里昂、マルサイユ、ボルドー及びリール是なり。

巴里人口二百五十万は、セイン河に跨り、最も廣麗なる市府にして、歐洲大陸第一の都會なり。府の中央には宏偉なる總督府即ちノートルダム(Notre Dame)大寺建立せり。巴里は大

製造地なり且大商業地あり。府の周圍には、二十二哩の間堡營相連り、以て固き爲す。

(其他の大都府) 前者に次で、大なるもの五あり、ツールーズ (Toulouse) ナント、サンエチエン (St. Etienne) ハーブル及ビルーエン (Rouen) 是なり。

(政治上の區劃) 千七百八十九年の革命以前、佛蘭西は三十四州より成れり、然れども千七百九十年に至て、八十六州に分る、コルシカ島も其一なり、此等諸州の名稱は、人民の奥へたるものにあらずして、皆中央政府に於て之を定めたるものなり、而して概ね之を貫流する河名に因る、千八百六十年ナイス (Nice) とサボイ (Savoie) 佛國に屬せしかば、州數増して八十八となりしが、千八百七十年及び七十一年の戦争の爲に、アルサス、ロルレインを失ひ、其數八十七となれり。

(性質) 佛人は元來輕浮なりとの評を免れず、其成功に當つては勇敢なりと雖ども、其挫折も亦甚だ容易なりとす。但し佛人は文明都雅の人民にして、其思想及び言語の明晰なる、其嗜好の優美なる、其辨舌の流暢なる、其智識の高尙なる等世に著き所なり、又佛人の如く、文學技術の發達を助けたる國民は、甚だ尠しとす。勞働者殊に小農夫は大に勤儉の徳を有せり。

(政体) 方今佛國は共和政体にして、上下兩院の設あり、行政權は大統領之を握る。
(宗教及教育) 佛國人民の大半は、羅馬舊教に屬し、其新教徒は殆ど五十万に過ぎず。大中學は甚だ完全なりと雖ども、小學教育に至つては、未だ全國に普しと謂ふべからず。

(國語) 佛語は羅甸語の種類に屬す、但し其語尾及び母音は大に變化せり。
(殖民領地) 佛の外國領地中、最も主要なるものをアルゼリヤ (Algeria) 及び交趾支那と爲す、佛國殖民地の總面積九万五千哩ありて、本國より大なりとす。

一 佛國は北米に於て加奈陀 (Canada) 及びルイゼアナ (Louisiana) を、又印度に於て廣大なる地方を有す。
二 亞非利加に於ては、アルゼリヤの外セチガンビヤ (Senegambia) を領せ、又西印度に於ては、三島を有す、其最大なるものをマーチニック (Martinique) と爲す。南米に於ては佛領ギアナ (French Guiana) あり、其主府をカエン (Cayenne) と爲す。印度に於てはボンナチエリー (Pondicherry) 等を有し、印度支那に於ては、交趾支那を領し、柬埔寨、安南、及び東京を保護せり。又西印度に於ては、新カレドニア (New Caledonia) マーシャルサマ (Marquesas) タヒチ (Tahiti) 等を領せり。

白耳義

(緒説) 白耳義は千八百四年和蘭と分離したる小國なり、此國は歐州大陸中人口最も稠密に、商業工業共に最も盛大なる所とす。

(境界) 白耳義の境界左の如し。

- 一、北 和蘭
- 二、東 和蘭、來因普魯士(Rhenish Prussia)及びルキセンブルグ
- 三、南 佛蘭西
- 四、西 獨逸洋

(商業上の地位) 此國は歐州の西部に立ち、又商業上必要なる海洋に臨めるを以て、新舊兩世界と貿易するに當り、最も便利なる地位を占む、故に世界各國との貿易甚だ盛にして、殊に大貌利頗との通商最も大なりとす。

商業上アントワープ(Antwerp)の地位たる、恰も龍動の如し。

(形状及廣袤) 白耳義は殆ど三角形を爲せり、其面積壹万千三百七十三方哩

あり。

(地勢及び海岸線) 白耳義の地勢は、南より北に下り、又東より西に斜なり、東方最高の地は、海面を抜くこと殆ど二千呎にして、西方最低の地は、海面の下にあり、海岸線は僅に四十二哩に過ぎずとす。

(山岳及び平原) 國の北半部は歐州大平原に屬す、東方にはアルプスの高原あり、中央より北方に亘りて、カンペン(Campine)平原あり、西方に於ては土地低平なり、隄防は四十乃至五十呎の高さありて、海水の襲來に備ふ。

(河川) 主要なる河をミユース(Meuse)及びシエルト(Scheldt)の二とす、ミユースは山地を流るゝものにして、シエルトは平野を流るゝ河なり、白耳義の過半は此シエルトの流域に屬せり。

(氣候) 氣候は概して英國南部の如し、但し大陸的にして、夏時は暑氣稍烈しく、冬時に在ては、寒氣稍強し、又東方に在ては、冬時寒氣甚しく、西方に在ては、霧屢なり、降雨の量西方にては一年殆ど廿八吋に達し、地高くなるに従ひ増加するものとす。

(植物及動物) 樹木穀物は佛蘭西日耳曼と同じ、穀物の重要なるものを裸麥小

麥及び燕麥とす、甘蔗及び麻の産出甚だ多し、國の五分一は森林にして、樹木中最も多きものを櫟樹とす、樺木山毛櫸冬青樹楓樹亦多し、鹿及び野猪はアルデーン森林中に住めり、海狸は既に跡を絶ち、箭猪も近々消滅に至らんとす、其他野獸を擧ぐれば、狼狐及び鼯鼠等と爲す。

- 一、白耳義に於て、一年の穀物産出高一千百万磅なり。
- 二、白耳義は、毎年七百五十万磅の雞卵を英國へ輸出す。
- 三、白耳義は、無用の地甚だ少く、全國十分の一に至らず。

(礦物) 白耳義は礦物に富む、多量に産出するものを石炭と爲し、鐵亞鉛之に次ぐ、大理石の産出亦多く、チナント(Dinant)の黑色大理石の如きは、其價頗る高きものとす。

- 一、白耳義は、英國に次ぐ歐洲中石炭の産出最も多き國なり、其三分の一は佛國へ販賣す。
- 二、白耳義に二大炭田あり、一はハイノーランド(Hainault)及びナーム(Namur)に在り、一はリージュ(Liege)に在り。

(製造) 白耳義は、小國の割合に製造業甚だ盛なり、是れ全く其石炭の供給夥多なるに由る、木綿、麻布、毛布、絹布及び器械等を重なる製造とす。

- 一、木綿及び絹の織物は主として東部フランダー(East Flanders)及びアントワープに於て製造せらる、木綿製造所の最大なるものはアントワープ及びグント(Ghent)に在り。
- 二、麻布製造は主としてグント及びセントニコラス(St Nicholas)に行はれ、メクソン及びブルツェルは線帶製造の中心あり。
- 三、毛布製造は、リージュ及びアルベニー(Verrier)に行はる。
- 四、リージュに於ては蒸氣機關、銃砲、其他各種の器械製造せらる、ナムールは及物製造を以て名あり。

(農業) 白耳義の農業は世界第一なり、さればその人口非常に稠密なるにも拘らず、農産物の産出は國民の需要に供して、尙大なる餘あり、之を外國に輸出せり。

(商業) 白耳義は商業頗る盛なり、概ね英船を用ひて之を行ふ、此國の商業は、千八百三十年以來非常の進歩を爲したり、其貿易の大部分は、佛國との貿易なりとす、白耳義鐵道は皆佛京巴里に集まる。

佛國は、年々白耳義より千六百万磅餘の物品を買ひ入る、大稅利頗及び獨逸は、各九百万乃至千万磅ありとす。

(大都府) 白耳義は人口二万以上を有する都府十七あり、其内四万以上のもの四

十万以上のもの四あり最大なるものをブルッセルアントワープグント及びリッ
ジと爲す白耳義は眞に大都市より成る一小國と謂ふべきなり。

首府ブルッセル(人口四十八万)は國の中央岳陵平原相合ふ所にあリ、府を分ちて上下の
兩府と爲す。府廳は世界に於て最も美觀なる建築物の一あり、其博物館には繪畫彫刻寶
石等珍稀の物多し、實にブルッセルは小巴里の名あり。

(小都府) 小都府中重なるものをブルージ (Bruges) メクリンルーベーン (Louvain)
トールチーナムールラスタン (Ostend) とす。

(鐵道) 鐵道は國內縱横に布設せられ、其長さ殆ど三千哩に達し、其賃錢は極めて
低廉なり、其汽車の如き之を併列せしむるときは、ラスタンよりコローンまで二
百二哩にも達するなるべし、かゝる小國にして、此大鐵道あり、之に反し土耳其の如
き、僅に一千哩の鐵道を有するに過ぎず、白耳義は比較上英蘭と同じ鐵道延長を有
せり、則ち英蘭の大きさは、白耳義に五倍せり。

(電信及び郵便) 白耳義には電線の設十分に備はり、其線路四千哩に達せり、而
して年々七百万の通信を爲す、書簡に至ては英蘭の如く多からずして、年々九千五
百万の書簡と九千万の新聞紙との送達あるのみ、これ一年一人に付書簡十五通の
割合となる、英蘭に於ては四十九通の割合なりとす。

(運河及び道路) 白耳義にては運河能く開け、此運河及び運河に由りて結合せ
られたる河川は、大に國の商業を助く、國內舟航すべき水路の長さ大約千哩あり、此
内半分以上は運河なりとす、河川運河に於ける貿易通商は、鐵道に於けるものより
も頗る大なり、白耳義には、道路多く、又至りて善良なり、此點に於て白耳義に優るも
の世界中唯英蘭あるのみ。

水路一哩に付、一年に凡そ五十万噸の物品を運搬すと云ふ。

(人口) 人口殆ど六百万あり、一方哩に付五百三十五人の割合に當る、ブラバント
州にては一方哩に八百三十五人なり。

(區劃) 政治上の區劃左の如し、兼て其重要なる都府を掲ぐ。

- 一、西フランデー (West Flanders) ブルーゼラマスタント
- 二、東フランデー (East Flanders) サントニコラメ (St. Nicholas)
- 三、ハイノールト ロン (Mons) トールチーナムールラスタン (Charleroi)

- 四、ブラバント (Brabant) フランダース (Flanders)
- 五、アントワープ (Antwerpen) フランドー (Flandre)
- 六、リンブルグ (Limburg) ハッセルト (Hasselt)
- 七、リージュ (Liège) ヘンレヒエーヌ (Henriches)
- 八、ナミール (Namur) ナミール (Namur)
- 九、ルクセンブルグ (Luxemburg) アールロン (Arlon)

(國語) 白耳義には白耳義語と謂ふべきものなく、用ふる處のものは「フレミッシュ」(Flemish)及び「ワロン」(Wallon)を稱するものなり。「フレミッシュ」は和蘭日耳曼及び英蘭の言語と同種のものにして、「ワロン」は佛國古語の一種なり。

(宗教及教育) 人民多くは舊教なり、然れども信仰は自由なり、大學四あり、ツセルルーベインゲント及びブリッジの大學是なり、中學校も亦多し、小學校更に完備せり。

(政体) 國王上院下院の三を以て政府を組織す。

常備兵殆ど五万人あり、戰時に於ては十方あり、海軍あり。

和蘭

(緒説) 和蘭は世界に於て商業最も旺盛なる國の一にして、其土地は海面より低し、此國は河海内外の攻撃に遇ひ、或は大洋より土地を得て、河流の之に汎濫するを防ぎ、或は日々風力蒸氣力を以て水力に抵抗し、或は水力を用ひて外寇を防ぎ、或は海底湖底より新陸地を作り、其國土を擴張する等、是實に和蘭人の生活なりとす。蓋し海は和蘭人の永久の敵にして、敵は常に眼前に立てり、抑も和蘭人茲に基礎を固めての後、外は艦隊を派遣して、地球上處々に殖民地を設け、又内は常に海洋より新陸地を作出するを務め、千八百三十三年以來、和蘭人實に國の大さの半を増加したり。

(境界) 和蘭の境界左の如し。

- 一、北 北海
- 二、東 日耳曼
- 三、南 白耳義
- 四、西 北海

(商業上の地位) 和蘭は歐洲の西北に位し、其西方の大略なるライン河の口に

立ち、英蘭の中央諸郡と相對し、商業最も繁盛にして、又最も富饒なる諸國に隣れるを以て、商業上非常に都合よき地位にあるものとす。

(形状及廣袤) 南北延長殆ど百五十哩に達し、幅平均百哩あり、其面積は一万二千六百四十八方哩とす、此土地の一部は河川より一部は海洋より作りたるものなり、此外に二群島ありて之に屬し、一は南にあり、他は北にあり。

(地勢) 全國西北に斜なり、其表面は概ね平坦にして、海面より低し、和蘭は即ち歐洲大平原の最も低き處なり。

(灣及海峽) ザイダージール (Zuyder Zee) ローッセル (Lauwer Zee) 及び ドルラート (Dollart) は最も重要な曲海にして、海峽の重なるものを ヘルダー (Helder) と爲す、ザイダージール の口を扼す。

(島嶼) マース河 (Maas) 及び シエルト河 (Schelde) に由て作られたる三稜洲は、無数の島嶼を其中に包含し、以て ジールランド (Zeeland) なる一州を作る、島嶼の著名なるものを ワルヘレン (Walcheren) と爲す、又和蘭の北方に羅列せる群島中最大なるものを テキセル (Texel) 及び テラルシエリン (Terschelling) と爲す。

(海岸及堤防) 海岸は至る處甚だ低く、皆堤防を設けて、潮水の侵入を防げり、此堤防は、白耳義に比し大にして且高し。

(河川) 和蘭の大河は ライン マース 及び シエルト なり、此等の中陸面より高く流るゝものあり、故に和蘭にては運河を作ることを容易なりとす。

(氣候) 氣候は概して溫和にして、殆ど英國と同じく、唯英國よりは濕氣多し、土地空氣共に濕潤なり、但し、フリースランド (Friesland) 及び東方に在りては、冬時常に霜多く、無数の運河及び溝渠は水靴にて往來するを得べし。

(農業) 土地概ね耕作に、適せず、其百分の十八は澤池にして、四十五は瘠土砂地なり、肥沃のものとしては、僅に百分の三十四に過ぎず、裸麥及び小麥を重なる穀物とす、燕麥大麥甘蔗及び馬鈴薯を産出す、其樹園には、林檎梅及び櫻の類多く、花園には鬱金香草其他の花草美麗に生長す、但し此國には良好なる牧場草地ありて、牛酪乾酪の如き最も價格ある産物なりとす。

(ポルダー) ポルダー (Polder) とは、風力及び蒸氣力を以て水を乾したる豊饒なる湖底を謂ひ、和蘭の重要な部分にして、又是に綠草の繁茂するは著き景色なり。

とす、千八百十五年彼のウワタールー(Waterloo)の戦争以來、千八百七十五年に至るまで、和蘭人は、良土美地殆ど十四万三千、エーグルを作出したり。

(漁業) 漁業は和蘭の一大富源なり、其海岸には、鮮大口魚、鱈比目魚等種々の魚類甚だ多し、而して漁業に従事するもの、殆ど一万人あり。

(製造) 和蘭は、製造國としては、其地位高からず、此國には、石炭甚だ少く、粘土は重なる礦産物にして、陶器製造に用ひらる。木綿羊毛及び絹織物の製造所あり、硝子製造所、器械製造所及び酒製造所あり、主として風力を用ふ。

(商業) 和蘭は、十七世紀に於ては、世界第一の商業國にして、其商船は、他歐洲諸國を合したるものと等しかりしも、他の諸國起りて終に、其商業の大半を奪去せり、而して和蘭運送業の大半は、今日英國船舶の行ふ處となれり、然れども、和蘭は、今日尙歐洲諸國に對し、殖民地産物の販賣者にして、英國の如き、和蘭より買入るゝ物品、一年殆ど二万五千磅なりと云ふ。

(都府) 和蘭は、英國及び白耳義の如く、大都府を有する國にして、人口二万五千以上の都府十五あり、其中五万以上のもの五、又十万以上のもの三あり。

(首府) 眞正の首府は、アムステルダム(Amsterdam)なれども、其裁判所及び政府の在る處は、ハーグ(Hague)なりとす。

一、アムステルダム(人口四十二万)は、ザイダーゼーに臨み、九十の島嶼に建設せられたるものにして、此等の島を連結する爲め、橋梁三百に及べり、此府は、殊に金剛石細工に長じ、之に従事するもの殆ど千人あり、國王は、爰に即位の式を行ひ、ハーグに住居す。
二、ハーグ(人口十六万)は、他の和蘭諸都府の如く、運河縱横に貫通せり、此府は、裁判所及び政府のある處にして、又宮殿あり、高天なる繪函館あり、完備なる博物館あり。

(他の大都府) アムステルダムに次ぐものをロットルダム(Rotterdam)となす、人口二十一万あり、ハーグに次ぐものをウートレヒト(Utrecht)と爲す、人口八万あり、其他殊に記すべきものは、唯ハーレム(Harlem)、レイデン(Leyden)、ドント(Dordrecht)及びデルフト(Delft)等とす。

(鉄道) 鐵道事業能く發達し、其延長千六百哩に及べり、ウートレヒトは、其中心にして、之に達するに六線路あり。

(電信及郵便) 和蘭には、電信線路三千哩あり、毎年凡そ四百万の通信を爲す、遞送書簡の數、一年九千三百万にして、新聞紙の數七千七百万なりとす。

(運河) 和蘭には運河甚だ多く、其長さ千六百哩に達せり。實に和蘭は至る處運河ならざるはなく、大島の中心にある都府の如き、運河を以て海と相連結し、河川も亦運河に由て互に相連結せり。

(人口) 人口四百万あり、平均一方哩三百五十人に當る。南和蘭は人口最も稠密にして、一方哩七百七十人なり。

(政治上の區劃) 和蘭に十一州あり、其最も重要なるものを、其首府を共に掲ぐれば左の如し。

- 一、北和蘭 アムステルダム ハーレム
- 二、南和蘭 ロットルダム ハーグ レイデン シーダム (Schiedam)
- 三、ミッドルネンツ (Middelburg) フランキンゲン (Flushing)
- 四、北ブラメント (North Brabant) ブレン (Breda)
- 五、ウートルレヒト ウートルレヒト
- 六、ゲルデアランド (Gelderland) ニメゲン (Nimegen) ズルプヘン (Zutphen)
- 七、フリースランド ハーリンゲン (Harlingen)

(性質) 和蘭人の性質は、重に二者に由て之を断定するを得べし、即ち西班牙との

長き戦争、及び水との永久の競争是なり、蓋し和蘭人の自由を愛し、甚だ獨立を好み、勤勉節儉なる、勇猛大膽なる、又不幸に沈みしものを憐むが如き、皆之に由て然るなり。和蘭人は又約束を爲すに躊躇因循なり、然れども一旦約束したる上は、毫も變せずして固く之を守る風あり。和蘭人は又決心に遅々たり、然れども一たび決心したる上は、全力を注いで之を爲すことを務むる性質を有せり。和蘭人は概して沈黙能く考ふるも、其樂みを取るに當ては甚だ喧噪なり。和蘭人は又舊習故俗を慕ひ、都會の地尙奇異なる古風の衣服を見るなり。

(國語) 和蘭語は下日耳曼派に屬し、英語及びフレミッシュ語に近し。

(政府) 王及び兩院の議會は和蘭政府を組織す。

一、陸軍の兵士五万以上あり。

二、海軍は頗る強大にして、十九の甲鐵艦あり。其中六艘非常に大なり、一はキング、ナフ、ゼキヤーラン、ノ(King of the Netherland)と稱し、五千四百噸にして、四千六百六十馬力あり。

(宗教及教育) 國教と稱すべきものなし、唯王及び人民の過半は新教を奉せり、他は概ね舊教を奉ず、教育は各種共に能く普及せり。

(殖民領地) 和蘭の海外屬地は本國の三十四倍にして、其人口は六倍なり、而して重に東西印度諸島に在りとす。

- 一、大サマタラ諸島 (Great Sunda) シヤム (Java) インドネシア (Sumatra) の一部、セレンディパ (Celebes) 等
- 二、小サマタラ諸島 (Lesser Sunda) マリ (Bali) ボトボタ (Lombok) 等
- 三、モラッカ諸島 (Molucca) 即ち、スパイス諸島 (Spice Islands) の一部
- 四、西印度諸島の中ギナソー (Guinea) 及びセントマールチン (St. Martin)
- 五、南亞米利加の蘭領ギアナ (Guiana)

アルプス山

(廣袤及形狀) アルプス山は大弓形に伊太利の北方を廻り、ナイニス (Nice) より維也納 (Vienna) に至る、即ち地中海よりダニューブ河に擴がる處の大山脈なり、此山脈は中部歐羅巴と南部歐羅巴との境界となり、又其分水界と爲るものなり、此山脈は

佛蘭西、瑞西、伊太利、巴威里、及び埃地利の五國に跨がり、ダニューブ、ライン、ローン、ポド、イ、(S) 及びアテ、非、ゼ (Alps) の五大河、源を此に發す、此山脈は又其雪田、氷原、湖水等に由りて、大陸中最大の貯水處を成す。

(岩石の質) 山の内部は、花崗石等の如き堅牢なる結晶岩にして、南及び北に於て石灰石の外皮之を包む。

(高度) 其高度の點より觀察すれば、アルプスを分て、前部アルプス、中部アルプス、高部アルプスの三となすべし、前部アルプスとは、樹木線端殆ど五千五百呎に至るものを謂ふ、中部アルプスとは、樹木線端より雪線に至るものにして、高部アルプスとは雪線以上を謂ふなり。

(地平線上の廣袤及區劃) アルプスの全部は、其地平線上の廣袤より之を西部、中部、東部の三に分つ、西部及び中部アルプスの相合ふ處、非常の山嶽あり、モンブランと云ふ、西部アルプスは此モンブランと地中海との間に横はり、中部アルプスはモンブランとブレンナー山路 (Brenner pass) なる深き低窪との間に横はり、東部アルプスはブレンナー山路とダニューブ河畔の匈牙利平原との間に横はる。



アールプス山中氷原の圖

百四十四

(氷原) アルプスの氷原は、此山の最も著き固有の點にして、大雪田より流出する氷河とも稱すべし。氷原は主として北方斜面に在りて、南方斜面の如きは、傾斜の度甚しく、且日光に多く曝さるゝを以て氷原少し。アレツチ氷原(Aletsch Glacier)は其最も大なるものにして、上ローン河の谷にまで擴がれり。アルプス山より出づる河川は、大抵其源頭を氷原より發す。

(山路及隧道)

アルプス山には、車馬を通すべき山路五十あり、又隧道三あり、最も有名なる山路をグレートセントベルナール(Great St. Bern

ard)となす、毎年凡そ三万人の通行あり、セントゴタード(St. Gothard)及びフォオーカ(Furca)山路も、亦頗る有名なり、東方に於てはブレレンナー及びセンメリング(Sammeling)あり、鉄道之を横ざれり、三隧道を、モンセニー(Montenis)セントゴタード及びアールベルン(Aarberg)と爲す。

瑞西

(緒説) 瑞西は歐州大陸の中央にある小國にして、大陸中山岳最も多き國なり、軍事上より見るときは、此國は自然の一大城塞なり、政治上より云ふときは、此國は古き共和國なり、天然の景色より考ふるときは、此國は高尚美麗なる土地とすべし。

(境界) 其境界左の如し。

- 一、北 獨逸
- 二、東 獨逸及び埃地利
- 三、南 伊太利
- 四、西 佛蘭西

百四十五

(商業上の地位) 瑞西は海岸線なく、又海洋と相通する水路なきも、商業上の好地位を占むるものなり。蓋し此國は、歐州大陸の商工業最も盛なる諸國即ち佛國、獨逸、及び伊太利に接し、之と互に貿易を爲すを以てなり。

一、二千哩の鐵道は、大陸の各大郡府と此國とを相連結せり。

二、瑞西は、其産業の爲めに、至る處皆アルプス河流の水力を使用せり。

(形状及廣袤) 瑞西は、半圓形を爲せり、面積凡そ十六万方哩、人口殆ど三百万あり。

(地勢) 國の三分二は、高山にして、三分一は高原なり。此高原は、平均海面を抜くと千三百呎に達し、處々に景色好き丘陵を有す。アルプス山の起るは即ち此高原よりす。瑞西アルプスに於る重要な山脈をペンナインアルプス (Pennine Alps) 、レポントンアルプス (Leponine Alps) 及びヘルニースアルプス (Bernese Alps) を爲す。ペンナインアルプスは、上ローン河谷の南を走り、レポントンアルプスは、ペンナインアルプスの東に横はり、ラインローン及びボー河の分水界を爲し、ヘルニースアルプスは、アール河及び上ローン河の分水界を爲す。瑞西國內最も高き峯をマツテルホ

ーン (Matterhorn) と爲す。高さ殆んど一万五千呎に達す。

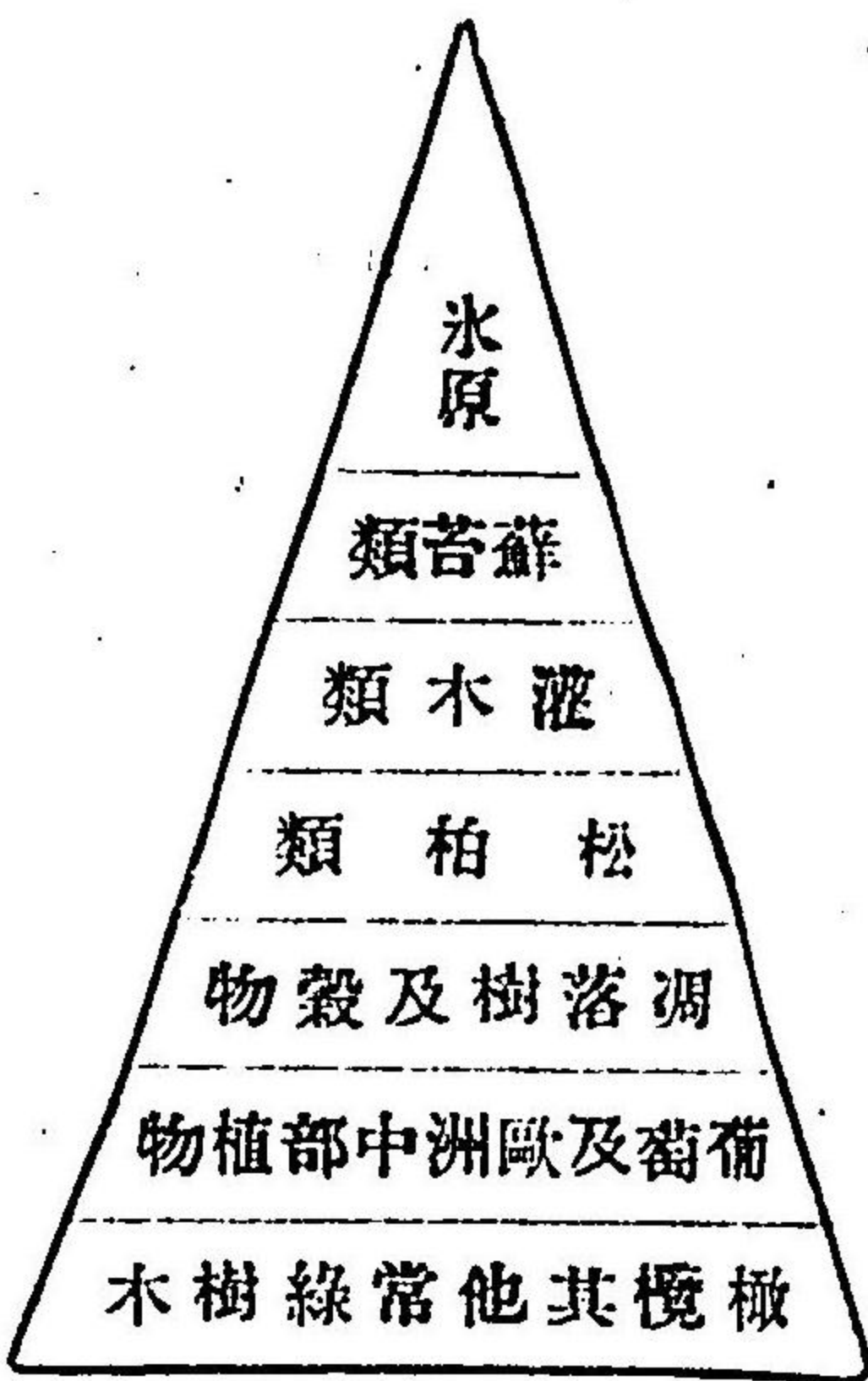
(河川) 瑞西には、自國の河川と稱すべきものなし。然れどもラインローン、ボー及びダニューブ河の如き、歐洲諸大河の上流を有せり。故に瑞西は、水を北海、黒海、地中海各處に送る中心なり。航海に適する唯一の川をアール (Aar) と爲す。

(湖水) アルプス地方は、歐洲の西南に於る湖水地方にして、恰もネバ (Nova) 流域の東北に於けるが如し。其湖水は、數多きと深く且大なる。周圍の景色の美麗なるとに由りて有名なり。最大なる湖水をゼネバ (Geneva) 、コンスタンス (Constance) 、ニユーシャタール (Neuchâtel) 、マジヨール (Maggiore) 、リノーセルン (Lucerne) 及びツौरツト (Zürich) と爲す。

(氣候) 高度は緯度と相伴うて、共に氣候に影響を及ぼすものなれば、熱帶地方にても、若し高きに至るときは、北氷洋の氣候と同じきなり。故に瑞西に於ては、緯度に比して、寒冷なる氣候を有するものとす。されば、今瑞西國內の氣候を知らんと欲せば、其緯度に由らずして、其高度に據るを要す。即ち其氣候の分配は、地平的に非ずして、垂直的なるを以てなり。而して瑞西は、一小區域内に於て、歐洲に於る各種の氣候

を有せり。雪線の高さ、平均凡そ九千呎にして、穀物の生産は四千呎に止まる。其大さに比するときは、瑞西は他の歐洲諸國よりも雨量多しとす。

(地味) 瑞西は、土地六百萬、エーケル以上あり、其中凡そ三百万、エーケルは、不生産的にして、其一部は岩石質より成り、他部は耕作線の上に在り、其他殆ど二百万、エーケルは、森林にて蔽はれ、唯僅に百五十万、エーケル餘の耕作に適するのみ。故に全土の四分一のみ、農業に用ふるを得べしとす。



(植物) 上に掲ぐるものは、瑞西に於ける植物の分配を示せるものなり。此垂直的の植物帯は、北緯四十六度と北極圈との間にある歐洲の地平的の植物帯と相等しきものとす。

(農業) 瑞西は、甚だ製造業に傾きたる農業國なり。其富は、主として森林牧場より成り、穀物の産出は、全國人民の消費する所の半にも足らず。製乳の業盛にして、多く乾酪を出す。温暖なる地方に在りては、玉蜀黍、葡萄、及

ひ煙草を産し、低地方に於ては繁茂したる樹木園あり。
(動物) 狼、山羊、羚羊及ひ山鼠は、山中に住せり。されど毎年次第に減少すと云ふ。
(礦物) 瑞西には、礦物甚だ少し、唯少量の鐵を産し、石炭は皆無なり。地瀝青(アスファルト)は多しとす。

(製造) 既に耕作地少く、礦物少く、何を以て瑞西は斯の如く富めるやと云ふに、水力と人民の勤勉節儉と之をして然らしむるなり。蓋し製造用に供する粗生品は、概ね皆輸入を仰げども、其河川瀑布は、無代價にて廣大なる勢力を人民に與ふるなり。製造地方は、主として西及び北に在り、最大なる製造を絹とし、木綿之に次ぎ、時計及び寶石細工又之に次ぐ。

一、絹物は主としてツリーヤロ(Zarich)及びバレーナ(Bale)に於て製造せらる。
二、木綿紡績はツラルーム(Glarus)ツリーヤロ及びセントニール(St. Gall)に於て行はる。
三、ゼンパ及びバヤエラ地方(ニューシャテル等)は時計製造の重要な中心なり。
(商業) 一國海岸なく、又内地高山多きにも關せず、其大さに比して、瑞西の商業甚だ大にして、奧地利、佛蘭西、獨逸、伊太利と商業上の交通を爲し、又英國とも盛に商業

を爲せり、瑞西の輸出は主として絹、木綿、時計、乾酪、乳酪とす。

一、獨逸への輸出高六百万磅にして、獨逸よりの輸入高千万磅ふりこす。

二、佛國は獨逸に次ぐ處の得意なり、英國之に次ぎ、合衆國亦之に次ぐ。

(大都府) 瑞西には人口貳万五千以上の都府七あり、其中五万以上のもの二あり、ゼチバ及びバール是あり、之に次ぐものをベルン(Berne)、ローゼン(Lausanne)、ツリッツヒン、ヨウドフォンツ(Chaux-de-Fonds)及びセントゴールと爲す。此國の首府は、即ちベルンなり。

(道路及鉄道) 瑞西には、道路能く備り、アルプス山を越ゆる大道は、世界の奇觀なり。又鐵道の延長は殆ど二千哩に亘る。

現今瑞西は其面積に比して、鐵道の延長世界第一なりとす。

(電信及郵便) 瑞西にては、電信線の長さ四千五百哩あり、其事業は殊に夏期に於て頻繁なり、郵便局に於て取扱ふ書信毎年一億通に近し。

英國及び威勒士は、一年十六億を取扱ふと雖も、其人口は、瑞西に八倍せり。

(人口) 人口三百万餘あり、平均一方哩凡そ二百人に當る。ゼチバは人口最も稠密

なる郡にして、最も稀少なる郡をグリソン(Grisons)と爲す。

(政治上の區劃) 瑞西は二十二郡より成る、其重要なるものを擧ぐれば、左の如し。

- | | |
|-------------------|----------------------------------|
| 一、ゼチバ | ゼチン |
| 二、ヴァウド (Vaud) | ローゼン |
| 三、ニユーシヤタル | ニユーシヤタル |
| 四、ヌルン | シヨウグフオンツ |
| 五、ツリーツロ | ヌンツリン(Thun) インタルラークン(Interlaken) |
| 六、バール | ツリーツロ |
| 七、セントゴール | バール |
| 八、スワイツ | セントゴール |
| 九、ユニーセルン(Lucerne) | スワイツ |
| | ユニーセルン |

(性質) 瑞西人は、概して其容貌大にして、嚴肅に、其胸部は廣く、其歩行は重く、手拳甚だ強し、瑞西人は事に遲鈍なれども、鞏固なり、節儉にして、金錢を愛すれども、又頗る自由を愛す。蓋し世界各國、此國人の如く、自由を有するものなしとす。要するに質

朴勤勉にして自由を愛し、又愛國の情に富める等は、瑞西人の性質なりとす。

(國語) 瑞西にて用ひらるゝ言語四あり、獨逸、佛蘭西、伊太利、及び羅馬語是なり。國民三分二以上は、獨逸語を用ひ、佛語を用ふるものは、殆ど六分一なりとす。

(政府) 瑞西國會は、上下の兩院より成り、共に人民の選舉に係る。陸軍は、總て二十歳より卅二歳の間にて、兵役に堪ふるもの之を組成す。戰時には、其數二十万あり、海軍なし。

(宗教及教育) 瑞西人民の百分の五十九は、新教にして、殘四十一は、羅馬舊教なり。各郡皆學校教師養成の爲めに、一の師範學校を有せり。國に大學四あり、ツーツツヒ大學は、歐洲に於て最も完備せるもの、一なり。

奧地利匈牙利

(緒説) 其土地は形勢甚だ雜錯し、丘陵あり、谿谷あり、山岳平原森林河川相交り、其

景色の差異最も多く、其人種は、獨逸、マギヤ、伊太利、スラボニヤ等の諸國民より成り、其國語二十種に及び、貨幣六種を用ひ、公國、大公國、王國、及び侯國、相集りて一國を爲す、これ即ち奧地利なり。

(商業上の地位) 奧地利は、海岸甚だ短しと雖も、歐州の中央に位し、地中海、黒海、バルチック海、獨逸洋と連絡を通じ、又數多の國に接するを以て、商業上有力の地位に在るものと謂ふべし。

- 一、奧地利の隣國には、佛國獨逸の如き大商業國あり。
- 二、蘇士運河の開けしより、地中海に於る奧地利の商業、大に盛域に赴きたり。

(境界) 奧地利の境界左の如し。

- 一、北 普魯士及び魯西亞
- 二、東 魯西亞及びルーマニヤ
- 三、南 モンテネグロ (Montenegro) セルビア (Serbia) 及びルーマニヤ (Roumania)
- 四、西 ハツリヤ (Bavaria) 瑞西及び伊太利

(廣袤) 面積二十四万一千方哩ありて、歐洲第三の大國なり、南北七百哩、東西九百哩とす。

谷西亞は歐洲第一の大國にして、スカンデナヴィヤ之に次ぐ。

(形状) 塊地利匈牙利は、殆ど長方形に類し、西及び南に二箇の突出あり。

(地勢) 塊地利匈牙利には、三大山脈あり、二大河に由て貫流せられたる大平原あり、又大高原あり、三大海に向へる斜面あり、之を塊地利の地勢とす。

一、三大山脈を、東アルプス山脈、ボヘミアモラビヤ山系、及びカーパシアン連山 (Carpathian Range) と爲す。

二、大平原を匈牙利平原と爲す、ダニュープ及びタイス (Theiss) 之を貫流す、匈牙利は四方山を繞らしたる卵形の平原なり。

三、大高原をボヘミア高原と爲す。

四、斜面三あり、(一)西方ダルマチヤ (Dalmatia) に於てアドリヤチック海に面せる斜面、(二)東方ガリシヤ (Galicia) に於て黒海に面せる斜面、(三)北方ボヘミアに於て獨逸洋に向へる斜面是なり。

(海岸線) 海岸線甚だ短し、ダルマチヤの海岸は高く、岩石より成り、商業上價値なし、イストリヤ (Istria) にはトリエステ (Trieste) なる海港あり。

(山岳及び高原) 塊地利は、瑞西に次で歐洲中の山多き國なり、國の四分三は實に

山地にして、殆どアルプス山の一半は塊地利に在り、北にてはアルプスの本山脈より山嘴走りて、小カーパシアン (Little carpathian) に合するあり、南にてはシュリアンアルプス (Jurian Alps) 走りて、ダルマチヤの山岳に連るあり、西北にては斜方形なるボヘミア高原の其周邊をボヘミアンフォレスト (Bohemian Forest) エルツ (Ere) 山リーゼン (Rieser) 山及びモラビアンフォレスト (Moravian Forest) に由りて圍まるゝあり、東には則ち森林蒼鬱たるカーパシアンの大山脈ありて、トランシルバニアンアルプス (Transylvanian Alps) に連り、以て廣漠たるダニュープの沃野を守りて、東風及び東北風を防ぐ。

(平原) 塊地利には、重要にして肥沃なる四平原あり、ツルチル (Tulher) 平原、維也納平原、小匈牙利平原、及び大匈牙利平原是なり。

(河川) 塊地利匈牙利の高原は、歐洲の大分水界の一部を爲し、之より出づる河川は、南北東の三方に流る、其河口皆他國に在り、國の重なる河をダニュープ、ニースター (Danister) ヴァイスタチエラ (Vistula) エルブ (Elbe) 及びアテチシの諸川と爲す、ボヘミア及びモラビヤの山岳は、北獨逸の三大河エルベ、オーデル (Oder) 及びヴサチエラの源な

ダニール(長さ千七百五十哩)河は此帝國を流るゝこと八百四十六哩なり、パッサン(Passau)より國の域内に入り、國の大動脈とも稱すべし。

(湖水) 湖水多きも概ね皆小なり、其最大なるものを巴拉トン湖(Ballaton lake)とす、ノイシードレル海(Neusiedler See)之に次ぐ、此湖水は夏時全く乾涸せることあり。

(氣候) 塊地利の氣候は三様に分る、(一)葡萄の生せざる北方斜面の氣候、(二)匈牙利の平原及び南方斜面に於る氣候、(三)地中海に向へる斜面の氣候、是なり、其第一は北緯四十九度の北に在り、第二は四十六度と四十九度の間に在りて、葡萄及び小麦の發生に適し、第三は四十六度以南に在りて、橄欖油及び絹を産す、塊地利に於ける雨量は、英蘭に比して甚だ少し、温度は東方に至るに隨ひ減少するものとす。

(植物) 南方帯に於て葡萄、玉蜀黍、橄欖等繁茂し、ダルマシヤの南方に在りては、熱帯植物多く生長す、中央帯に於て、其南方に向ふ温暖なる斜面には、葡萄あり、平原に在ては、玉蜀黍、小麦あり、北方帯に於ては、葡萄及び玉蜀黍を生せずして、重要な收穫は、小麦、裸麥、大麻、亞麻等とす、森林は主として樺、秦皮、榆及び樺木等より成り、ダルマシヤに於ては、橙、レモン、石榴樹等能く成長す。

(動物) 熊、狼、野猫等今尙森林或は、東方山脈に多し、水獺は匈牙利に最も多く、野猪は各地至る處にあり、其他各種の鳥類計るべからず。

(礦物) 塊地利の礦産物は、其多きこと獨逸と同じ、唯彼の如く能く採掘せられざるのみ、石炭も亦多し、殊にボヘミアに於て然り、鉄亦少からず、其他トランシルバニアの金山は歐洲第一と稱す、銀鉛はボヘミアに於けるエルツ山より出づ、水銀はカルニオラ(Carniola)のイドリヤ(Idria)に在り、然れども此國第一の礦物は鹽となす、ウヰーリチカ(Wieliczka)の鹽山は、其最も重要なるものなり、ザルツブルグ(Salzburg)に於ては、全山皆鹽より成るものあり。

(産業) 此國に於て主要なる産業は農業にして、人民の十分の六は、皆土地耕作に従事せり、土地の三分一餘は、耕作せられ居るなり、牧場も亦甚だ廣し、收穫の主要なるものを燕麥、小麦、裸麥、大麦、玉蜀黍となす。

(製造) 製造は獨逸語を用ふる地方ボヘミア、モラヴィヤ、シレシヤ(Silesia)、スチリヤ(Styria)等に於て最も發達し、匈牙利に於ては甚だ少く、ダルマシヤに至りては皆無

なり。

(商業) 奥地利の商業は主として内國なり、東部西部相通するを盛なりとす。トリエントは主要なる海港にして、海上貿易の殆ど三分一は、此に於て行はるゝものなり。重なる輸出は穀物、麩粉及び燃料にして、奥地利の好得意場を獨逸と爲す。要するに此國にては、海上貿易より陸上貿易多きを占む。

(都府) 奥地利匈牙利に於ては人口二万以上を有する都府廿七あり、中四万以上を有するもの十六、更に此中にて十万以上を有するもの六あり、維也納は人口百万餘あり、ペッサ(Pesth)は凡そ五十万あり、之を此國の二大都府と爲す。之に次ぐものをプラグ(Prague)トリエントレンンベルヒ(Lemberg)グラッツ(Graz)と爲す。

一、維也納は、奥地利の首府にして、ダニブ河に臨み、歐洲大都會の一とす。精天宮、磁器等の製造、此府に盛なり、府の中央には「セントスチーファンヌ」(St. Stephen's)大寺の塔峙ち、高さ四百五十三呎あり、維也納の大學は、常に數千の學者を有し、この醫學校は、世界に於て最も有名なるものなり。

(鐵道) 鐵道の長さ一万五千哩に亘り、その中奥地利にあるもの、八千五百哩なり

とす。

(電信等) 國內電信線の長さ二万五千哩餘に及び、毎年千万以上の通信を成す、郵便送達の書簡、端書等は、奥地利に在ては六億、匈牙利に在ては二億なり。

奥地利のみに在ては、書簡の數一人一年十九通の割合なり。

(人口) 奥地利匈牙利は人口凡そ四千万にして、一方哩平均百七十人に當る。

奥地利匈牙利は人口の點に於ては、歐洲第三に位すれども、其密度に於ては第七に位す。

(政治上の區劃) 奥地利帝國には、區劃甚だ多しと雖も、其最も要用なるものは左の如し(兼てその重なる都府を掲ぐ)

一、下奥地利	維也納
二、上奥地利	リンツ(Linz)
三、ザルツンブルグ(Salzburg)	ザルツンブルグ
四、チロル	インスブрук(Innsbruck)
五、ボヘミア	ブライテンカールスシュット(Carlbad)
六、モラヴィヤ	ブルン(Brunn)
七、シレシヤ	トロプキー(Troppau)

八、ガリシヤ

九、タルメイシヤ

十、匈牙利

ハンペン (Lemberg)

ザン (Zam)

ブタム、ブレンム、ブネロ (Pressburg)

(政府) 奥地利は一帝國にして、その議會及び行政部を有し、匈牙利は、一王國にして、同じく議會及び行政部を有す。而して奥地利帝は常に匈牙利の王にして、其即位するや、必ず舊都ブレンスブルヒに行く。然れども、其陸軍海軍及び外交政略に至ては、二國相同じ。

一、陸軍は平時凡そ三十万を備へ、戦時に於ては二百万あり。

二、海軍は十二の甲鐵艦より成り、其中二艘は七千噸以上なり。ブドリアチック海邊のギラ (Pola) は重要な軍港にして、トリエヌトは主要の兵器製造所なり。

(國語)

奥地利匈牙利にて用ふる言語廿四種あり。獨逸語は上下奥地利ザルツヴルヒ、チロル及びボヘミヤの西北に行はれ、「マギヤ」語は、匈牙利に住するマギヤ人々を用ひ、「ツェット」語 (Zech) なる「スラボニク」語の一種は「ボヘミヤ」に用ひらる。其他波蘭語「ルーゼニアン」語、魯西亞の一種羅馬語等、皆多少行はる。

(宗教)

奥地利の國教は、舊教なれども、信仰は全く自由なり。匈牙利には國教なし。然れども國人の大半は、舊教なり、新教徒凡そ三百六十万にして、多くは匈牙利に在り。

日耳曼

(緒説) 日耳曼は歐州中央に在る強國にして、其三面に接せる諸大國間の平和を維持するものなり。而して其地位はバルチック海と瑞西山脈との間に横はり、中に四個の王國あり、其他多くの州あり。

一、日耳曼帝國は、日耳曼を區別するを要す。蓋し日耳曼語を用ふる處、日耳曼人種の住する所、皆之を日耳曼と稱す。故に日耳曼と云へば、上下奥地利をも含むものとす。

二、日耳曼帝國は、四の王國、六の大公國、五の公國、七の侯國、三の自由市府、一の帝領より成る。

(境界)

日耳曼帝國の境界左の如し。

一、北 バルチック海及び丁抹 二、東 ボヘミヤ及魯西亞
三、南 瑞西埃地利及ボヘミヤ 四、西 和蘭白耳義及佛國

(商業上の地位) 日耳曼は、歐洲諸大國と境を接し、之と貿易を爲せり、而して其地位はバルチックに面するを以て、バルチック諸國と貿易するに適し、獨逸洋に濱するを以て、自由に英國及び亞米利加に至るを得べく、鐵道は以て大陸何れの國とも交通するを得べし。

(形状及廣袤) 日耳曼は平行方形を爲し、南に又同形の一小部を有す、面積凡そ二十一萬二千方哩あり。

一、面積は佛國に比して稍大に、人口の密度亦之に勝る。
二、佛國は一方哩百八十七人にして、日耳曼は二百二十六人なり。

(組織) 概して云へば、日耳曼は三部より成る。(一)北方低野、(二)南方高原、(三)ライン流域、是なり。

一、日耳曼低地は土地凹凸にして、處々に平坦なる處あり、河川餘に之を流る。バルチックに往くものは、皆相平行せるを以て著名なり。

二、日耳曼高原は、ハルツ (Harz) 流山に起る、但し實にメーン河邊に始まるものなり、メーン河の南を上日耳曼と稱し、上日耳曼語を用ふ。其北を下日耳曼と稱し、下日耳曼語を用ふ。

三、ライン流域は、フン、ヌ、高峯と和蘭の豐饒なる低地とを連結するものなり。

(海岸) バルチック海岸は低平なり、北海岸は、堤防及び「ホルダー」を有すること、頗る和蘭に似たる處あり、又其海岸は特に平坦にして豐饒なり。

(山岳及び高原) 日耳曼の山系を知らんと欲せば、先づ巴威里の東北なるフヒヒテルゲベルゲ (Fichtel Gebirge) の中心を記憶すべし、日耳曼の山脈は、殆ど皆此中心より出づるものなり、今之を擧ぐれば、東に薩ゆるものをエルツゲベルゲ (Erzgebirge) 及びボヘミアンフォレストと爲し、更に東に在りてはリーセンゲベルゲ (Riesengebirge) と爲し、西に出づるものをソーリンギアンフォレスト (Thuringian Forest) 及びフランコンジャンジュラ (Franconian Jura) と爲す、スワビアンジュラ (Swabian Jura) はフランコンジャンジュラの南に走り、ブラックフォレスト (Black Forest) に連る、ロージニ山脈はブラックフォレストと平行してライン河の西方に走る、ハルツ山脈の南に在る

日耳曼地方は多少皆高原ならざるなし、其最も高き所は、メイン河の南部となす、巴威里の中には高さ殆ど千六百呎の處あり。

(平原) 日耳曼大平原は、歐洲大平原の西部を組成す、ヴルムスタチエラ(Werra)、オーデル(Oder)等の河川平行して流れ、其深流も亦然り、此平原には澤地多し。

(河川) 日耳曼の大河をヴルムスタチエラ、オーデル、エルベ(Elbe)及びラインと爲し、其最も重要なものをライン及びエルベと爲す、其他の小河を擧ぐれば、エムス(Emse)、ツューゼン(Weser)、プレゲル(Pregel)及びニーメン(Niemn)等あり。

(氣候) 日耳曼は三種の氣候に分る、(一)北海地方の氣候、(二)バルチック地方の氣候、(三)中央高原の氣候是なり。

一、北海地方は、歐洲西部の温暖なる氣候を有し、冬時寒甚しからず、降雨頗る多し、バルツ地方の如きは、歐洲に於て降雨最も多き所とす、又此部分のライン流域は、氣候最も温暖なる所あり。

二、バルチック地方は、西亞の如く、寒冷にして、濕潤なり。

三、中央高原の氣候は、全く大陸的にして、特に其變化の急激なるを以て著る、これ近傍に

高山脈あるに由る。

四、南に至るに隨ひ、霧を加へ、温度漸く減ず、益し土地の高度、緯度の勢力に反對するなり。

(植物) 帝國の四分一は、森林を以て蔽はる、北及び東には、松樹あり、南及び西には、凋落樹あり、收穫の重なるものを、裸麥、馬鈴薯及び甘蔗とす、温暖なる水邊に於ては、菓實、葡萄盛に生長し、南に在りては、煙草、玉蜀黍及び麻を産す。

(礦物) 日耳曼は、礦業國として、唯英國に劣るのみ、エルツゲビルゲ山は、鉛、銀、錫及び銅に富む、此國に於て最大なる炭田の一は、サクソニーのマンチェスターなるケムニッツ(Chemnitz)にあり、普領シレシヤに於けるリーゼンゲビルゲの山麓に於ては、石炭、鐵、鉛の多量を産す、ブレスラウ(Breslau)の製造盛大なる所以なり、バルツ地方に在りては、各種の金屬を産し、石炭及鉄は無限の有様なり、是を以て此地方は、日耳曼の工業最盛なる所にして、其人口の多きこと、彼の南ランカシャイア或は西ヨークシャイアに譲らず。

(農業及工業) 重なる産業を、農、家畜飼養を含むと爲し、收穫の最も多額なる

ものを稜麥と爲す。工業の中重要なものを、鐵及び鋼鐵業となし、織物業は之に次ぐ。

(商業) 日耳曼の商業は、内國外國共に大にして、兩つながら愈々發達に向へり。輸出の重なるものを穀物家畜羊毛及び材木と爲し、輸入の重なるものを木綿及び絹織物葡萄酒其他の飲料等とす。此國の最大取引國を英國とす。

(主要なる港) ハンブルク (Hamburg) ブレメン (Bremen) ダンチツェ (Dantzig) 及びリューベック (Lubeck) 皆帝國の大港なり。中にもハンブルクとブレメンとは商業上重要な港なり。

(鐵道) 日耳曼の鐵道は、其組織頗る大にして、又最も善良なるものなり。其線路二万五千哩餘に達し、ドレスデン (Dresden) フランクフルト (Frankfurt) 及びコローン (Colone) に於て、最も交互錯綜せり。

(電信及び郵便) 日耳曼帝國に於ては、電信線の延長凡そ五万七千哩あり、帝國郵便局に於て毎年取扱ふ書簡及び端書の數十三億に達す。

大觀利願には電信線三萬哩あり、比較上日耳曼の三倍餘に當る。

(運河及び道路) 日耳曼は音に舟航すべき河川多きのみならず、運河又千五百哩あり、良好なる碎石道路殆ど七万哩あり。

(人口) 日耳曼國の人口四千八百万あり、平均一方哩二百廿六人に當る。

サクソン王國は人口最も稠密なる所にして、一方哩五百四十三人あり。

(區劃) 獨逸帝國を組織する所の重要な諸國と其首府とは左の如し。

帝國	アルサスローレン	全	ストラスブルグ (Strasbourg)
バーデン	バーデン (Baden)	全	カールスルーエ (Karlsruhe)
ヘッセ・ダルムシュタット	ヘッセ・ダルムシュタット (Hesse-Darmstadt)	全	ダルムシュタット
メクレンブルク・シュヴェリン	メクレンブルク・シュヴェリン (Mecklenburg-Schwerin)	全	シュヴェリン
メクレンブルク・シュテットリン	メクレンブルク・シュテットリン (Mecklenburg-Strelitz)	全	シュテットリン
サクソン・ワイマル	サクソン・ワイマル (Saxe-Weimar)	全	ワイマル
オランダ	オランダ (Oldenburg)	全	オルデンブルグ
普魯西	普魯西 (Prussia)	全	ベルリン (Berlin)
巴威里	巴威里 (Bavaria)	全	ミュンヘン (Munich)
サクソニー	サクソニー (Saxony)	全	ドレスデン
ヴルテMBERG	ヴルテMBERG (Württemberg)	全	スタットガート (Stuttgart)

(政府) 日耳曼帝は、又普魯士王にして、宣戰講和の權を有す、然れども進んで戰を爲さんとするときは、必ずや聯邦議會の協賛を経るを要す。議會には二種あり、聯邦議會及び帝國議會是なり、第一の議員は、各州より選出し、第二のものは人民より選出す。

一、帝は陸軍の大元帥あり、陸軍は平時凡そ五万を備ふ、然れども戰時に在ては、熟練の兵士二百五十万を出すを得べく、苦し又外敵帝國内に攻め入りたるときは、精兵及び其他のもの、合して六百万に上るべし。

二、海軍は、十四艘の甲艦艇其他多くの大小軍艦砲船水雷火艇等より成る。

(宗教及び教育) 全帝國に於て、人民の殆ど百分の六十三は、新教徒重に、ルーテル宗にして、殆ど百分の三十六は、舊教徒なり、教育は國を通して強迫主義にして、獨逸人民は概して世界中最も教育あるものなり、國內大學二十一あり、皆盛大なり。

一、獨逸中教育最も盛なる部分は、北部にして、北獨逸に於ては、讀み書きする能はざるもの百分一より少しと云ふ。

二、最大なる大學は、ベルリンに在り、生徒の數殆ど四千五百あり。

(性質) 獨逸人は概して正直勇敢、勤勉愛國の情に富める人民なり、人口及び富の

進歩甚だ速にして、其陸軍は世界第一なりとす。

(國語) 獨逸語は、英語と全種にして、書籍には上日耳曼語を用ふ、英語は下日耳曼語の一種なり、獨逸語は頗る純粹にして、英語は頗る羅匈及び佛蘭西の言語と相混せり。

(殖民領地) 日耳曼帝國の領地は、亞弗利加の東岸に於ては、殆ど十方哩あり、尙其西海岸及西南海岸に於て領地の擴張に盡力せり、ニューギニア (New Guinea) の北方に於ては、殆ど七方哩の地、及び太平洋中のビスマーク群島 (Bismark Archipelago) 亦其版圖に入る。

(大都府) 日耳曼帝國には、人口五万以上の都府五十三あり、此中拾万以上のもの廿六あり。

普魯士

(普魯士) 普魯士は日耳曼第一の強國にして、世界第一の陸軍國なり、然れども亦其人民頗る勤勉忍耐にして、農工商鐵業に従事せり、其面積日耳曼帝國の三分二を占め、人口其五分三を有す。

(人口及び産業) 人口三千万あり、其百分七十五は、農業に従事せり、製造業は重に木綿麻布羊毛及び絹なり、ダンテツヒ及びスタッテン(Stettin)は主要なる海港なり。

(區劃) 普魯士は十二州に分る、其重なるものを擧ぐれば、(一)東普魯士(二)西普魯士(三)シレシヤ(四)ブランデンブルヒ(Brandenburg) (五)サクソニー(六)來因普魯士(七)ヘッセナッソー(Hesse-Nassau)等是なり。

(大都府) 普魯士は、獨逸中人口最も多き處にして、又最も大なる都府を有する所なり。此國には人口拾万以上の都府十三あり、其中最も大なるものをヘルリンゲン、ブラウコロン、フランクフルト、コニグスベルヒ(Königsberg)、ハノーバー(Hanover)、デュッセルドルフ(Düsseldorf)及びダンテツヒの八とす。

ヘルリン(人口百五十万)は、日耳曼帝國の首府にして、荒涼なる砂原に立てり、雖も、商業上の地位第一たり、即ちマルチャック及び黒海の商權を握り、スタッテン(Stettin)の海港

と見做すを得べきもの及びハーレン間、ハンブルヒ及びブレスラウ間の鐵道の中心にして、又エルベ河、ナイデル河及び其流域の商權を握れり。要之此府は大商業府なり、大製造府なり、又皇居の在る處なり、大學の在る所あり。

巴威里

(巴威里) 巴威里は其廣袤及び其人口に於て、獨逸諸邦中第二に位す、大さは薩格蘭と伯仲の間に在り。

(地勢) 此國は、主として丘陵山嶽を以て横斷せられたる高原より成る、概ねダニエー川の流域に在り、只北部はメイン川の流域に屬す、土地の一半は耕作に供せられ、六分一は雜草繁茂し、殘は葡萄森林を以て蔽はる、此國は繁盛なる農業國なりとす。

(人口及び産業) 人口凡そ五百五十万あり、其一半は農業に従事し、百分の廿八

は製造業礦業其他の事業に従事せり、鐵道の延長殆ど三千三百哩あり。

(大都府) 巴威里にては、其人民多くは田舎に住して、勞働するが故に、大都府甚だ少く、五萬以上の都府唯四あるのみ、ミニューニヒ (Munich) ニューレンバ (Nuremberg) アウグスベルヒ (Augsburg) 及び ウルツメルヒ (Wurzburg) 是なり。

サクソニー

(サクソニー) サクサニー王國は、獨逸諸州中第三に位す、蘇格蘭の五分一にも及ばざる小國なれども、其人口は殆ど之と同じ。

(構造) 其形狀三角形を爲し、重に エルツゲビルグ 山の北方長斜面より成る、其斜面は獨逸大平原に向て、徐々に下るものなり。

(人口及び産業) 人口凡そ三百廿五萬あり、獨逸にて人口最も稠密なる處なり、此國の重なる産業を、工業農業礦業飼羊業等にして、人民の三分の二は、工業に従事

せり。

一、人口平均一哩に付、五百四十三人の割あり。

二、採掘の多き礦物を銀とす、毎年に出す所のもの千万、磅餘なりと云ふ。

(大都府) サクソニーにては、人口四万以上の都府四あり、此中十万以上のもの三あり、ドレスデン (首府) ライプツヒ (Leipzig) 及び ケムニッツ 是なり。

ウルテンベルヒ

(ウルテンベルヒ) 其大さ蘇格蘭の四分一にして、人口二百萬あり。

(地勢) 此小國は、二斜面を有す、一は北方斜面にして、ネッカー (Neckar) 流域に屬するもの、一は南方斜面にして、ダニエーブ 流域に屬するもの是なり、兩斜面の間、險しき山脈あり、農夫呼で ラウヘアルプス (Raube Alps) と稱す。

(産業) ウルテンベルヒ は、穀田葡萄園花木園多く、面積の五分三は耕作に付せり。

故に農業は重なる産業とす、其他又幾分の木綿紡績或は鑛業あり。

(都府) 人口二十万以上の都府四、其中三万以上のもの二あり、一をstattガートと云ひ、一をウルム(Ulm)と云ふ。

バーデン

(バーデン) バーデン大公國は、ラインの右岸に沿ひ、コンスタンスよりマンハイム(Mannheim)に至る、サクソニーより少しく大なれども、人口其一半に過ぎず。

(地勢) 概して云へば、國は二部より成る、一はラインの豐饒なる谷にして、一はブラックフォレストなり。

(人口及び産業) 人口百五十万餘あり、重なる産業を農業及び林業と爲す、耕地及び森林は面積殆ど相均し。

(大都府) 人口二萬以上の都府五あり、内六万以上のもの二あり、カールスルー

エ及びマンハイム是なり、有名なる礦泉場バーデンバーデン(Baden-Baden)は、夏時に於ては人口甚だ多しとす。

劣等なる大公國及び公國等

(ヘッセ) ヘッセ大公國は、メイン河の南北に跨り、殷富なる小農業國なり、人口二万以上の都府四を有す、其二大府をメーエンス(Mayence)及びダルムスタットと爲す。

(メクレンブルヒシユウエリン) 此大公國は、バルチックに臨み、豐饒なる小農業國にして、人口甚だ少なきも、皆勤勉なりとす、二大府をロストック(Rostock)及びシユウエリンと爲す。

(サクソウイマー) 此大公國は、獨逸の中央ツリーニンギアに横はる、首府をワイマーと爲す、美麗なる小都府にして、獨逸の大詩人大學者なるゲーテ(Goethe)は數年此に住し、千八百三十二年此に死せり。

(オルデンブルグ) オルデンブルグ大公國は、北海に面し、三面ハノーバーに接す。首府をヲルデンブルヒと爲す。

(ブロンスウツク) ブロンスウツク公國は、ハノーバー及び普領サクソニーの小部を占む。首府をブロンスウツクと爲す。人口八万八千あり。商業甚だ盛なり。この公國は鐵道の延長二百六十五哩あり。

(サクスコプブルグゴタ) 此小公國は、ツリーンギアに在り。二小都をゴタ(人口三万及びヒコブルグ(人口一万八千)とす。鐵道百十哩に過ぎず。

(アルサスローレイン) アルサスローレイン州は、千八百七十一年の戰爭にて、佛國より取れる所のものなり。アルサスはラインの左岸に在りて、バーデンと相對す。ローレインは、サール(Saar)及びモゼル(Moselle)兩河の間に横はる。二州に於ける三大都府をストラスブルヒ(人口十二萬)ミュールンツゼン(Mulhausen)及びメツ(Metz)と爲す。

丁抹

(緒説) 丁抹は歐洲に於て最も貧弱なる小國にして、又最も人口少き國なりとす。(境界) 丁抹は三面海に接す。

一、北 スガカーラック(Sagerrack)海峽

二、東 カテガット(Cattegat)海峽、サウन्द(Sound)海峽及びバルチック海

三、南 バルチック海、リットルベルト海峽(Little Belt)及び獨逸のスレスウツク(Schleswig)海

四、西 北海

(廣袤及び形狀) 丁抹はジユットランド(Jutland)の一小半島及び群島より成る。其群島の最も大なるものをジールランド(Zealand)と爲す。面積合して一万四千二百二十四哩あり。

歐洲に於て北方に突出する半島は、唯ジユットランドあるのみ。

(海岸線及び斜面) 所々にフィオールド(Fjord)と稱する長さ入江あり。海岸線の總長五千哩に達す。獨逸洋に向へる斜面は短く、バルチック海に向へる斜面は甚だ

長し。

(表面) 丁抹は土地低く、但し凸凹波濤の状を爲せり。丁抹は實に歐州大平原の北端なり。國の最も高き所をヒンメルベルグ(Himmelberg)と爲す。海面より高きこと五百呎に過ぎず。

(岬、フィオールド及び海峡) 重要なる岬としては、唯スコー岬(Skagv Cape)の一あるのみ。ジュットランドには、ノルウェーの如く、フィオールド多し。其最も長きものをリムフィヨールド(Lymfjord)と爲す。海峡の重要なものは、サウンド、グレートベルト(Great Belt)及びリットルベルトなり。

一、那威のフィオールドは、高き巖壁兩側に峙ち、其或るものは六千呎の高きに達す。然るにジュットランドに於るものは、其岸低し。

二、サウンドは、那威とジュットランドとの間にあり。グレートベルトは、ジールランド及びフーチェン(Funen)の間。リットルベルトは、フーチェンとジュットランドの間に在り。

(島嶼) 丁抹の島嶼は、ボーンホルム(Bornholm)を除くの外は、互に相接近し、殆どバルチック海の入口を塞げり。其最も大なるものをジールランドと爲し、フーチェン之に

次ぎ、ラーランド(Laaland)又之に次ぎ、其他小島頗る多し。

(河川及び湖沼) 土地狭くして、大河なく、重要なものとしては、唯グデナー(Gudenaa)の小流あるのみ。長さ殆んど九十哩あり。湖沼は頗る多し。

(氣候) 丁抹の氣候を知らんと欲せば、先づ次の三者に注意すべし。(一)遙か北方に位すること。(二)土地低きこと。(三)何れの處にても海に近きこと。是なり。而して國は、東西歐羅巴の間に位し、二者の氣候を分有す。其氣候、夏時に於ては英蘭より熱く、冬時に於ては、是より寒し。

(植物) 森林は概ね樺木より成る。最良の雜草甚だ多し。又穀産地として、丁抹は英國、白耳義と伯仲の間に在り。主要なる穀物を燕麥となし。大麥、小麥、裸麥之に次ぐ。人民の一半は農業を務む。

一、丁抹は其人口に比して、穀物の産出多きこと、歐州第一とす。

二、牛馬飼養は此國の重なる産業にして、牛馬の數頗る多し。蓋し牧場に富めるに由る。

(動物) 野獸及び野禽は、中央歐洲に於けるものと同じく、四足獸の大なるものは既に其跡を絶てり。

(礦物) 礦物の點に於ては、丁抹は歐洲最貧國の一なり、此國石炭の少量を産し、鐵礦なく、又貴金屬なし、唯だ陶器製造に供すべき粘土に富めり。

(製造) 丁抹に於て有名なる工業を陶器製造となす、麻布毛布及び木綿製造は唯一地方の消費に供するのみ。

(商業及び海港) 丁抹の輸出の最大なるものを牛酪と爲し、牛馬及び豚之に次ぐ。

一英國は此國第一の取引先にして、獨逸之に次ぎ、瑞典、那威、又之に次ぐ。

二海港の重要なるものをコペンハーゲン (Copenhagen) オルデンボルグ (Aalborg) アールフス (Århus) 及びアールホルツ (Aarhus) となす。

(首府) 首府をコペンハーゲンとす、人口三十八万あり、此國唯一の大都府唯一の製造府なり、大學及び造兵局此地に存す。

(其他の都府) コペンハーゲンに次いで、アールフス (三万五千) 及びオデンシー (Odense) 三万の二府あり、オデンシーはフリーチンの首府にして、アールフスはカチガットに於ける重要な港なり。

(鐵道及電信) 丁抹に於る鐵道の延長、殆ど千三百哩あり、ジッットランドに於ては南北に走り、島嶼に於ては、東西に亘り、以て直角を成せり、又電信線の總長三千六百哩あり。

(人口) 丁抹の人口は二百万あり、平均一方哩に付百四十五人に當る。
(人種及び性質) 丁抹人は、那威、瑞典人と同じく、「チユートン」種の「スカンデナヴィヤ」派に屬す、其毛髮黄色にして、眼は青く、身長普通なり、其感情行爲頗る獨立にして、十分の教育を有す、此人民は又瑞西人の如く最も節儉なり。

(國語) 丁抹語は英語に酷肖せり、好んで子音を多用す。

(政府) 丁抹は立憲政体なり、其國會は元老院と衆議院とより成る。

(教育) 丁抹の教育は甚だ盛にして、大都府に於ては、善美なる神學校、技藝學校あり、村落に在ては善美なる小學校あり。

(外國領地) 丁抹は北太西洋に於るアイスランド、フンロー諸島 (Faroe Islands) 西印度に於る二島及びグリーンランド (Greenland) の海岸に於る二三の殖民地を有せり。

アイスランドは丁抹を去る殆ど千六百哩に在る大島にして其大さ丁抹に三倍すれども人口はコペンハーゲン（Copenhagen）の四分一に過ぎず内地には火山多く其數二千有餘あり最も高きものをオラエフワッセローカヤ（Oraefell）とす六千四百十呎なりされど有名なるはハクタラ（Hekla）山にして高さ六千呎なり其噴火を止めたるは千八百七十五年なりとす又此島の湧泉は久しく世に知らる其大湧泉の如きは噴出の高さ六十呎に及ぶと云ふ此島の首府をレイキヤビク（Reykjavik）とす木造家屋より成れる一村落にして人口凡そ三千あり全島内樹木穀物皆生せず唯馬鈴薯及び少許の菜蔬を産するのみ

スカンヂナビヤ

（緒説） スカンヂナビヤハバルチック海の一端に起り西に行くに従ひ次第に高くなり遂に峭壁直下して海に落つ而してバルチック海に向へる斜面を瑞典となし急に大西洋に下るものを那威と爲す無数の島嶼此半島の西岸に羅列せり

（海角） 那威の最北點をノードキンと爲す又大陸中の最北點なり歐洲の最北點

はマゲロイ島端の北海角なり那威の最南點をチーズ岬（Sundnes）と爲す

（形状及び廣袤） スカンヂナビヤは歐洲最大最長の半島にして緯度十六度に擴がる其中六度は北極圏中に在り此半島北部及び中部に狭く南に至るに従ひ廣し伊太利と同じく南に於て二に分る面積總計三十万方哩あり英蘭及び威勒士の五倍より多し

（地勢） 半島全く高原にして南方に至るに隨ひ其高度を増す此半島には真正に山嶽と稱すべきものなく唯處々に岩石の地面より高く聳ゆるが如きあるのみ此半島の短き斜面を那威と爲し長き斜面を瑞典とす那威は高原山嶽の狭き地方にして瑞典は斜に下る大平原の廣き土地なり那威は一の高原一の山塊にして處々に深き峽路裂罅及び兩岸岩石を以て圍めるフイオールドあり瑞典は中央部の或る地方は高原にして其他は長き低き平原なり故に瑞典の河川は皆長くして大なり那威の河川に至りては瀑布をなして深きフイオールドに直下す

（海岸線） 那威海岸には二個の特色あり一フイオールドとて海水の深く陸地に侵

入したるもの、(二)海岸に無数の島嶼羅列せること、是なり。島嶼の最も有名なるものを那威海岸にてはヤンオデン諸島(Lofodens)と爲し、瑞典にてはゴットランド(Gotland)及びオーランド(Oland)と爲す。海岸線未だ測量を経ざれども、那威に於ける海峡の航行し得べきもの、みにても既に壹万二千哩あり。

(臺地及び山嶽) スカンデナビヤの臺地にて有名なるものを、ドープルフィールド(Doverfield)ランゲンフィールド(Langefield)及びハルダンガーフィールド(Herdanger field)と爲す。ドープルフィールドの北に在りて、高地の長く連れるものをキール(Kiel)或はキョレン(Kiölen)と稱す。

臺地の中、最も高き部分は六十度乃至六十三度の間に在り、故に最も高き山嶽も、亦其中に在りて、此山嶽は普通スカンデナビヤのアルプスと稱せらる。最も高き嶺をガルドハーピーツ(Galdhøpigge)と爲す、高さ八千四百呎にして、那威のジャーツンフィールド(Junfield)に在り。

(河川) スカンデナビヤの河川は、皆其水量の多きを以て、有名なり。主要なるものをグロムメン(Glommen)ゴタ(Gota)ダム(Dal)及びトルネア(Tornea)と爲す。瑞典の河

川は皆相平行し、直にバルチックを指して流る。

(湖水) 瑞典は湖水頗る多く、河川皆其進流中に大湖を有せざるものなし。大湖は重に南方に在り、ウーネル(Wener)ウツテル(Wetter)及びメーラー(Melar)は其三大湖なり。ミオセン(Miosen)は、那威の最大湖なり。此等の湖は、皆百日乃至二百日間、氷結するものとす。

(氣候) 此半島の西海岸は、灣流より暖氣を受くるを以て、港灣の氷結するものなし。其緯度の高き此の如くにして、其氣候の温暖なるは世界其類を見ず。那威瑞典間の高原は、大西洋より吹き来る温潤の風を遮るを以て、瑞典海岸は乾燥寒冷にして、稍大陸的氣候を有す。内地に至りては、夏甚だ短く、冬甚だ長し。西海岸は夏時涼しく、冬時温和なり。

(植物) 瑞典の一半及び那威の四分一は大抵森林を以て蔽はる。高原に於ては、主として蘚苔及び灌木あり。松柏樺木類は北方に産し、秦皮榆は中部に長し、樅、山毛櫸、菓樹は南方に在り。小麥は北方六十三度に至るまで、燕麥は六十八度、大麥は七十度に至るまで生長す。瑞典に於て、耕地は僅に百分七に過ぎず。那威に於て最も豊饒な

る地方は、オセー湖の周囲なりとす。

(動物) 松柏の大森林には今尙狼大野猫熊の如き動物棲住せり。然れども其數速に減少に向へり。馴鹿は高原地方に群を成し、麋鹿は瑞典に甚だ多し。鷲鷹鵝雁の類亦あり。其他無數の海鳥は、那威の岩石島に棲り。

(礦物) 瑞典は鐵礦に富み、其質甚だ好し。亞鉛銅及び少量の銀、亦採掘せらる。石炭の産出は夥しとす。那威は礦物少く、只少量の銀銅鐵を産するのみ。

(産業) 重なる産業は、瑞典に在ては農業、那威に在ては航海漁業とす。之に次ぐものは、瑞典にては礦業、那威にては農業にして、兩國共に必要なる職業を森林業とす。

(商業) 瑞典は、主として材木金屬及び穀類を輸出し、木綿毛布及び珈琲砂糖を輸入す。那威は、主として材木魚類を輸出し、穀類及び各種の製造品を輸入す。

(鐵道及び電信) 瑞典は、其人口に比して、鐵道甚だ長く、反之、那威は、歐洲中最も人口稀薄の國にして、鐵道の延長甚だ短し。瑞典は、其延長二千哩に及び、那威は、千哩に足らず。又電信線は、瑞典に於ては、壹萬三千哩にして、那威に於ては、壹萬哩なり。

(人口) 瑞典は、面積十七萬一千方哩にして、那威は、十二萬三千方哩あり。スカンヂナビヤは、魯西亞に次で、歐洲の最大國なり。瑞典は、人口四百五十萬餘にして、平均一方哩二十八人の割合なり。那威は、人口凡そ二百萬にして、平均一方哩唯十八人に當るのみ。

(瑞典の都府) 瑞典には、人口五萬以上の都府僅に二あるのみ。ストックホルム(Stockholm)及びゴテンブルグ(Göteborg)是なり。人口三萬以上のもの三あり、マルモー(Malmö)ノルカーエング(Norrköping)ゲッセル(Geille)是なり。ストックホルムは即ち首府にして、メーラル(Maelar)湖口に立ち、九島に跨り、其風光絶佳なるを以て、北方ベニスニの稱あり。

(那威の都府) 那威に於ては、人口十萬以上の都府僅に一あるのみ。首府クリスタニア(Christiania)是なり。ベルゲン(Bergen)之に次ぐ。其他二萬以上の都府三あり、トロンジエム(Trondjem)スタバンガー(Savanger)ドラムメン(Drammen)是なり。ハンメルフェスト(Hammerfest)は歐洲最北の都府なり。

(政体) 瑞典那威は、各獨立にして、各其議會を有せり。但し一王の下に立つ。

一、二國各別に陸海軍を有す、王と雖も唯此國より彼國に三千人の軍卒を送るを得るのみ。

二、王はストックホルムに住すれども憲法に由り、一年の中數日を那威に費し、政務を行ふことあり。

(宗教及び教育) 兩國共にルーテル新教なり、又瑞典は卓越なる公立學校を有し、就學兒童の數百分の九十四に及ぶ、那威は此の如くならず、然れども、人民大抵讀み書きすることを得べし、瑞典に二大學あり、那威に一大學あり。

(國語) 二國語共に英語、獨逸語、和蘭語と全體に屬す、瑞典語と那威語は其母音及び子音に於て大に異なる所あり、然れども本質上同語なりとす。

(性質) 那威人は甚だ禮儀ありて、親切義侠の人民なり、瑞典人も亦其性質甚だ懇篤丁寧にして能く勉め且節儉なり、二國民の弊と稱すべきは、大酒に在り。

魯西亞

(緒説) 魯西亞は、南方の暖海より、北方の氷海に擴かれる大平原にして、一方よりは寒風を受け、他方よりは暖風を受け、概ね平坦にして、所々に低き丘陵起伏し、又澤地あり、至る處大圓形に曲折する河川縱横に流る、要之此國たる廣き平原、森林湖沼及び河川より成れる土地なりとす。

(境界) 魯西亞の境界左の如し。

一、北 北氷洋

二、東 ウラル河、ウラル山、及びカラ(Kara)河

三、南 黒海、高加索山、及び裏海、 四、西 瑞典、バルチック海、普魯士、奧地利、

(商業上の地位) 魯西亞は、北洋に臨み、又南方の大海に接するを以て、商業上有爲の地位に在り、然れども其地位の利益たる、内地各部との商業に止り、外國貿易に及ばざるなり、此國は大西洋及び地中海に濱したる海港を有せず。

(廣袤) 魯西亞は、波蘭及びフィンランド(Finland)を合し、面積二百〇九万方哩餘あり、南北二千四百哩、東西千八百哩に及ぶ。

(地勢) 魯西亞は、一の廣野にして、歐洲大平原の東部を爲す、一の高原、國の中間を